

資料

## 地域創生に資する商業教育の在り方について

平成28年10月

全国商業高等学校長協会

## 目 次

はじめに .....	1
I 地域創生における商業高校の現状について .....	2
II 地域創生におけるこれからの商業高校像 .....	20
III 地域創生に資する商業高校生の育成について .....	32
IV 各都道府県の動向 .....	50
まとめ .....	58
資料 本部提案テーマ一覧 .....	59

はじめに

平成25年度から実施されている現行学習指導要領では、21世紀を「新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』の時代」と認識し、この時代をより良く生きるための「生きる力」として、「基礎的な知識・技能」、「課題解決に必要な思考力・判断力・表現力などの能力」、「主体的に学習に取り組む態度」の、いわゆる学力の三要素のバランスの取れた「確かな学力」の育成を目指し、体験活動や言語活動などを重視した教育課程を実施するよう求めています。文部科学省中央教育審議会の教育課程企画特別部会が平成27年8月に発表した「論点整理」では、この取り組みに一定の成果を認める一方、学習指導要領の次期改訂の課題として、グローバル化や情報化をはじめとした社会の加速的変化を前提に、将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会の中で求められる力の育成を各教科の授業まで浸透させ具体化していくことを強く求めています。

全商協会では、このような、文部科学省の教育課程改善の動向や論点を踏まえつつ、学校現場で商業教育を実践しその活性化に資する視点から学習指導要領の改訂に当たっての課題や改善策を提言すべく、「次期学習指導要領改訂に向けて－現行学習指導要領に基づく教育課程（商業）の実施状況と課題 そのⅠ－」（平成26年10月）、「同－そのⅡ－」（平成27年5月）、「学習指導要領改訂への提言（中間まとめ）」（平成27年10月）、「学習指導要領改訂への提言」（平成28年4月）と、アンケートに基づく考察や意見集約を重ねて参りました。これらの中では、「変化の激しい社会」において商業教育が育成すべき力として、「豊かな人間性」、「コミュニケーション能力」、「ビジネス探求力」、「情報活用能力」、「会計能力」を掲げるとともに、時代の進展に対応し、社会の期待に応えるために今後取り組むべき改善の視点として「グローバル化」、「高度情報化」、「サービス経済化」、「知識基盤社会」、「地域創生」、「社会貢献」、「起業家精神」といったキーワードが上げられています。そこで、今回の本部提案では、各学校が現行学習指導要領の趣旨の具体的な達成を目指しつつ、将来を見据えた課題解決を図ることに資するテーマを、これらのキーワードの中から選ぶことにいたしました。

「学習指導要領改訂への提言」に係るアンケート調査では、多くの学校が、体験活動、言語活動の重視と言った学習指導要領の趣旨を実践する取り組みとして、商品開発、販売実習、国際交流、模擬株式会社の運営、地元のイベントへの参加や地域の活性化活動への参画など、多様な活動を実践し、起業家精神や勤労観・職業観の育成といった成果を上げていることが確認できました。これらの多くは地域の支援を受けた取り組みであり、多くの学校が今後も地域との連携を推進する必要性を認識しています。

一方、教育改革に係る文部科学省答申や政府の教育再生実行会議答提言等では、学校と地域が個別に連携するだけでなく、学校を地域コミュニティの核とすることによって、地域創生のエンジンとして積極的に活用しようとする提言も示され、教育改革の大きなテーマともなっています。このような動向を踏まえると、商業高校の実施している地域連携も単に地域の支援を受けるだけでなく、積極的に地域創生に資する取り組みの重要性が増し、その意義や目的、活動内容がさらに多様化することが予想されます。そこで、現時点での全国の商業高校の地域連携の実態を調査・分析するとともに、地域創生という視点での今後の取り組みや実施上の課題等に関する意見・認識を集約することにより、今後、地域創生に資する商業教育の在り方を明確にし、この分野の取り組みを推進するための第一歩とすることといたしました。アンケートの結果、現時点においても、各学校が行っている地域連携の取り組みは実に多様で、また、その意義や目的も各校が置かれた地域性によって異なることが改めて明らかになり、今回の調査に基づくデータだけでは十分に分析、考察が行き届かない課題が多数ありますが、各学校におかれましては、全国の多様な取り組みをご確認いただくとともに、今後、全国の会員校と共に、このテーマの考察を深めるための資料としていただければ幸いです。

なお、本稿では「地方創生」について、「地方」という言葉が、特定の条件を持った地域を指すとの誤解を避け、全国すべての学校がその地域の活性化に資することを目的とする視点から、国の答申等を引用する場合を除いては、「地域創生」として取り扱うことといたしましたことを申し添えます。

地域創生における商業高校の現状を把握するため、平成28年度全商協会会員校のうち、商業に関する学科を設置する全日制の高等学校でアンケートを実施した。本アンケートは、連絡理事校を含む各都道府県2校に対して実施したが、北海道、埼玉県、愛知県、兵庫県、岡山県、福岡県は、連絡理事校を含む3校で実施し、100校から回答を得た。

アンケートは、[1]地域創生における商業高校の現状について(問1～問7)、[2]地域創生におけるこれからの商業高校像(問1～問5)、[3]地域創生に資する商業高校生の育成について(問1～問5)、[4]各都道府県の動向(問1～問4、ただし連絡理事校のみ回答)で構成されている。

## I 地域創生における商業高校の現状について

問1 平成28年3月に貴校を卒業して就職した生徒のうち、就職者は全体の何%ですか。  
また、就職者のうち、同一都道府県の企業等へ就職した生徒の割合は何%ですか。  
(小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの数値を記入)

	就職率	同一都道府県の企業等へ就職した者の割合
平均	42.9 %	79.4 %

ア 就職者の割合(%)について(都道府県順)

平成28年3月に卒業した生徒の就職者の割合は以下のとおりで、都道府県順に示す(未回答1校あり)。

表1 都道府県別の就職率

割合	都道府県・学校	各地方の平均	割合	都道府県・学校	各地方の平均	割合	都道府県・学校	各地方の平均
40.1	北海道A	49.9	18.2	新潟A	41.4	30.1	鳥取A	42.8
53.6	北海道C		29.3	新潟B		39.9	鳥取B	
56.1	北海道B		41.9	富山A		32.8	鳥根A	
43.4	青森A	35.3	富山B	49.4		鳥根B		
47.8	青森B	56.3	石川A	28.5		岡山A		
54.6	岩手A	49.7	石川B	44.8		岡山B		
49.6	岩手B	38.7	福井A	48.6		岡山C		
39.7	宮城A	23.6	福井B	39.7		広島A		
47.1	宮城B	37.1	長野A	48.7		広島B		
55.7	秋田A	38.4	長野B	43.8		山口A		
38.9	秋田B	56.1	静岡A	64.1	山口B			
50.9	山形A	50.9	静岡B	20.9	香川A			
32.1	山形B	48.7	愛知A	25.1	香川B			
37.7	福島A	51.4	愛知B	48.9	徳島A			
60.0	福島B	53.8	愛知C	69.6	徳島B			
41.6	茨城A	27.0	岐阜A	22.6	愛媛A			
54.2	茨城B	47.1	岐阜B	61.7	愛媛B			
45.5	栃木A	60.0	三重A	17.0	高知A			
38.1	栃木B	42.0	三重B	22.9	高知B			
37.9	群馬A	34.3	滋賀A	38.8	福岡A			
40.6	群馬B	50.2	滋賀B	43.7	福岡B			
44.7	埼玉A	23.5	京都A	69.6	福岡C			
55.3	埼玉B	14.8	京都B	47.2	佐賀A			
55.2	埼玉C	52.3	大阪A	59.7	佐賀B			
27.4	千葉A	30.9	大阪B	46.4	長崎A			
44.5	千葉B	33.5	兵庫A	54.4	長崎B			
64.6	山梨A	58.1	兵庫B	40.9	熊本A			
42.7	山梨B	50.0	兵庫C	48.5	熊本B			
43.1	東京A	40.4	奈良A	48.1	大分A			
60.1	東京B	25.6	奈良B	28.0	宮崎A			
37.6	神奈川A	44.0	和歌山A	55.8	宮崎B			
11.9	神奈川B	22.0	和歌山B	48.2	鹿児島A			
				49.4	鹿児島B			
				28.1	沖縄A			
				41.5	沖縄B			

### <考察>

全国各地を、8地方区分を参考に、北海道地方(北海道 1道)、東北地方(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島 6県)、関東地方(東京、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、山梨 1都7県)、中部地方(新潟、富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知 8県)、近畿地方(京都、大阪、三重、滋賀、兵庫、奈良、和歌山 2府5県)、中国地方(鳥取、島根、岡山、広島、山口 5県)、四国地方(徳島、香川、愛媛、高知 4県)、九州地方(福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄 8県)に分けて分析した。

商業高校を卒業した生徒の就職率の平均は42.9%であり、全国平均で4割強の生徒が就職している。8地方のうち、平均より就職率が高い地方が4、低い地方が4という結果になった。就職率が高いのは、北海道地方の49.9%、九州地方の46.8%の順であるが、最も低い四国地方でも36.1%と、地域により、極端に就職率が高い・低いという傾向は見られない。また、同じ四国地方でも、就職率が高い徳島県で69.6%、低い高知県で17.0%というように、学校の実態によって就職率が大きく異なることが分かった。※「8地方区分」は、明治37年国定教科書「小学地理」に記載され、それ以前の地方区分である「五畿七道」に変わって利用されている地方区分のひとつである。

イ 就職者の割合(%)について(就職者の割合の高い順)

平成28年3月に卒業した生徒の就職者の割合を高い順に並べ替えたものを以下に示す(未回答1校あり)。

表2 就職率の高い順

割合	都道府県・学校
69.6	徳島B
69.6	福岡C
64.6	山梨A
64.1	山口B
61.7	愛媛B
60.1	東京B
60.0	福島B
60.0	三重A
59.7	佐賀B
58.1	兵庫B
56.3	石川A
56.1	北海道B
56.1	静岡A
55.8	宮崎B
55.7	秋田A
55.3	埼玉B
55.2	埼玉C
54.6	岩手A
54.4	長崎B
54.2	茨城B
53.8	愛知C
53.6	北海道C
52.3	大阪A
51.4	愛知B
50.9	山形A
50.9	静岡B
50.2	滋賀B
50.0	兵庫C
49.7	石川B
49.6	岩手B
49.4	島根B
49.4	鹿児島B
48.9	徳島A

割合	都道府県・学校
48.7	愛知A
48.7	広島B
48.6	岡山C
48.5	熊本B
48.2	鹿児島A
48.1	大分A
47.8	青森B
47.2	佐賀A
47.1	宮城B
47.1	岐阜B
46.4	長崎A
45.5	栃木A
44.8	岡山B
44.7	埼玉A
44.5	千葉B
44.0	和歌山A
43.8	山口A
43.7	福岡B
43.4	青森A
43.1	東京A
42.7	山梨B
42.0	三重B
41.9	富山A
41.6	茨城A
41.5	沖縄B
40.9	熊本A
40.6	群馬B
40.4	奈良A
40.1	北海道A
39.9	鳥取B
39.7	宮城A
39.7	広島A
38.9	秋田B

割合	都道府県・学校
38.8	福岡A
38.7	福井A
38.4	長野B
38.1	栃木B
37.9	群馬A
37.7	福島A
37.6	神奈川A
37.1	長野A
35.3	富山B
34.3	滋賀A
33.5	兵庫A
32.8	島根A
32.1	山形B
30.9	大阪B
30.1	鳥取A
29.3	新潟B
28.5	岡山A
28.1	沖縄A
28.0	宮崎A
27.4	千葉A
27.0	岐阜A
25.6	奈良B
25.1	香川B
23.6	福井B
23.5	京都A
22.9	高知B
22.6	愛媛A
22.0	和歌山B
20.9	香川A
18.2	新潟A
17.0	高知A
14.8	京都B
11.9	神奈川B

<考察>

最も就職率が高い徳島県B校と福岡県C校が69.6%の就職率、最も低い神奈川県B校の就職率が11.9%と、57.7%もの開きがあり、学校の実態によって就職率が大きく異なることが分かる。就職率の平均42.9%より高い都道府県の数はいずれも53校、低い都道府県の数はいずれも46校となった。

ウ 同一都道府県の企業等へ就職した生徒の割合(%)について(都道府県順)  
 平成28年3月に卒業した生徒の就職者のうち、同一都道府県の企業等へ就職した生徒の割合は  
 以下のとおりで、都道府県順に示す。

表3 同一都道府県企業への就職率

割合	都道府県・学校	各地方の平均	割合	都道府県・学校	各地方の平均	割合	都道府県・学校	各地方の平均
97.6	北海道A	98.3	87.5	新潟A	91.1	93.0	鳥取A	85.8
98.4	北海道C		90.9	新潟B		30.9	鳥取B	
98.9	北海道B		87.5	富山A		89.1	鳥根A	
67.7	青森A	98.8	富山B	63.6		鳥根B		
76.0	青森B	98.7	石川A	98.0		岡山A		
54.6	岩手A	100.0	石川B	94.8		岡山B		
59.3	岩手B	100.0	福井A	91.7		岡山C		
95.9	宮城A	77.1	86.4	福井B		94.3	広島A	85.1
90.3	宮城B		97.7	長野A		97.8	広島B	
59.0	秋田A		95.3	長野B		95.7	山口A	
80.7	秋田B		98.1	静岡A		95.0	山口B	
69.0	山形A		50.3	静岡B		100.0	香川A	
93.2	山形B		98.5	愛知A		100.0	香川B	
89.9	福島A		98.4	愛知B		85.3	徳島A	
90.0	福島B		99.4	愛知C		62.5	徳島B	
91.4	茨城A		80.3	70.1	岐阜A	98.7	愛媛A	67.8
95.4	茨城B			78.1	岐阜B	86.6	愛媛B	
99.2	栃木A	97.0		三重A	81.8	高知A		
87.8	栃木B	79.8		三重B	65.6	高知B		
97.5	群馬A	72.6		滋賀A	87.8	福岡A		
87.7	群馬B	45.9		滋賀B	42.6	福岡B		
70.6	埼玉A	98.6		京都A	81.3	福岡C		
76.9	埼玉B	92.9		京都B	74.6	佐賀A		
49.2	埼玉C	100.0		大阪A	67.5	佐賀B		
54.5	千葉A	99.8		大阪B	79.6	長崎A		
74.1	千葉B	94.3		兵庫A	44.6	長崎B		
98.6	山梨A	38.7		兵庫B	72.2	熊本A		
95.8	山梨B	94.3		兵庫C	38.0	熊本B		
96.5	東京A	46.0		奈良A	91.7	大分A		
59.7	東京B	44.0		奈良B	35.0	大分B		
91.9	神奈川A	78.6	和歌山A	86.0	宮崎A			
37.5	神奈川B	92.8	和歌山B	62.3	宮崎B			
				49.0	鹿児島A			
				90.6	鹿児島B			
				80.9	沖縄A			
				69.7	沖縄B			

＜考察＞

商業高校を卒業し、同一都道府県の企業等へ就職することは、地域活性化に大きく資することであると考えられる。平成28年3月、商業高校を卒業し、同一都道府県の企業等へ就職した生徒の割合は、全国平均で79.4%であった。北海道地方の98.3%が最も高く、北海道の商業高校を卒業して就職する生徒の大部分は、北海道内の企業等へ就職している。反対に最も低い九州地方は、67.8%であり、就職者10名のうち3名以上が県外の企業等へ就職している計算になる。

- エ 同一都道府県の企業等へ就職した生徒の割合(%)について(割合の高い順)  
 平成28年3月に卒業した生徒の就職者のうち、同一都道府県の企業等へ就職した割合を  
 高い順に並べ替えたものを以下に示す

表4 同一都道府県企業への就職率の高い順

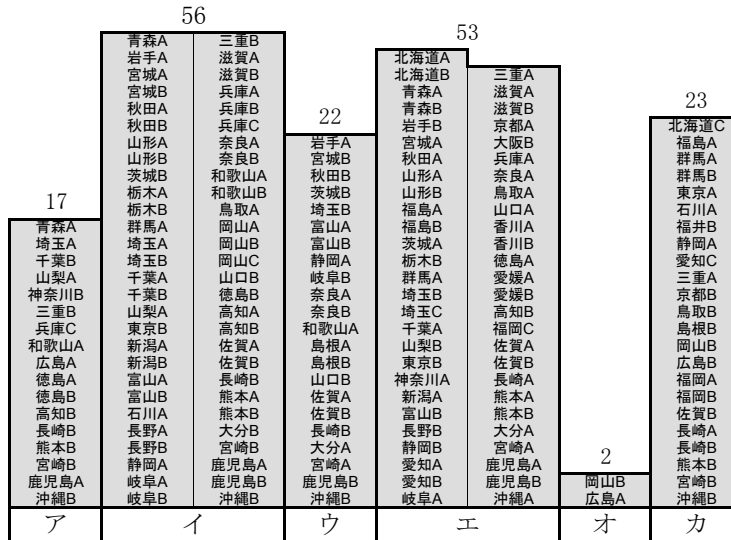
割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校
100.0	石川B	94.3	兵庫C	76.9	埼玉B
100.0	福井A	94.3	広島A	76.0	青森B
100.0	大阪A	93.2	山形B	74.6	佐賀A
100.0	香川A	93.0	鳥取A	74.1	千葉B
100.0	香川B	92.9	京都B	72.6	滋賀A
99.8	大阪B	92.8	和歌山B	72.2	熊本A
99.4	愛知C	91.9	神奈川A	70.6	埼玉A
99.2	栃木A	91.7	岡山C	70.1	岐阜A
98.9	北海道B	91.7	大分A	69.7	沖縄B
98.8	富山B	91.4	茨城A	69.0	山形A
98.7	石川A	90.9	新潟B	67.7	青森A
98.7	愛媛A	90.6	鹿児島B	67.5	佐賀B
98.6	山梨A	90.3	宮城B	65.6	高知B
98.6	京都A	90.0	福島B	63.6	島根B
98.5	愛知A	89.9	福島A	62.5	徳島B
98.4	北海道C	89.1	島根A	62.3	宮崎B
98.4	愛知B	87.8	栃木B	59.7	東京B
98.1	静岡A	87.8	福岡A	59.3	岩手B
98.0	岡山A	87.7	群馬B	59.0	秋田A
97.8	広島B	87.5	新潟A	54.6	岩手A
97.7	長野A	87.5	富山A	54.5	千葉A
97.6	北海道A	86.6	愛媛B	50.3	静岡B
97.5	群馬A	86.4	福井B	49.2	埼玉C
97.0	三重A	86.0	宮崎A	49.0	鹿児島A
96.5	東京A	85.3	徳島A	46.0	奈良A
95.9	宮城A	81.8	高知A	45.9	滋賀B
95.8	山梨B	81.3	福岡C	44.0	長崎B
95.7	山口A	80.9	沖縄A	44.6	奈良B
95.4	茨城B	80.7	秋田B	42.6	福岡B
95.3	長野B	79.8	三重B	38.7	兵庫B
95.0	山口B	79.6	長崎A	38.0	熊本B
94.8	岡山B	78.6	和歌山A	37.5	神奈川B
94.3	兵庫A	78.1	岐阜B	35.0	大分B
				30.9	鳥取B

＜考察＞

商業高校を卒業し、同一都道府県の企業等へ就職した生徒の割合が100%の府県は、石川県、福井県、大阪府、香川県の4府県である。全国平均の79.4%を上回る都道府県は64校あり、全体の6割以上を占める。反対に最も低い鳥取県は30.9%であり、就職者の約7割が県外の企業等へ就職していることになる。

問2 地元企業への就職をしない生徒について、その主な理由は何だと思いますか。  
 あてはまるものに○を選択してください。(複数回答可)

選択肢		回答校数
ア	地元企業から求人がないから	17
イ	働きたい仕事(職種)がないから	56
ウ	都会のほうが便利だから	22
エ	地域にとらわれず働きたいから	53
オ	企業の求めるニーズや能力に応えられていないから	2
カ	その他	23



カ その他

地元志向が強く、逆に地元以外に出たがらない(北海道)
県外企業からのニーズがあったため(福島)
一家転住による(群馬)
地元希望者は100%実現しており、質問の意図と合わない(群馬)
自宅から通える範囲の職場を選択した(東京)
高校時代の部活動を活かした就職(石川)
求人を受けた企業が県外企業で就業地が地元だから(本校は100%地元希望だった)(福井)
就職を希望する企業の所在地が他県であった(1名)(愛知)
指名求人(三重)
既に地元で就職している(京都)
全国規模の事業展開をする大手企業に就職したため(鳥取)
県内外の同業種企業を比較し、企業イメージの良さで決めてしまう(島根)
転居(岡山)
大企業の求人だから(広島)
県外の大手企業の方が給与等の待遇がいい(福岡)
東京・大阪で仕事をしたい(福岡)
魅力ある大手の企業があるから(佐賀)
待遇・福利厚生面で優れているから(長崎)
所得の違い(長崎)
県外からの求人の給与や福利厚生が良かったから(熊本)
給与や賞与が高いから(宮崎)
給与等の待遇が良い(沖縄)



### 〈考察〉

地元企業へ就職をしない主な理由として、「ア 地元企業から求人がないから」が17校、「イ 働きたい仕事(職種)がないから」が56校と、この2つの回答で「地元企業へ就職をしない理由」の42.2%を占める。希望する仕事が地元で見つければ、地元で就職したいという意志の表れとも考えられ、地方活性化を阻害する大きな課題といえる。

「エ 地域にとらわれず働きたいから」という回答は53校と全体の30.6%を占め、グローバル化を象徴するように、勤務地よりも仕事内容を重視する姿勢がうかがえる。「ウ 都会の方が便利だから」という回答は22校で、全体の12.7%と比較的少ない。

その他、大企業からの求人で、給与や福利厚生に魅力があるため地元で就職しないという回答も多く寄せられたが、地元志向が高く、地元以外に出たがらないという回答もあった。

**問3 平成28年3月に貴校を卒業して就職した生徒は、どのような業種の企業に就職しましたか。日本標準産業分類による業種の大分類より、多い順に5つ選択してください。**

選択肢		1位	2位	3位	4位	5位
ア	農業、林業				1	
イ	漁業				1	1
ウ	鉱業、採石業					
エ	建設業	1	1	2	6	4
オ	製造業	58	22	6	4	2
カ	電気、ガス、水道業			1	1	1
キ	情報通信業			3	5	5
ク	運輸業、郵便業		7	22	14	14
ケ	卸売業、小売業	33	48	15	4	1
コ	金融業、保険業	2	2	12	15	11
サ	不動産業、物品貸借業					
シ	学術研究、専門・技術サービス業			1	2	4
ス	宿泊業、飲食サービス業		3	7	9	14
セ	生活関連サービス業、娯楽業		2	2	9	9
ソ	教育、学習支援業					
タ	医療、福祉		3	4	11	4
チ	複合サービス事業		4	9	5	6
ツ	サービス業	6	6	11	7	14
テ	公務(国家)			5	2	9

1位選択校

58						
	岩手B 宮城A 秋田A 山形B 福島A 茨城A 茨城B 栃木A 栃木B 群馬A 埼玉A 埼玉B 千葉B 山梨A 山梨B 神奈川A 神奈川B 新潟A 新潟B 富山A 富山B 石川B 福井A 福井B 長野A 長野B 静岡A 静岡B 愛知B	岐阜A 岐阜B 三重A 三重B 滋賀A 滋賀B 京都A 大阪B 和歌山A 和歌山B 鳥根B 岡山A 岡山B 岡山C 広島A 広島B 山口B 香川A 香川B 徳島A 徳島B 愛媛B 高知A 高知B 福岡A 福岡B 熊本B 宮崎B 鹿児島A	北海道A 北海道C 北海道B 青森A 青森B 岩手A 宮城B 秋田B 山形A 福島B 埼玉C 千葉A 東京A 東京B 愛知A 愛知C 大阪A	33 兵庫A 兵庫B 奈良A 鳥取A 鳥根A 山口A 愛媛A 福岡B 福岡C 佐賀A 長崎A 長崎B 熊本A 鹿児島B 沖縄A	2 奈良B 大分A	6 群馬B 京都B 兵庫C 大分B 宮崎A 沖縄B
1 石川A	エ	オ	ケ	コ	ク	ツ

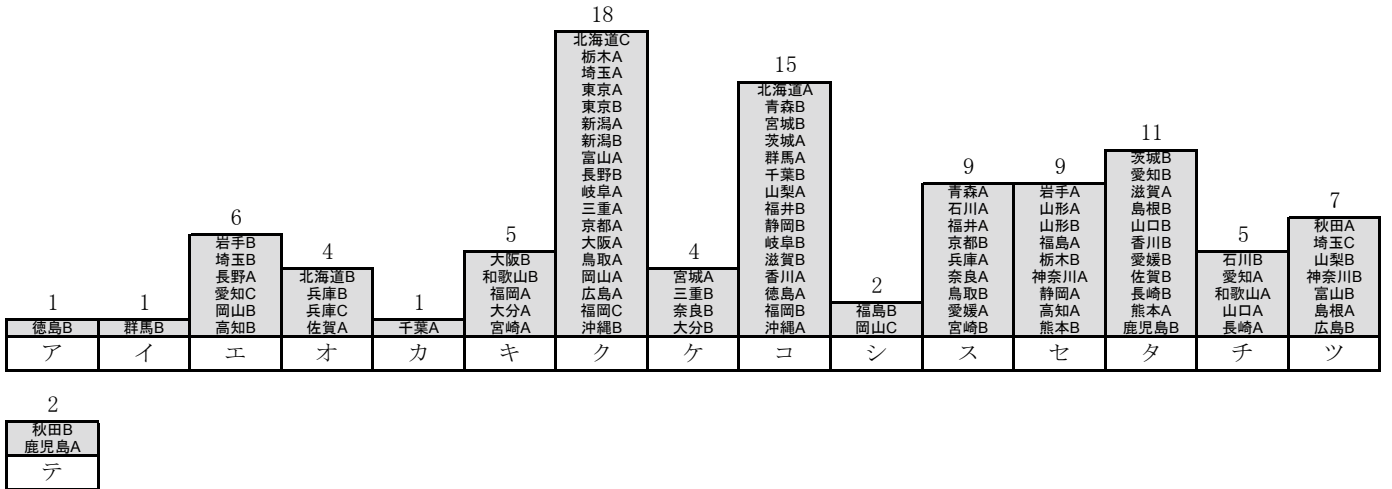
2位選択校

48										
	青森B 岩手A 秋田B 山形A 福島B 埼玉C 東京A 東京B 石川A 愛知A 愛知C	大阪A 兵庫A 鳥取A 鳥取B 鳥根A 愛媛A 福岡A 福岡C 長崎A 長崎B 熊本A	7 青森A 宮城A 山梨A 神奈川B 岐阜B 静岡A 静岡B 岡山C	岩手B 山形B 福島A 茨城A 茨城B 栃木A 栃木B 群馬A 群馬B 埼玉A 埼玉B 山梨B 山梨C 香川B 徳島A 徳島B 愛媛B 高知B 福岡A 福岡B 大分A 宮崎A 宮崎B 鹿児島A	2 岐阜A 山口A	3 鹿児島B 沖縄A 沖縄B	2 兵庫B 大分B	3 石川B 兵庫C 熊本B	4 北海道C 秋田A 富山A 佐賀A	6 北海道A 北海道B 宮城B 千葉A 奈良A 高知A
1 新潟A	エ	オ	ク	ケ	コ	ス	セ	タ	チ	ツ

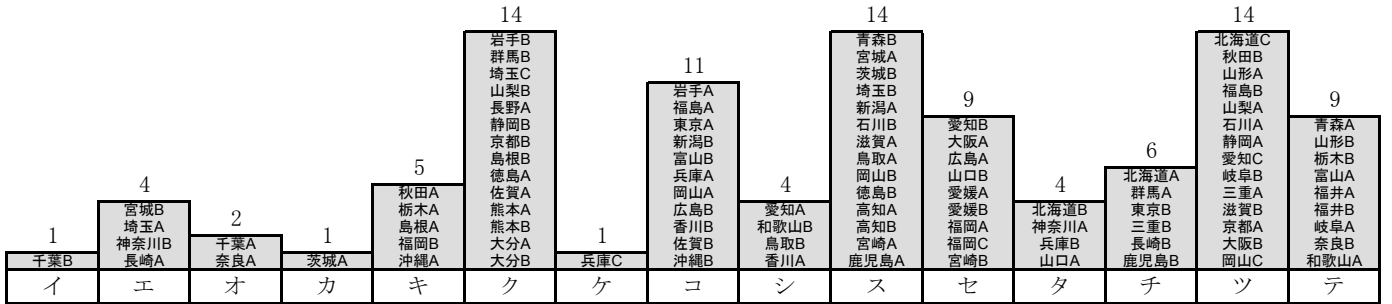
3位選択校

22													
	宮城B 京都B 山口A 大分B	1 山形A	3 静岡A 熊本A 宮崎B	青森B 岩手A 秋田B 千葉A 千葉B 神奈川A 福井A 愛知A 愛知B 愛知C 滋賀A 滋賀B 兵庫A 兵庫B 和歌山B 鳥根A 香川B 徳島B 愛媛B 福岡B 佐賀B 鹿児島A	15 秋田A 埼玉C 山梨A 神奈川B 新潟A 富山A 石川A 石川B 岐阜A 岐阜B 岡山C 香川A 香川B 高知A 熊本A 宮崎A	12 北海道C 宮城A 山形B 新島A 富山A 石川A 石川B 岐阜A 岐阜B 大阪C 広島A 山口B 長崎A 宮崎A	1 愛媛A	7 群馬B 山梨B 長野A 静岡B 京都A 和歌山A 広島A	2 茨城B 三重A	4 栃木B 三重B 大阪A 福岡C	9 岩手B 福島A 福島B 新潟B 富山A 奈良A 鳥取B 岡山A 岡山B	11 青森A 東京A 東京B 福井B 長野B 鳥取A 徳島A 福岡A 佐賀A 大分A 沖縄A	5 北海道A 茨城A 群馬A 鳥根B 高知B
2 北海道B 長崎B	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	シ	ス	セ	タ	チ	ツ	テ

## 4位選択校



## 5位選択校



## <考察>

就職した生徒の企業を業種別にまとめ、1位から5位まで順位付けした集計結果は、上記表のとおりである。

1位に「製造業」、2位に「卸売業、小売業」と回答した都道府県が一番多く、「製造業」が1位と回答した学校が58校、「卸売業、小売業」が38校と続く。1～2位までの累計では、「製造業」が80校、「卸売業、小売業」が81校となり、2つの業種で32.7%を占める。一位に「卸売業、小売業」と回答した学校は、東京、愛知、大阪、福岡など大都市が多く、「製造業」は、全国各地で幅広く回答された。第3次産業に就職する生徒が多いが、第2次産業である「製造業」へ就職している生徒も多い。

1～5位までの累計でも、「卸売業、小売業」が101校、「製造業」が92校と多く、2つの業種で全体の4割近くを占める。次いで、「運輸業、郵便業」が57校で11.6%、「サービス業」が44校で8.9%、「金融業、保険業」が42校で8.5%を占める。「鉱業、採石業」、「不動産業、物品貸借業」、「教育、学習支援業」は、1～5位という回答がゼロであった。

問4 平成28年3月に貴校を卒業して就職した生徒は、どのような職種で働いていますか。  
多い順に3つ選択し、就職者の割合も%で示してください。

選択肢		1位	割合(平均)	2位	割合(平均)	3位	割合(平均)
ア	事務系	60	45.3	24	27.2	12	15.1
イ	サービス系(販売・接客等)	15	47.2	43	25.0	37	16.5
ウ	技能系(工場・現場作業等)	21	40.5	27	27.0	41	13.7
エ	技術系	0	0.0	1	13.0	5	5.1
オ	その他	0	0.0	1	17.4	1	12.1

オ その他 2位

保安(香川)
--------

オ その他 3位

保安職(警察、消防、警備等)(秋田)
保安職(沖縄)

※ その他1位 記述無し

1位選択校

60						15		21	
割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校
76.1	北海道A	32.8	山梨B	47.7	兵庫A	41.5	茨城B	40.4	群馬A
71.7	北海道C	34.1	東京A	42.9	奈良A	40.4	群馬B	14.2	千葉B
39.4	青森A	48.8	東京B	35.0	和歌山A	60.3	山梨A	60.3	山梨A
42.9	岩手B	31.3	神奈川A	42.0	鳥取B	56.3	富山A	56.3	富山A
31.5	宮城A	17.0	神奈川B	32.8	鳥根A	35.3	富山B	35.3	富山B
45.8	宮城B	31.3	新潟A	25.0	鳥根B	45.3	福井A	45.3	福井A
28.2	秋田A	34.1	新潟B	37.0	岡山A	48.8	長野B	48.8	長野B
51.6	秋田B	56.1	福井B	43.4	広島A	36.0	岐阜B	36.0	岐阜B
36.0	山形A	40.9	長野A	51.4	山口A	32.1	三重B	32.1	三重B
36.4	山形B	50.0	静岡A	53.0	山口B	58.1	滋賀B	58.1	滋賀B
34.8	福島A	38.4	静岡B	58.7	香川A	39.0	和歌山B	39.0	和歌山B
37.0	福島B	78.8	愛知A	50.0	香川B	35.1	岡山B	35.1	岡山B
69.0	茨城A	36.8	愛知B	46.2	愛媛A	44.4	岡山C	44.4	岡山C
35.4	栃木A	71.9	愛知C	29.7	高知A	38.3	広島B	38.3	広島B
45.9	栃木B	48.6	岐阜A	50.0	福岡A	40.3	徳島A	40.3	徳島A
42.3	群馬B	61.0	三重A	61.3	福岡B	34.4	徳島B	34.4	徳島B
41.0	埼玉A	31.6	滋賀A	59.7	佐賀A	49.4	愛媛B	49.4	愛媛B
30.8	埼玉B	34.8	京都A	44.4	長崎A	47.9	佐賀B	47.9	佐賀B
64.8	埼玉C	42.9	大阪A	39.4	大分A	26.5	熊本A	26.5	熊本A
54.5	千葉A	70.3	大阪B	59.0	宮崎A	26.4	宮崎B	26.4	宮崎B
平均 45.3						平均 47.2		平均 40.5	
ア						イ		ウ	

2位選択校

24				43				27		1		1	
割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校	割合	都道府県・学校
37.2	北海道B	17.4	北海道A	32.8	愛知B	22.0	山形A	22.0	山形A	13.0	神奈川B	17.4	香川A
31.9	青森B	10.2	北海道C	20.4	愛知C	30.3	福島A	30.3	福島A				
39.2	岩手A	32.3	青森A	22.0	三重A	24.4	栃木A	24.4	栃木A				
26.4	群馬A	27.1	岩手B	22.0	三重B	28.4	栃木B	28.4	栃木B				
13.7	千葉B	23.3	宮城A	27.4	三重C	33.0	埼玉A	33.0	埼玉A				
23.2	富山A	25.0	宮城B	36.6	大阪A	30.8	埼玉B	30.8	埼玉B				
31.8	富山B	26.4	秋田A	21.2	大阪B	28.6	埼玉C	28.6	埼玉C				
37.8	福井A	22.0	秋田B	29.5	兵庫A	29.3	山梨B	29.3	山梨B				
23.0	岐阜B	27.3	山形B	33.3	奈良A	29.5	神奈川A	29.5	神奈川A				
30.8	滋賀B	22.0	福島B	28.0	和歌山A	29.5	新潟B	29.5	新潟B				
13.1	京都B	20.0	茨城A	30.0	鳥取B	22.7	福井B	22.7	福井B				
37.1	兵庫C	30.8	茨城B	23.4	鳥根A	19.0	静岡A	19.0	静岡A				
29.0	和歌山B	12.3	群馬B	29.5	広島A	23.2	静岡B	23.2	静岡B				
36.8	鳥取A	18.0	埼玉C	18.6	山口A	48.6	静岡C	48.6	静岡C				
28.6	岡山B	21.6	千葉A	21.0	山口B	27.4	岐阜A	27.4	岐阜A				
18.1	岡山C	23.3	山梨A	29.5	愛媛A	21.7	滋賀A	21.7	滋賀A				
35.1	広島B	41.2	東京A	15.7	愛媛B	14.3	京都A	14.3	京都A				
35.7	徳島A	33.1	東京B	10.7	福岡B	27.3	兵庫B	27.3	兵庫B				
31.3	徳島B	28.0	新潟A	19.3	佐賀A	23.0	鳥根B	23.0	鳥根B				
31.6	佐賀B	30.7	長野A	31.5	長崎A	37.0	岡山A	37.0	岡山A				
25.2	熊本A	41.9	長野B	30.6	大分A	27.3	香川B	27.3	香川B				
26.4	大分B	12.1	愛知A	18.0	宮崎A	31.4	高知A	31.4	高知A				
25.5	宮崎B												
10.5	沖縄B												
平均 28.3				平均 25.0				平均 27.0		1		1	
ア				イ				ウ		エ		オ	

### 3位選択校

41

12

割合	都道府県・学校
15.4	茨城B
12.3	山梨A
4.7	長野B
20.2	三重B
14.3	兵庫B
12.0	愛媛B
9.1	高知A
26.0	福岡C
10.7	長崎B
22.0	熊本B
14.5	鹿児島A
19.8	鹿児島B
平均 15.1	
ア	

37

割合	都道府県・学校
15.0	山形A
23.6	福島A
9.5	栃木A
9.5	栃木B
17.3	群馬A
10.0	埼玉A
26.9	埼玉B
9.6	千葉B
24.3	山梨B
12.1	神奈川A
20.5	新潟B
9.8	富山A
23.5	富山B
11.3	福井A
9.1	福井B
10.0	静岡A
12.2	静岡B
48.6	岐阜A
7.0	岐阜B
17.9	滋賀A
6.8	滋賀B
11.6	京都A
13.0	和歌山B
20.0	島根B
21.0	岡山A
24.6	岡山B
16.7	岡山C
18.0	広島B
10.9	香川A
22.7	香川B
13.2	徳島A
21.9	徳島B
15.6	高知B
16.7	福岡A
8.5	佐賀B
21.2	熊本A
20.8	宮崎B
平均 16.5	
イ	

割合	都道府県・学校
6.3	北海道C
10.5	北海道B
14.1	青森A
15.3	青森B
16.9	岩手A
11.9	岩手B
15.1	宮城A
9.7	宮城B
23.1	秋田A
20.5	山形B
18.0	福島B
10.0	茨城A
6.9	群馬B
14.8	千葉A
5.9	東京A
4.0	東京B
6.0	神奈川B
18.8	新潟A
28.4	長野A
15.6	愛知B
11.9	三重A
13.1	京都B
4.5	大阪A
18.2	兵庫A
17.1	兵庫C
11.1	奈良A
18.0	和歌山A
7.0	鳥取A
23.0	鳥取B
17.2	島根A
18.9	広島A
8.6	山口A
13.0	山口B
7.7	愛媛A
10.7	福岡B
14.9	佐賀A
19.4	長崎A
19.7	大分A
20.8	大分B
9.0	宮崎A
7.9	沖縄B
平均 13.7	
ウ	

5

割合	都道府県・学校
5.5	北海道A
6.0	埼玉C
3.8	愛知A
2.3	愛知C
7.8	大阪B
平均 5.1	
エ	

1

割合	都道府県・学校
12.1	秋田B
オ	

### <考察>

就職した生徒の職種をまとめ、1位から3位まで順位付けした集計結果は、上記の表のとおりである。  
 事務系が1位と回答した学校が最も多く、60校、62.5%を占めるが、地域により、極端に事務系の就職が高い・低いという傾向は見られない。技能系(工場・現場作業等)が1位と回答した学校が、21校、21.9%、サービス系(販売・接客等)が15校、15.6%となっている。1位から3位をみると、1位事務系、2位サービス系(販売・接客系)、3位技能系(工場・現場作業等)の順の回答が多い。その他として、保安職(警察、消防、警備等)の回答もあった。特に、地域による特性は見られなかった。

問5 時代の進展により、企業の求める人材ニーズは変化していると考えられます。  
卒業時点で身に付けておくべき能力等で重要と思われる順に番号をご記入ください。  
また、各能力等の満足度(3:十分身に付けている 2:ほぼ身に付けている 1:不十分)もご記入ください。

選択肢	重要度								満足度		
	1	2	3	4	5	6	7	8	3	2	1
ア 基礎的な学力	25	26	32	7	2	3	3	0	16	62	20
イ 応用的な学力	0	2	4	10	18	22	35	3	64	27	3
ウ 基礎的な資格(2～3級程度)取得	0	2	7	31	23	12	19	2	7	41	48
エ 高度な資格(1級)取得	1	1	5	6	17	35	27	5	46	41	10
オ ITスキル	0	0	11	26	36	18	6	0	19	61	17
カ コミュニケーション能力	63	28	8	1	0	0	0	0	15	71	14
キ 礼儀作法やマナー	11	39	27	14	3	3	2	0	15	48	36
ク その他	0	2	7	0	0	0	1	0	0	5	5

ク その他

プレゼンテーション能力(北海道)
思いやりの心(青森)
心身の自己管理能力(山形)
困難や失敗にめげず、挑戦していく力(埼玉)
忍耐力(タフであること)(新潟)
勤労意欲・積極性(石川)
自分自身で課題を設定し解決する能力(和歌山)
問題解決能力(和歌山)
自己管理能力(島根)
管理的能力、企画力(佐賀)
基本的な生活習慣(佐賀)

<考察>

身に付けておくべき能力等において、「重要度」が高く挙げられたのは、「カ コミュニケーション能力」のレベル1で63%と突出している。重要度上位1～3レベルの合計と比較すると、「カ コミュニケーション能力」は、99%でほぼ全校が重要視しており、次いで、「ア 基礎的な学力」で84.7%、「キ 礼儀作法やマナー」が77.8%であった。いずれも商業教育の基本となるものが取り上げられている。一方で、「イ 応用的な学力」は6.4%、「エ 高度な資格(1級)取得」は7.2%でそれほど重要視されておらず、このことは、重要度下位6～8レベルの合計において、「イ 応用的な学力」63.8%、「エ 高度な資格(1級)取得」69.1%に反映されている。また、重要度中位の4～5レベルには、「オ ITスキル」で63.9%、「ウ 基礎的な資格(2～3級程度)取得」で56.3%であった。

次に、こうした各能力等が身に付けているかどうかの「満足度」について分析する。「満足度」最上位3レベルの「十分身に付けている」とされたのは、「イ 応用的な学力」68.1%、「エ 高度な資格(1級)取得」47.4%であった。一方で、「満足度」最下位1レベルの不十分とされたのは、「ウ 基礎的な資格(2～3級程度)取得」が50%、「キ 礼儀作法やマナー」が36.4%もあった。背景としては、地域、学校、進路状況、学力などの格差が考えられる。学力、能力の伸長が目を見張る生徒がある一方で、目標達成の観点からみて、資格の取得がままならない生徒やビジネスマナー等の定着が十分ではない状況が分かる。コミュニケーション能力については、学校側が重要視しているにもかかわらず、生徒は十分に身に付けている状況ではないことが伺える。

問6 商業高校が地域に貢献している例があれば、内容・時期・学年・人数等をご記入ください。

地域の催し物に参加し、地元企業と共同で開発した商品の販売を行った。9月、1・2学年、約20名(北海道)
ボランティア活動、年中、全学年、30名(北海道)
①観光マップの作成(課題研究 3学年 6人) ②道の駅や市の祭典ボランティア(部活動・有志、全校、30人) ③地域イベントでの演奏(部活動、吹奏楽部、35人) ④ボランティア清掃(5月、全校生徒、450名)(北海道)
黒石商業高校 夏:地域で開催される、夏祭りに参加する。2・3学年 300人 「ねふた」を作成し、運行する。 秋:地域商店街「こみせ」祭りに文化部が出展参加する。 ボランティアによる各商店販売補助、吹奏楽部(ミニコンサート)、美術部(無料似顔絵)、漫画研究部(イラスト、自作漫画販売)、授業課題研究(調査・研究)(青森)
市の依頼により年2回、大型客船入港時の歓迎セレモニーに吹奏楽部(45名程度)が参加し、歓迎ムードを盛り上げている。(青森)
本校のチャレンジショップ ・学校のある盛岡市本宮地区の産直に店舗を構え、毎年10月に実施している。2学年流通ビジネス科80人。 ・近年は、盛岡市内の商店街、美術館、盛岡駅、本宮地区文化祭でも実施している。2・3学年流通ビジネス科延べ50人。要請があれば実施。 ・地域や商店街等の活性化に寄与している。(岩手)
・地域の商業イベントに参加 本校開発商品の販売 7月 生徒会・有志 10名 ・校外清掃活動 7月 全校生徒(宮城)
平成27年11月に120名、3月に400名の生徒及び教職員が仙台市泉区の清掃活動に参加している。また、仙台をアピールするために商品開発を模索しており、マーボ焼焼きそばや牛タンキャラクターのペコタンを作成し仙台市が商標登録している。(宮城)
毎年10月中旬、2年生の情報ビジネス科(約70名)を主体として、地域の産業フェアにおいて、イベントの進行や販売など様々な業務の手伝いをしている。(秋田)
ビジネス実践(10月下旬実施、1年240名:キッズ、2・3年480名:3分野より選択) 主な内容 AKISHOP:秋田産の食材を使った商品開発、地元企業と連携しての商品開発 キッズビジネスタウン:地域の子ども達へ社会教育 エコロジカルビジネス:地域の人材活用(秋田)
治産施設の商品販売に協力している(10月・さかた産業フェア・3年生・20人)(山形)
産業調査部(各学年7名)が、「山形市お宝観光大使」として、様々な地域イベントで活躍。 JR東日本の「駅からハイキング」(5月)などでも、毎年100名を越す集客を誇る企画を実施している。(山形)
「課題研究」における商品開発 地域活性化を目標に、これまでの学習を活かすべく、企業と連携しながら地域企業の活性化に繋げられるような取組を考察し、1年間を通して商品化を目標に行う。(3学年・16名)(福島)
毎年7月と11月に実施される地域商店街のイベントで3年生10名程度が販売実習を行い、地域商店街の活性化に貢献している。(福島)
・全員が地元企業でインターンシップを実施している。 ・一部生徒がデュアルシステムで企業実習をしている。 ・県内の様々な催事に積極的に参加している。(茨城)
毎年7月下旬に石岡市で行われる「石岡七夕祭り」に、課題研究の販売実習選択生徒(昨年実績3年生7名)が参加している。昨年は、体験コーナーを担当している。(茨城)
地域活性化への取組(商品開発等、1年間、3学年、課題研究の科目での取組(研究生徒が該当)(栃木)
各種ボランティア活動への取組 ・遠足時の清掃活動・・・地元県立公園の美化活動を実施(毎年4月・全校生徒) ・駅周辺及び通学路の清掃活動・・・地元栃木市と連携し、最寄り駅より学校までの通学路の清掃(年6回・各クラスより輪番で担当) ・特別支援学校、社会福祉法人等へのボランティアに適宜参加(栃木)
地域の学校開放講座開設予定(群馬)
小学校との交流 - サッカー部、陸上部員による指導、マラソン大会伴奏 コンピュータ部生徒による授業支援 商工会行事等への参加 - 吹奏楽、バトン部(埼玉)
地域の祭り(8月、30名)、イベント(11月、30名)、通学路清掃(各学期末年3回、30名)、地域産業を学ぶ(通年、課題研究の授業)、商品開発(地元企業と連携)等(埼玉)
・ふれあいフェスティバル(11月)に参加:吹奏楽部、太鼓部、生徒会(合計で60名程度) ・保育園に出向き保育体験(6月と9月):3年生、30名程度 ・小学校における太鼓教室(1月):太鼓部、20名程度 ・老人施設訪問(12月):箏曲部、5名程度(埼玉)
千葉商:商品開発・流通ビジネスコース3年次「商品開発」の授業において企画し、地元企業と連携。 東金商:広告販売促進の効果検証・課題研究の調査研究において大手衣料品店の「ジーユー」の協力を得てファッションショーの企画・運営を行い集客について研究を行った。 銚子商:地元企業を支援・課題研究において地元銚子電鉄の脱線車両を修理する代金をクラウドファンディングにより資金を集め寄付を行った。(千葉)
・地元企業と連携し、地元の特産物を活用した商品開発。(通年・3年生・科目選択者等) ・地元の鉄道会社と連携し、生徒が開発した商品などの車内販売やイベントの開催。(不定期・3年生・科目選択者等) ・地元観光施設の空き店舗を利用した販売実習。(通年・3年生・科目選択者) ・地元商店街と連携し、商店街主催のイベントなどに参加し、商店街の活性化を図る。(通年・2、3年生・10名程度)(千葉)
市立の高校として、市主催のイベント等へ、ソングリーダー部や吹奏楽部などが発表を披露するなどの協力を行っている。(山梨)
①深川仲町商店街で7月と12月の年2回行われる福引抽選会にて、PRテープの作成と新鮮野菜即売会を実施 ②江東区産業会館フェアにて、江東区産業連盟と連携して夕張農協から仕入れた花豆、トラ豆、大正金時豆、夕張メロンピュアゼリー、キャラメル、キャンディの商品販売を実施 ③お江戸深川さくら祭りにて、NPO法人「江東水辺の会」と連携し、和船乗船のボランティアを実施(東京)
地域の音楽祭への参加 10月 3年 60名(東京)

<p>チャレンジショップ 特徴ある地域の特産物を仕入れたり、生徒の考案した食品などを地域の方々へ販売する。仕入計画から売上金の処理まで生徒主体で1年間を通して数回開店している。生徒は委員会の形式を取り、各クラス2名の計42名で運営している。</p> <p>地域貢献活動 地域清掃を近隣の学校と分担して10月に実施している。美化委員と部活動生徒の約60名が参加（神奈川） 地域の桜祭りのボランティア（4月上旬、2・3年、10名） 地域清掃（7月・12月・3月、1～3年、100名）（神奈川）</p> <p>販売実習や商品企画・販売による地域の活性化 ・商業クラブ1～3年生 ・4～8月頃 ・商業クラブ研究発表大会に向けた取組（新潟）</p> <p>・小学校、中学校、大学と連携したチャレンジショップの運営 時期 8月 場所 地元商店街 学年 1～3年 人数 30人（高校生のみ）（新潟）</p> <p>内容：模擬株式会社「TOMI SHOP」の活動（学校デパート） 時期：11月 学年：1・2・3学年 人数：全校生徒（831人）（富山）</p> <p>地域の朝市・イベントへの出店による販売活動、7月～11月、3年、約100名 地域の七夕祭りの飾り付け、1・2・3年、7月、約150名（富山） 「金商デパートの開催」本校生徒が地域企業（商店）と協力し、販売活動をおこなう。 地域企業（商店）の商品を、仕入れから販売まで行い経理全般を管理する。 開催時期 10月中旬の土曜日・日曜日 全校生徒参加（石川）</p> <p>・地域児童センター主催 子どもまつり補助 5月 全学年 30名 ・地域児童会館 絵本の読み聞かせチーム 年間10回程度 15名 ・その他 地域イベント・清掃等（石川）</p> <p>武商デパートにおいて地域企業や障害者支援センターと協力して商品開発を行っている。販売の場所は本校体育館や支店という形で地元施設、福井駅周辺でおこない、物づくりフェスタ2015にも地元企業とともに販売実習として参加した。（福井） 学校付近の底喰川一斉清掃ボランティア 平成27年年6月30日 生徒 全学年から251名 公開講座「マイナンバー講習会」平成27年11月17日 公民館 地域住民20名対象3年生徒7名 公開講座「プログラミング講習会」平成27年12月26日 公民館 地域住民7名対象3年生徒5名 福井大学留学生対象「そろばんで国際交流」平成27年12月15日 留学生5名対象珠算部生徒（福井）</p> <p>清掃活動（週1回 全学年80名） 地元自治会と協力したあいさつ運動（年1回 3年20人） 地元地域の祭りへの協力（年1回 全学年60人） 学校周辺道路の雪かき（冬期間 全学年 50人）（長野）</p> <p>「くまずきクラブ」による地域イベント等への出店（年間30回以上）、地元企業との商品開発（長野）</p> <p>平成27年度3学年「課題研究」（商業研究16人）においてお茶を題材にした研究を行い、「静岡茶の魅力を市民に伝えるプロジェクト」と題し、静岡市のお茶の普及及びPRイベントを年4回行うと共に、研究の成果を静岡市茶業振興協議会においてプレゼンテーションを行い静岡茶の普及に微力ながら寄与した。（静岡） 野球部が児童福祉施設の球技大会の運営に携わったり、吹奏楽部が地元のイベントに積極的に出演するなど、多くの部活動が地域貢献活動を行っている。（静岡）</p> <p>・レッツクリーン （地域の清掃活動、各学期末に生徒会を中心に希望者による活動） ・文化のみち まちあるきマップ作成 （地域の環境・観光まちづくり活動の一環としたマップの作成）（愛知）</p> <p>内容：キッズビジネスタウンの運営 時期：2学期 学年：2・3年生 人数：200人（愛知）</p> <p>内容：近隣大学の地域共創をテーマとしたゼミナールを大学生とともに受講し、地域活性化の学習を進めるとともに地域に活力をもたらす方策に関して研究・発表を行った。また、地域向けのイベントを、大学、地域商店街と連携して、企画・運営に参加した。 時期：通年（イベントは7月、12月に開催） 学年：3年 人数：希望者6名（愛知）</p> <p>（株）GIFUSHOを設立し、地域の行事やイベントで販売を行ったり、企業と連携してビジネスを展開し、地域経済の発展に貢献している。（岐阜） 地域の高齢者との交流会（時期：11月、3年生70人） 地域の祭りイベント時の出店参加（時期：10月、3年生42人）（岐阜） 地元商店街振興策として、キッズビジネスタウンの実施（3学年 年2回） 地元行政や商工会と連携して街の振興策の検討（3学年）（三重） 障がい者福祉施設NPO法人ステップとの交流（通年3年生22名）、地元企業と共同しての商品開発（通年3年生22名）、地元商店街の祭りへの参加（6月6名）、伊勢まつり参加（10月3年生6名）、伊勢市民病院ふれあい祭（クラブ生徒11月10名）、簿記会計市民セミナー（日商3級）（三重） 生徒が地元地域の商業・経済発展に係るフォーラムに参加し、情報・意見交換等を行った。（滋賀）</p> <p>販売学習（京都すばるデパート） ①1クラスが1店舗を運営。業者と委託販売契約を結び、学習の成果として、商品の仕入れから販売・会計処理を行う。一般のお客様に買い物を楽しんでいただき、地域貢献の一端を担う。②11月第3週土日の2日間 ③全学年全クラス（3学年24クラス）④約900人 ⑤その他：来客数約8、000人、売上1、700万円 高齢者施設訪問 ①吹奏楽部が高齢者施設を訪問し、演奏会を実施するとともに交流を深める。②年数回 ③3学年 ④約15名（京都） 商業高校としてではないが、フォークソング部や茶菓道部などが地域のイベントに参加し、地域活性化に貢献している。昨年より地域の店舗と連携して商品開発を行い、その商品で販売実習を行ってイベントを盛り上げる協力をしている。（大阪） 吹奏楽部が地域イベントでの演奏：随時、1～3年、35人 軽音楽部が地域イベントでの演奏：随時、1～3年、40人（大阪）</p>
---



<p>地域祭りに参加 8月 2年生 6名  出身小学校の秋祭りに参加(販売実習) 10月 1・2年生 8名  地元商店街店舗運営 8月 1～3年生 50名程度  大丸神戸店(販売促進活動) 年間 15日程度 100名  パソコン教室・簿記講座 2月 20名(兵庫)</p>
<p>校外清掃活動 学期末毎に 通学路を中心とした清掃活動を全校生約50名で行う。(兵庫)</p>
<p>課題研究(電子紙芝居を保育所で発表、11月実施、3学年8名)  課題研究(パソコン教室 福祉会館にて地域の方へパソコン指導、通年、3学年14名)  課題研究(CM研究 地元商店街のCM制作など、通年、12名)  総合実践(地元商店街のHP作成、通年、2・3学年、74名)(兵庫)</p>
<p>地域主催の行事(イベントや祭り)に参加して運営的な役割を担い地域住民と交流している。  9月、2年、30名(奈良)  暮らし産業メッセ葛城 11月の中旬の土日にかけて第3学年進路が決まった約120名ほどで地域企業のプレゼンを行ったりまた、食品等の販売もする。(奈良)</p>
<p>課題研究の中で「商品開発」の講座を設け、地域の特産品である紀州南高梅を用いた商品開発をおこない消費拡大・PRに努めている。(3学年・年間・15名程度)  ・「梅あられ」は年間で15000袋を販売  ・「梅やきとり」は年間で20000本を販売  ・「観梅バスツアー」を企画・実施(和歌山)</p>
<p>3年生の課題研究の通年授業で約60名が、地元企業と提携し、ホテルでの販売実習や医療機関での医療実習そして保育園での保育実習を行い、卒業後は県内企業に就職することで地域の活性化に貢献している。(和歌山)  近接する小学校の5年生の総合的な学習の時間において、学校デパート代表の生徒がビジネス活動に関する学習の講師を務める。  同じく5年生の体験活動の場を学校デパートで提供している。(鳥取)</p>
<p>内容:年末の市街地イルミネーション装飾  時期:12月上旬～下旬  学年:3年生の課題研究1グループの取組  人数:グループ以外のサポーターも含め20名程度(鳥取)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を元気づける「松商だんだんフェスタ」の開催、12月初旬、全学年・全教職員、約600名</li> <li>・中学生向けビジネスマナーの開催、6月中旬、1学年、約250名</li> <li>・中学生向け簿記体験学習の開催、2月中旬、3学年、約200名(島根)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃ボランティア 10月中旬 全校生徒 2時間程度</li> <li>・浜っ子春祭り(地域行事)販売補助、神楽出演、パレード参加 4月下旬 1～3年生希望者40名</li> <li>・BB大鍋フェスティバル(地域行事)運営補助 11月初旬 1～3年生希望者 100名</li> <li>・各地区の公民館と連携した地域活動 3年生課題研究 27名</li> <li>・各種学校行事への保育園児招待(島根)</li> </ul>
<p>「東商デパート」:地元企業と提携し、地元の会場(岡山ドーム)で今まで学んだ知識を生かして取り組む学校デパート・11月下旬・全学年・1073名(全校生徒)  「キッズビジネスパーク」:岡山青年会議所主催の小学生お仕事体験のサポートボランティア・8月下旬・全学年・30名  「確定申告書作成講座」:岡山東税務署の指導によるパソコンを使っての確定申告書作成・2月中旬・2年・45名  「大誓文払い」:地元商店街で本校開発商品の販売・11月初旬・3年・5名(岡山)</p>
<p>キッズビジネスタウンの開催 11月 1年160人 参加小学生200人 津山商工会議所と共催  吉井川清掃 7月 全学年100人 近隣高校生100人 本校生徒会が近隣高校へ呼びかけ  津山市内でのイベントへのボランティア参加 通年  津山市特産品を活用した商品開発・土産物の企画提案 3年商品開発  美作国つやま検定の開催 2月 3年課題研究 広く市民参加を呼びかけ(岡山)</p>
<p>①「UNOICHI～海が見える港のマルシェ～」の企画立案運営(全学年)  2014年夏より始まったマルシェイベント。玉野市内外(直島、豊島、高松、岡山県内各地)から瀬戸内ならではのおいしい食べ物や飲み物、スイーツ、本やグッズが集まり、ものづくり体験ワークショップや、音楽の生演奏なども楽しめるイベント。年6回程度実施(春2・夏2・秋2)課題研究(3年生)や、ビジネス経済応用(3年生)などの授業を通じて企画・立案・運営に携わっている。毎回、ボランティア活動も含めて100名以上の生徒が参加している。</p> <p>②シーバス(玉野市コミュニティバス)活性化の取組  2014年年2回(冬・春)実施。課題研究、ビジネス基礎の授業を通じて市内バスの内外装デザインを担当し、クリスマスとバレンタインデーに合わせてシーバス(玉野市コミュニティバス)のラッピングを行っている。ボランティアも募り全学年から毎回20名程度が参加している。</p> <p>③年賀状講座の実施(2・3年生)  毎年12月、ワープロ部の生徒が地域の高齢者を対象に年賀状作成教室を実施している。</p> <p>④「キッズビジネスタウンたまの」の実施  年1回11月に実施。本年度第5回目を迎えるお仕事体験イベント。玉野市内の小学生・保護者を対象として本校生徒(2・3年生)320名が運営を担当している。(岡山)</p>
<p>地域の祭りに参加(競技、吹奏楽、応援、ボランティア(清掃など))(広島)</p>
<p>本校の生徒(既に卒業)が考案した地域ブランドを商工会議所に提案し商標登録を行い、そのブランドを地元業者に使用してもらっている。(商標登録経費は地元商工会議所が負担)  地域ブランドを使用した新商品の開発は、地元業者で独自に行う事もあれば、新たな商品の開発・提案を「課題研究」「総合実践」「商品開発」といった授業、および地域デザイン部(部活動)で高校生が行う事もある。(山口)</p>
<p>地域清掃、各学期毎に各学年が行う。1年160名 2年158名 3年154名(山口)</p>
<p>地元商店街における販売実習(坂商フェア「セキレ」)・12月上旬の2日間・全校生・約500名(香川)</p>
<p>地域企業と連携した商品開発や地域企業のWeb作成支援 第2学期 2・3年生 200名程度(徳島)</p>
<p>地域文化の伝承(藍染め・和傘制作)  美馬市特産品の「みまから」を使っての商品開発  地域映画「うだつ 美馬に咲く」の制作(徳島)</p>
<p>内容:松山ロープウェイ商店街が主催の城山門前まつりにおいて、商店のお手伝いやイベントガイア、オープニングパレードや吹奏楽部によるミニコンサートなどにより、まつりを盛り上げるお手伝いをしている。  時期:11月3日 学年:2年生 人数:約235人(愛媛)</p>
<p>e-tax:Web上での確定申告を行う際の手引き(11月:3年生20名:課題研究)および各種出前講義(おれおれ詐欺対策講座)、(防災・減災対策講座6月:3年生20名:課題研究)(愛媛)</p>
<p>高知城ガイド、5月GW、ツーリズムコース2・3年次生58名(高知)</p>

<p>小学校の運動会サポート 5月 3年 35名  日曜市の活性化プロジェクト 年数回 1年 70名 3年 35名  商品開発 社会マネジメント科  はりまやストリートフェスティバル 生徒会(高知)</p>
<p>地域の企業と連携した倉庫マーケット(来場1万2千人、売上1500万円):10月下旬、全学年720名(福岡)</p>
<p>「そろばん教室」・・・「ビジネス実務」(選択科目)で学習した「珠算」を近隣の小学校へ行き、出前授業を行う。  12月頃、2年生(30名程度)が小学校3年生に指導する。(福岡)</p>
<p>①内容:商店街活性化を目的にした地元商店街での販売活動。売上収益金を東北被災地に募金を行っている。  時期:特に決まっていない。学年:1～3年生 人数:約20人  ②内容:本校文化祭(若商バザール)で地域小学4年生希望者を招き、販売体験の対価として若商バザールで使用できる給料を支払い、所得税納入模擬体験までの学習を指導。時期:10月末 学年:2年生 人数:約20人(福岡)</p>
<p>各学校で、学校周辺の清掃活動等行っている。ボランティア活動など積極的に行っている。(佐賀)</p>
<p>部活動で様々な要請を受け、部活動での活動を行っている。  (平成27年度の取組を各部の主要なもののみ記載)  ・ダンス部:ダンス披露(地区文化祭・夏及び秋・13名の部員で参加)  ・情報処理科:プロジェクションマッピング披露(バレンタインバルーンin古湯・2月・2年生5名)  ・ボランティア部:募金活動(鳥栖地区など・適宜・全学年15名程度)  ・インターアクト部:特別支援学校や幼稚園で支援活動(運動会、文化祭補助・5月や9月・全学年20名程度)  ・インターアクト部:東日本被災地訪問(ボランティア・8月・10名)  ・吹奏楽部:演奏披露(各イベント支援及び慰労訪問・適宜・全学年40名程度)(佐賀)</p>
<p>内容:「ミニ佐世保」という、小中学生が作り上げる小都市の補助員をしている。  時期:6月から12月まで  学年:3年生  人数:15名程度。(長崎)</p>
<p>・ふるさと商人体験学習 11月～12月(5日間) 2年生 97名  ・インターンシップ 5月～12月(週1回2時間) 3年生 13名(長崎)</p>
<p>内容:学校近隣の水前寺の活性化に向けた取組を実践(観光、商品開発等)  時期:年間を通して  学年:ビジネス研究同好会(1年～3年)(かつては3年課題研究で取り組んでいた)  人数:19人(熊本)</p>
<p>「地域イベントへの企画立案・運営」人吉市が開催する「人吉お城まつり」において親子で来場していただいた方に人吉球磨の魅力を知って楽しんでもらう事をコンセプトにスタンブラー形式で楽しむイベントを企画・運営している。課題研究において地域活性化を目指す一環として取り組んでいる。イベントは5月の連休中に行われ、50名程度の生徒が参加している。(平成28年度は熊本地震の影響で「人吉お城まつり」は中止となった。)(熊本)</p>
<p>部活動に所属している生徒(商業部)が開発したクッキーなどを商店街の店舗を借りて、土日曜日に販売を行っている。また、年間4回～5回程度地域のお祭りなどの行事に出店し、学習の成果を披露すると共に地域の活性化に貢献している。(1学年～3学年20名程度)(大分)</p>
<p>街中での文化祭の開催(10月下旬、全学年、約600名、平成14年度より実施延岡、商工会議所、地元商店街の協力を得た取組)  駅前商店街にて地域活性化の一端を担う賑わい創出事業として実施。2学年生徒による「延商デパート」の開催をメイン行事に、1・3学年生徒によるステージ発表、地元のウェディング協議会とのコラボ企画である「プライダルフアッションショー」、3年生によるサンパぱんぱレレード、地元の小学校の協力を得た、「のべしょキッズビジネスタウン」を実施。(宮崎)</p>
<p>株式会社を設立し5年目を迎えた。生徒が株主兼社員となって商業教育に関する様々な活動や取組を展開している。それらの活動を通して自治体、地域住民、小中学校、地元企業と連携をとり、地元で根ざした地域貢献を果たしている。  ①指商デパート、11月、全学年、約530名 ②ICP活動、通年、3年、約15名 ③フリーペーパー制作、6～10月、約30名 ④指商特産品の販売実習、8月、約100名 ⑤地元特産品を使用した商品開発、9月～2月(鹿児島)</p>
<p>・学園祭(周辺地域小売店より商品を仕入、販売している)毎年10月・全学年  ・ビジネスマナー講座(近隣中学校への出前講座)毎年11月・各学年5名程度(沖縄)</p>

※ 特になし 3校

## <考察>

実施形態としては、学校行事や学年レベルでの対応が45件、「課題研究」「商品開発」等の授業におけるものが29件、部活・委員会や生徒会等によるものが25件であった。活動内容については、「地域イベント」等への参加が最も多く59件、次いで特産物を使った「商品開発」等が22件、「清掃活動」が15件、「デパートやキッズビジネスタウン」が14件であった。いずれの学校も地元自治体や商工会、企業と地道に連携に取組、企画運営に携わったり創意工夫ある活動によって多大な地域貢献が行われていることが分かった。具体的には、少子高齢社会、地域振興に対応した実践例が数多く報告された。クラウドファンディングによる企業支援、コミュニティバスのラッピング、地域ブランドの提案・商標登録、商店街CM制作、地域映画の制作、保育・幼稚園・小中学校での文化祭・体育祭・部活指導の支援、フリーペーパーやマップの作成、イルミネーション装飾、ガイド等の観光ビジネス支援、挨拶運動や雪かきボランティアなど時代や地域のニーズに応え活動の充実を図り、地域に根ざした学校づくりと生徒の成長に取組、地域に貢献していることが理解できる。

グローバル化社会が進展し、日本経済活性化の切り札として「観光の力」への期待が非常に高まっている。少子高齢化が進み、定住人口が減少する地域が一部で増える中、国や地域の歴史や文化、伝統、技術などを徹底的に学び、さらなる地域活性化を狙っている。「観光をデザイン」という視点から観光資源を掘り起こし、磨きをかけ、広く発信していく中で、観光を通じた地域振興が日本の活性化につながる可能性を感じる。こうした中、農業・工業・水産等の専門学科とのコラボを推進する一方で、商業教育の独自性を打ち出すことが求められる。なお、同一校で複数の回答事例があったため、校数ではなく、件数としてカウントした。

問7 地域に対して商業教育を理解してもらうために行っている実践活動があればご記入ください。

授業成果発表会(北海道)
実習販売会(旭商デパート)を開催して、販売だけではなく、日頃の部活動や学習活動の成果も公開している。(北海道)
①学校通信の発行(月1回、地域町内会、市内・近郊中学校。2500部配布) ②中学校への学校説明会 ③本校主催「学校説明会・体験入学」(中学校教員、保護者、中学生) ④インターンシップ(9月に3日間実施 2学年160名)(北海道)
弘前実業高校 日商簿記3級講座:弘前市民講座を簿記部生徒が担当。約1ヶ月にわたり、平日17:30開講。(青森)
3年の課題研究で地域貢献をテーマとし、既存商品の改良による商品開発、イベント企画提案と実践PR活動提案と実践等に取り組んでいる。また、10月には市内商店の出店協力を得て、学校を会場とし、2日間のバザーを伝統的に行っている。多くの来場者があり、生徒による商品販売、接客、会計等の実体験活動が行われている。(青森)
石巻復興人材育成協議会の開催 年2回(同窓会会長、大学教授、商工会議所、地元企業等の方々から本事業についての指導助言をいただく) ※事業内容:地域資源を活用した商品開発力育成プログラムなど～学習の成果を発表する場を設け、一般市民に向けて情報発信を行う(同じような商品開発をしている学校へ参加を呼びかけ、販売と発表を行う)(宮城)
・文化祭におけるマーケット ・盛岡市内各所におけるチャレンジショップの開催 ・小学校文化祭におけるチャレンジショップの開催 ・特別支援学校との交流(岩手)
中学校の要請を受けて出前授業に積極的に参加している。また文化祭等で開発商品を販売したり、小学生を対象に各運動部がスポーツ教室を行って本校の魅力をアピールしている。宮城県産業教育フェアに参加し、開発商品の販売やキッズビジネスタウンで生徒が小学生を相手に仕事の楽しさを伝えている。(宮城)
一定期間ではあるが、学校近くの商店街の空き店舗を借りて、販売実習を行った。また、商工会議所の依頼を受け、市民の方に簿記を教えたりした。(秋田)
地域の中学生に対して、商業科授業体験を毎年2月に開催(秋田)
市内の空き店舗を利用した販売実習なども行っている。(山形)
7月の学校祭の折に、一般公開日の中で、商業教育の成果を地域の方にPRする展示・発表などを行っている。(山形)
「専門高校と小・中学校のキャリア教育連携事業」平成27年度から3年間にわたって行われる県の事業である。キャリア教育を観点としているが、商業教育の魅力や地域の小・中学生に伝えることにより、商業教育の理解に繋がっている。生徒が小・中学校へ出向き授業を行う出前授業と、高校での設備を利用した体験授業を行っている。(福島)
1日参観デーに地域の方に参加していただいている。(福島)
・中学校へ出前授業、公認会計士協会と共催でハロー会計中学生講座を実施など、中学生と保護者を対象に実施している。 ・近隣の小中学校の教師及び保護者に学校評価アンケートを実施し、広く意見を聞き、学校の改善に役立っている。(茨城)
「石商便り」を定期的に発行し、地域の中学校に配布するとともに、高校周辺の区長さんをお願いして回覧板に入れていただき、地域の方々に商業教育を理解していただいている。(茨城)
・インターンシップ ・課題研究の科目で、地域活性化の取組等の研究(体験型) ・ジュニア・キャリアアドバイザー(高校生が小中学生を指導し、職業観・勤労観等を育成する)(栃木)
・ジュニアキャリアアドバイザー事業 地域の小・中学生と本校生徒が、商品開発や広告作成、販売に関する諸活動等を通して、本校教育活動への理解を図るとともに、参加児童生徒の勤労観、職業観を育成している。[平成27年度:小学生40 中学校36 高校生22 計98名参加](栃木)
・今年度より、地域の中学生や保護者を対象とした土曜説明会を9回実施予定である。説明や授業体験などを本校の生徒を中心にを行い、商業高校生の真の姿を見てもらい、商業教育の理解につなげる。 ・学校マスコット「たかびよ」を活用した学校案内ポスターやパンフレットの作成、小学校への訪問などを企画している。(群馬)
学校開放、オープンスクールの実施、短期インターンシップの実施(群馬)
インターンシップ、商品開発(和菓子)、地場産業を学ぶ(人形・組み紐)、文化祭に地域の企業と連携して販売活動を行う等(埼玉)
・中学校訪問の際、「〇〇商業高校“学び”を中学校の先生方に理解していただくために」という、リーフレットを全教職員分配布している。(埼玉)
千葉県産業教育フェアをイオンモール幕張新都心店で2日間開催し、その2日目にキッズビジネスタウンを商業部会が中心となって、他の産業系部会と連携し実施した。また、文化祭などにおいてもキッズビジネスタウンを実施している学校もある。仕事体験によるキャリア教育ととも商業に関する教育内容の広報にも繋げて実施している。(千葉)
地元企業と連携し、地元の特産物を活用した商品開発。地元の鉄道会社と連携し、生徒が開発した商品などの車内販売やイベントの開催。地元観光施設の空き店舗を利用した販売実習を実施。地元商店街と連携し、イベントなどに参加し、商店街の活性化を図る。(千葉)
チャレンジショップ「いきいき増商」を運営して、地域のイベントなどを中心に、開発した商品を販売している。(山梨)
「甲商デパート」という名称で学校デパートを11月に開催。毎年地域の住民の方々ほか、県内各地より3,000人近いお客様に来ていただいている。生徒が地域の商店から仕入をし、広告・宣伝、デパートで販売、決算処理まで行い、毎年楽しみにされている地域の方も多。(山梨)
①深川仲町商店街で7月と12月の年2回行われる福引抽選会にて、PRテープの作成と新鮮野菜即売会を実施 ②江東区産業会館フェアにて、江東区産業連盟と連携して夕張農協から仕入れた花豆、トラ豆、大正金時豆、夕張メロンビュアゼリー、キャラメル、キャンディの商品販売を実施 ③お江戸深川さくら祭りにて、NPO法人「江東水辺の会」と連携し、和船乗船のボランティアを実施(東京)
地元野菜の販売、地元商店街のHPの作成、販売実習(東京)
産業教育フェア、一日体験入学(サマースクール、オータムスクール)、学校説明会、学校へ行こう週間、厚木市と共催のリカレント講座(神奈川)
総合実践において、地域の老人クラブのお年寄りを招き、生徒がパソコンを教え、お年寄りからマナーを学ぶ実践活動を行っている。(神奈川)
・文化祭等での販売実習・商業クラブ研究発表大会・民間のビジネスコンテスト等への参加・NIE実践校として取組・市役所・県庁が主催する国際交流事業への参加 これらの活動を地域に対して知ってもらうため、審査委員長を地元企業の方、大学の教授、中学校長の方をお願いをし活動内容の理解を広めている。また、マスコミに取り上げてもらうことで広く地域にPRしている。(新潟)
・前記チャレンジショップの活動の中で、高校生が、小学校・中学校へ出向き、商業や経済の基礎について出前授業を行っている。 ・生徒が地域の特産物や観光について取材・編集したフリーペーパーを制作し、地元ホテルや道の駅などで配布している。(新潟)

模擬株式会社「TOMI SHOP」関連の諸活動(富山)
小学生を対象に模擬株式会社常設店での販売実習を体験するキッズビジネスチャレンジを実施している。 中学生を対象に模擬株式会社常設店での販売実習の体験学習を実施している。(富山)
「地域子ども交流館」「地域の祭礼」等に、本校模擬株式会社社員(生徒)が商品開発等で開発した商品を持参し販売活動をおこなう。(石川)
地域活性化を目的にして、学校行事「小商フェスタ」にて、全校生徒が地域の商店街と連携して、販売実習・イベントを実施する。(石川)
25年以上実施している武商デパートにおいて販売実習を通して商業教育の理解はもちろんのこと、越前市地域貢献活動支援補助事業において観光ポスターを作成した。また越前市の「観光資源の探求と効果的な情報発信」と題して授業の成果として高校生から見た越前市観光の在り方を報告するなどした。(福井)
ふくい職業教育フェア(課題研究発表会) 平成28年2月6日 プレゼンテーション発表 ポスター発表 取組みと成果を広く民間企業関係者や県民にアピールする。(福井)
毎年、長商デパート大売り出しを3日間実施している。今年で92回目を数える。(長野)
実習販売「須商・創成マーケット2016」、「くますぎクラブ」による地域連携及び商品開発、ホームページ、広報誌による紹介、公開授業(長野)
本年度から「ふじの国実学フェスタ」が10月に開催され、静岡県版産業教育フェアが再開される。(静岡)
商業教育への理解というより、商業高校の活動、PRといった意味合いが強い。(静岡)
・中学生向け会計・タブレット講座 (市内中学生を中心に公認会計士を講師とした会計・原価計算講座やタブレットを利用したIT講座の実施 6・12月実施)(愛知)
・地元生産の食材による商品開発 ・地元野菜や地元商品及び生徒が提案し商品化された商品の販売を行う朝市(愛知)
中学校、学習塾で開催される進学説明会への職員派遣(愛知)
地域のイベントに物販や部活動のイベントを実施して参加(岐阜)
中学校出前授業(岐阜)
マーケティングの授業での地元商業施設での販売実習や消費調査。地域住民へのパソコン講座(三重)
高校生による小学校への英語出前授業、小学生対象の仕事体験プログラム(キッズビジネスタウン)の企画運営(三重)
特に意識的な活動は行っていないが、地元商工会議所よりの依頼で、地元イベントでの小学生の販売実習における事前指導を実施した。(滋賀)
地元農家と連携し、農作物を使った商品を開発・販売する。地域活性化のため、地元商店街の空き店舗を利用し、販売・イベントを行う。中学校にむき「出前授業」や「ビジネスサマー講座」を実施する。隣接する大学食堂と連携し、メニュー開発やプロモーション活動を行い、地元のお客様に食事をしていただく。(京都)
問6で記載した、地域と連携した商品開発と販売実習です。産業教育フェアでも開催しています。 大阪では、校長会の下部組織として「ビジネス教育推進委員会」を13年ほど前から実施し、生徒の体験的な学びやキャリア教育の実践の場として、企業等と連携した取組を実施しています。昨年は「キッズドリームシティ」と称して、イオンモールを会場に商業教育のPRと小学生の体験学習を兼ねて、高校生がイベントを企画し運営しました。(大阪)
商店街のパン屋さんコラボレーションして、企画パンを販売(大阪)
小学校出前授業 5年生対象に本校教員が経済の仕組みについて授業(兵庫)
専修科の設置 成人を対象に商業教育を通してスキルアップする。地域学を設定し、地元の企業人を講師として招聘し、地域の産業を中心に学ぶ中で、地域に対して本校の有り方を理解してもらった。文化祭(ふれあい祭)で地域住民を招待する。(兵庫)
中学校にて、マナー講習会の実施(兵庫)
学校行事の課題研究発表会やインターンシップ発表会に参加いただき意見や感想等を出してもらおう。(奈良)
高田市内にある中学校3校にプレゼンテーションを行った。司会進行に合わせて本校と商業科についての説明、簡単な簿記の授業、高校生活ほどのようなものかまた、受験について、進路についてをその中学を卒業した生徒が説明した。(奈良)
「神鳥屋」という店舗名で、年間を通して30回程度の販売実習をおこない地域の方々に生徒の取組を知っていただけるように努めている。特に、イベント案内などは積極的にプレスリリースし、パブリシティの活用を心がけている。 また、生徒ホールを利用して地域の方々を学校に招き、生徒の考えた梅を用いた料理を食べていただくような試食会も開催している。(和歌山)
2年生、11月の3日間インターンシップで地元企業で職業体験を行うことで生徒が学ぶと同時に企業にも商業教育の重要性を理解してもらっている。(和歌山)
学校デパート(鳥商デパート) 地域に定着し、生徒の活動する姿にも高い評価と期待が寄せられている。(鳥取)
・地元企業との新商品共同開発 ・地元産品の販売実習(鳥取) ・大規模販売実習「松商だんだんフェスタ」の開催 ・チャレンジショップの開催 ・産学官連携による商品開発 ・中学生向けビジネスマナーの開催 ・中学生向け簿記体験学習の開催(鳥根)
・販売実習(浜商デパート) 10月初旬 全校生徒 1日開催 ・地元中学校への出前授業 不定期 中学3年生対象礼儀作法マナー(鳥根)
東商デパート、商品開発とそれに伴う販売実習、ブログ作成などWebによる広報活動、オープンスクール、中学生向け出前講座(マナー講習)、アクティブ・ラーニング演習、小学生向け珠算講座(岡山)
津商モール(全校生徒による販売実習) 11月 全校生徒 津山市特産品を活用した商品開発・土産物の企画提案 3年商品開発 鏡野町夢広場での春(5月)・秋(11月)のイベント参加(販売実習) 3年商品開発 商店街での販売実習、商店街ポスター作成 津山市、観光協会主催イベントでの販売実習 中学校への出前講座(マナー講座)(岡山)
「問6」の取組を通じて、商業教育への理解を進めている。(岡山)
模擬学校デパート(広島)
商店街のスペースや空き店舗を利用しての販売実習を毎年10月の第1日曜日に行っている。全校生徒約720人が参加する。毎年たくさんのお客さんが来られ、良いPRになっている。(山口)
中学校への出前授業、宇部まつりへの参加、宇部商デパート(山口)

香川県産業教育フェアに参加し、中学生や保護者、地域にPR(香川)
地元商店街における販売実習(坂商フェア「セキレ」) 地元イベント等(坂出市塩まつり、さかいで産業展示交流フェア)に参加し、イベント運営の補助や展示を行う。(香川)
複合商用施設やスポーツ会場等における販売イベントの実施(徳島)
各種催し等での販売実習、地元中学生を対象にオープンスクールを実施し授業を参観してもらう、地元食品加工業者と協力し商品開発を行っている。(徳島)
商神祭松商デパート:12月の初旬に、本校で販売実習を行う。商品は各クラスで仕入れ、クラスごとに販売を行い会計処理もする。誰でも学校に入り、お客となって商品を購入することができる。昨年度の来場者は1965人。多くの人に松山商業高校に触れてもらう良い機会となった。(愛媛)
各種イベントへの参加(あかがねミュージアム関連のイベント、大島でのイベント、春は子供天国など)(愛媛)
販売実習、ガイド実習(高知)
食1グランプリで開発商品の販売(高知)
倉商マーケット(商業教育の集大成として実施)(福岡)
「宇美商フェスタ」・・・販売活動を中心とし、各クラス2店舗程度を出店 「宇美商マーケット」・・・地域のスーパーマーケットでの販売活動 「オリジナル商品開発」・・・地域企業とのコラボレーションによる商品開発 「学校紹介広報活動」・・・学校紹介DVDやポスターを作成し配布(福岡)
①地域のFMラジオ(エアステーション ヒビキ)で月に2回、1時間番組を担当し、企画や運営(DJ、音声、タイムキーパー等)を行っている。 ②地元商店街やイベントにおいて本校オリジナル商品「河童弁当」「河童せんべい」を販売している。 ③本校文化祭(若商バザール)で、地域小学生による販売体験や納税についての学習を若松税務署の協力を得て実施している。(福岡)
今年8月末に佐賀県高校生産業フェアで県下の商業高校の教育活動をPRする企画を計画している。(佐賀)
県商業部会主催の「商業教育フェスタ」への参加。地域の商工会議所と連携した、地元特産品の商品開発。地域の中学校への出前授業(佐賀)
・地域開放講座(長崎)
①「中学生体験入学」毎年夏季休業中に1日実施 ②販売実習「熊商デパート」毎年12月に2日間実施 ③「インターンシップ」毎年9月に3日間2年生全員370人が体験(熊本)
「販売実習・球商百貨店」毎年10月末の土日に全校生徒(約330名)が地域協賛事業所の協力をいただき、販売実習を行っている。生徒は商品の仕入れ・販売・決算までの実践的な学習を行う。また、接遇マナー指導を行うことで販売員に求められる「おもてなしの心」を学ぶことにも成果をあげている。地域や保護者の皆様へ本校の商業教育の内容や成果を理解していただく機会とするとともに、地域の秋の風物詩として定着した学校行事となっている。(熊本)
商業調査部や課題研究での商品開発分野を選択している生徒による月1度の販売活動(大分)
部活動に所属している生徒(商業部)が開発したクッキーなどを商店街の店舗を借りて、土日曜日に販売を行っている。また、年間4回～5回程度地域のお祭りなどの行事に出店し、学習の成果を披露すると共に地域の活性化に貢献している。(1学年～3学年20名程度)(大分)
街中文化祭での販売実習、商店街の空き店舗を利用した生徒の手による店舗経営、大手コンビニエンスストアと連携した商品開発、楽天IT学校の指定を受けた、地元企業と連携したインターネット販売の実施(宮崎)
県全体では、農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉・の専門高校が、各地で「産業教育フェスタ」を開催し、地域住民、中学生等に学科での学習等を紹介している。(鹿児島)
上記の特色ある教育活動が、地域の多くの方々に受け入れられており、商業教育の理解にも繋がっていると思われる。(鹿児島)
・毎年開催の学園祭(通称:ドキドキSPOT那覇商バラダイス) ・ビジネスマナー講座(近隣中学校への出前講座)(沖縄)
商業デパート、うるま市とのゲッジョブ連携、小高連携等(沖縄)

※ 特になし 3校

## <考察>

最も多かった実践活動は、商品や販売にかかわる「商品開発」「販売実習」「デパート」で62件であった。これまでの商業教育における活動の代表的なものが、各校や地域の工夫努力によって進化し、普及・定着していることが伺える。地域や企業と学校の活動が融合しており、地域の活性化や商業教育の理解に大きくつながっていると考えられる。大手コンビニエンスストアと連携した商品開発など活動が拡充している。

次いで、教育内容の理解に関わる「出前授業」「体験入学」「学校説明会」「授業公開」が38件あった。教育課程、授業内容や生徒の様子などを理解してもらうことで、商業高校の魅力を伝え、商業関係高校への進学者の増大を図る取組として、極めて重要であり、様々な工夫を凝らしていることが分かる。

また、「学習成果発表会」「産業教育フェア」「キッズビジネスタウン」「模擬株式会社」が24件あった。

さらに、「インターンシップ」は7件、観光用・商店街活性化のための「ポスター」「フリーペーパー」の作成配布やホームページの作成が4件あった。

その他、「学校通信」の地域への配布、「学校評価アンケート」の実施、「地元FMラジオ番組を担当」という回答を得た。地域性による視点では、都市部に比べて地方は、相対的に地域密着度が高く、活動規模も大きく、商業高校が広く深く地域に根ざしていることを確認できた。なお、同一校で複数の回答事例があったため、校数ではなく、件数としてカウントした。

## Ⅱ 地域創生におけるこれからの商業高校像

### 問1 地域から期待される商業高校は、どのような学校だと考えますか。

地域が求める人材を輩出することができる学校(北海道)
地域の企業を活性化できる能力を身に付けた生徒を、地元企業に就職させる学校。身に付けなければならない能力とは、問題点を自ら見つけ出し、自ら解決策を考え、自ら実行できる人材(北海道)
社会人としての基礎的・基本的な知識と技術やマナーを身につけ、コミュニケーション能力や自主的に考え行動できる人材を育成できる学校(北海道)
商業高校は「よく気が利く」「熱心に働く」など、即戦力になる生徒を輩出する。就職や大学進学などの出口がしっかりと整備されている。人づくりをしっかり実践している学校(青森)
趣旨に記載されているような教育活動の継続により、地元企業の期待に応える人材の育成 地元大学と連携した専門的職業人の育成(青森)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を支える人材を育成する学校</li> <li>・地域の活性化に寄与する人材を育成する学校</li> <li>・地域とともに活動する学校</li> <li>・地域の魅力を全国、世界に発信する学校(岩手)</li> </ul>
あいさつ・マナー等しっかりできており、また、コミュニケーション能力を身につけ、卒業後、即戦力として活躍できること。普通高校との差別化ができていないこと。(資格取得・部活動等)(宮城)
卒業後に即戦力となって地域に貢献できる人材を排出していくことにより、地域社会との結びつきを確かなものとし、地域からの期待を裏切らない生徒の育成を心掛ける。特にビジネスマナーやコミュニケーション能力など商業高校として必須の技能を身に付けさせる。(宮城)
以前は就職がメインで現在もその傾向は強いものの、進学率が向上していることもあり、大学や専門学校でより高度な学びを目指す生徒のためにも、資格取得だけでなく、実習活動なども含め、「商業」を学ぶ楽しさが見える学校(秋田)
礼儀正しく、意欲的に働く意思と能力を持った生徒を育成する学校(秋田)
地域のリーダーとなれる商業高校生であり、さまざまなアイデアを創出し、将来地域の発展のために貢献できる人材の育成につながる学校(山形)
商業科としての基本的な学力や資格等を身に付けさせながら、地域の企業の中で中核となって活躍できる「人間力」に富んだ人材を、安定して輩出していくことのできる学校(山形)
地域企業経営者は、企業において即戦力となり、将来的には管理・経営に携わり、地域社会に貢献することのできる人材を求めている。基本的な学力やコミュニケーション能力、ビジネスマナーなどを身に付けた人材の育成が、商業高校に期待されている。(福島)
地域の企業を活性化させることのできる人材を育成する学校(福島)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の要望を広く収集し、確実に応えること。</li> <li>・地域からの要望への対応をその都度地域に広報し、理解を求めている。(茨城)</li> </ul>
「誠実・清潔・澁刺」という本校の校訓を実践し、マナー教育に力を入れるなど、さわやかな高校生を育む学校をつくる。また、地域や地元企業に将来リーダーとなって活躍する人材を送り出す。(茨城)
商業の学びを積極的に外に出すことにより、地域を活性化できる高校、積極的に地域の諸課題に取り組もうとしている高校がこれから求められる高校ではないか。地元も多くのことを期待しているのではないか。その高校が地域にどれだけ必要とされているのか、地域に貢献しているのかが今後とても重要ではないか。(栃木)
地域を支える人づくりを積極的に行う学校。専門的知識や技能の習得、コミュニケーション能力、課題発見力・解決力、実践力など、地域や保護者が求めている意向を的確に把握し、それらを備えた人材の育成を行う学校(栃木)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の企業からの採用ニーズに応えられる生徒を育成し、将来地域社会のリーダーとなりうる人材を育成すること。</li> <li>・就職にも進学にも対応し、礼儀、マナー教育を実践する地域から信頼される学校(群馬)</li> </ul>
地域の産業に貢献する。地域を明るくする生徒を育成できる学校(群馬)
地域の生徒を預かり、地域とともに育て、地域の人材として卒業させる学校(埼玉)
生徒が、卒業後地域企業に就職したり、大学進学後に就職先を地元求めて、地域産業を担い、地域の活性化を推進してくれる人材を輩出する学校(埼玉)
地域の企業などに就職して、稚氣に貢献することが期待できる人材を育成する学校。学校の持つ教育資源を地域の様々な場面で活用し、地域に活力を与える学校。地域の生徒が進んで入学し、学びたい学校(埼玉)
就職状況が良好であり、進学についても生徒が希望する進学先へ進む学校。これまで築いてきた伝統を継承し、地域貢献できる学校が求められている。(千葉)
商業高校が地域コミュニティの中心となって、地域の活性化に積極的に参画することにより、地域を愛し、地域に愛され、地域とともに歩む学校づくりを目指し、将来、地域で中心的に活躍できる人材を育成する学校(千葉)
その高校があることで、地域に活力が生まれるような学校。たとえば、地域イベントに参加する、地域企業とコラボ商品の開発をする、地域施設などと交流をするなどがあるが、最も大切なことは、卒業生を地域企業に就職させる(狭い地域の意味もあるが、県内という範囲も「地域」と考えて良いと思う)、つまり、地域に人材を供給し、地域に定着させることだと考える。(山梨)
実業高校であり、地元企業への就職率も高いので、地域で活躍できる即戦力となる人材の育成を期待されていると考える。(山梨)
地域の担い手となる「地域コーディネータ」としての人材育成が求められている。(人を巻き込むには、人を惹きつける「企画力」、協力者や参加者を集める「ネットワーク力」や「PR力」、仲間をまとめる「コミュニケーション力」や「ファシリテーション力」、活動を発展させる「組織経営力」が必要である。)(東京)
地域の子供達が、自ら進んで進学してきて、3年間きちんと学んで、卒業後は地元で貢献できる人材に育てる学校(東京)
地域産業の担い手として、即戦力となり、時代の進展にも対応できる人材を輩出する教育機関。 実際の・体験的な学習の場として地域に貢献し、活性化にも寄与できる商業高校生を育成する。(神奈川)
地域経済の特色と課題を理解し、企業や行政、大学等と連携して課題解決に取り組もうとする学校(神奈川)
「保護者の求める進路実現を保証してくれる学校」であると考えます。ここ数年、大学進学を希望する生徒、保護者が多くなっている傾向があると思いますが、一般入試で進学できる学力の向上を目指したいと考えています。(新潟)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かな専門知識と高い事務処理能力身に付けさせるとともに、地域への貢献意欲を醸成する教育活動を行うことで、地元企業等から必要かつ信頼される存在となる商業高校(新潟)</li> </ul>
産業社会の変化への対応と魅力的な商業教育を展開する学校。生徒の多様化への対応と望ましい職業観や勤労観、倫理観の育成を行う学校。課題の解決に向けたチャレンジ精神と人間性豊かな職業人として必要な資質の育成を行う学校。地域と連携しながら、地域への具体的な貢献を行う学校(富山)
地域の自然、産業、文化等の魅力を高校生の視点で情報発信をする。 地域活性化に向けて、イベントの企画を提案し、地域住民と協力して実践活動に取り組む。(富山)
高校生が、自分たちの学校の特色を生かして地域の活性化の一役を担う。(石川)

地域に根をはって、活躍する人材の育成をする学校 (石川)
地域において将来の有望な人材になること。生産以上に流通、販売の重要性が増している今日、その重要性を学んでいるのは商業教育である。また、消費の高度化が進んでいる現在、産業デザインや、消費者ニーズを的確につかむ情報収集能力の育成が大事であり、モラルも含めた情報通信機器を活用する力を有しているのも商業高校である。また、会計活用能力を活用した賢い消費者を育成するのも商業の大事な部分である。地域に根付いたよき産業人、よき市民、よき消費者の育成こそが地域から期待される商業高校であると考え。 (福井)
社会規範や高い倫理観を持ち、職業人として必要な基本的資質を身に付けた人材を育成すること 商業に関する豊富な知識や専門的な技術、コミュニケーション能力を身に付けた人材を育成すること 地域の社会的課題に対して自ら考えずんで解決しようとする意欲や態度を持った人材を育成すること (福井)
高校または大学等を卒業後、地域に残り(戻り)地域の活性化のために貢献できる人材を育成する商業高校(地域に根付いた活動ができる人材の育成) (長野)
・産官学との連携、地域との連携を通して地方創成に向けた人材育成に積極的に取り組む学校。 将来的地域を担う人材の育成(長野)
これまで求められてきた、コミュニケーション能力やビジネスマナーに加え、商業における4分野をバランスよく学び、課題研究等の授業において地域課題等を題材とすることで課題解決能力を身に付け、自らの目標に向け、意欲的にかつ主体的に活動し、他を思いやる心と高い志を持ち、感性豊かで健全な心身を持った社会に有為な人材が求められている。(静岡)
地元企業等に就職し、そこで能力を発揮する人材を育成すること。 文字どおり「地域を支える人材」「地域を活性化することができる人材」の育成と考える。(静岡)
生徒が生き生きと楽しく活動できる学校。教職員がやりがいをもって取り組める学校。保護者・地域に開かれた学校 (愛知)
・商業高校の日々の教育活動が地域の活性化に繋がっている学校 ・商業高校の卒業生が商業の学びを生かし、地域企業で活躍し、企業と密接に連携がとれている学校 (愛知)
ビジネスの基礎・基本を身に付けた上で、その能力を地域の発展に活用する学校 (岐阜)
就職時に即戦力として活躍できる人材の育成(Uターン就職) (岐阜)
高い実践スキルを身に付けると共に、高いレベルでのビジネスマナーやコミュニケーション力を身に付けた人材の輩出できる学校 (三重)
商道德(三方良しの精神)の大切さを理解するとともに、商業の専門的知識や技術をベースとして、地域と連携した地域活性化の取組に挑戦し、地元企業への就職や経済・経営方面への進学にも対応可能な学校(三重)
各地域において、それぞれの地域の特徴を活かした自律的・持続的な社会の創造を目指し、地域文化の理解教育の充実後継者の育成等を考える。(滋賀)
地域経済を担う人材の輩出 地域との連携・関係性を深め、地域経済や地域活性化に寄与する活動への参画など(滋賀)
地域から期待される商業高校は、地元で継続して貢献できる人材の育成ができる学校だと考える。そのためにも商業高校と地元企業や関係機関との活発な連携が必要不可欠になる。地域のイベントなどに積極的に参加し、地域活性化の核となりうる人材の輩出が期待されている。(京都)
しっかり進路保障すること(京都)
地域を企業として置き換えて述べるとすれば、即戦力となる若年労働者として、コミュニケーション能力や商業の専門的な技能や知識が求められると考える。単純に地域として考えれば、地域の課題を共に考え、行動するパートナーとなるべきである。具体には、イベントや防災訓練等におけるボランティア参加や地域の特性を踏まえた新たな商品開発やビジネスの創造などが考えられる。このような取組を通じて学校のブランド力(〇〇商業高校がやってくるから人が注目する)を高める必要もある。(大阪)
地域の人に誇っていただける学校(大阪)
地域社会のニーズに合った人材の育成を行う学校。中学生・保護者にとっては魅力的な学びの内容があり、将来の進路選択に有利な学校。地域企業にとっては基礎的な社会人を備えている人材を育成する学校(兵庫)
夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいく力を身に付ける。 地域の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を育む。(兵庫)
地域に根付いた活動を継続できること。(兵庫)
・幅広くビジネスマナーやコミュニケーション能力を兼ね備えた生徒の育成 ・地域開放や交流等、ネットによる情報発信を積極的に推進している学校(奈良)
本校の場合は「進学も就職も出来る近畿一の商業高校」であるとアピールしている。ビジネス教育は最終的には「ひとづくり」であることから「挨拶・言葉遣い・礼儀作法等のビジネスマナー」「より高い専門的知識・技術習得のための上級資格取得」「心身共に鍛えるための部活動の充実」という3本の柱をたて「自らの行動で夢を実現する」ことを目指している。(奈良)
卒業時に地元で就職し地域を支える人材を供給するだけでなく、進学・地元以外で就職し、そこで得た経験を元に自らの仕事を持ってUターンできるような人材を育成する。また、神島高校が所在する田辺市は、高等教育機関(大学・短大・専門など)が存在しないことから、地元企業や行政に対して積極的に係わり産官学の連携をはかる。(和歌山)
職業高校として、基礎的な学力・資格取得はもちろんのこと、即戦力となる高度な資格取得やコミュニケーション能力をもった人材の育成(和歌山)
・生徒が落ち着いた学校生活を送っている。 ・各自の進路目標を十分に達成することができている。 ・卒業した生徒がしっかりした職業観を持ち、地域の産業経済界で活躍している。(鳥取)
地元企業を支える人材、後継者の育成(鳥取)
「地域の期待に応えるビジネス教育を推進し、地域産業界を担い、将来の地域のリーダーとして活躍する人材を育成する学校」そのために ①開かれた教育活動を展開し、地域に必要とされる学校 ②高度な資格に挑戦し、専門的知識・技能を身に付けた将来のスペシャリストを育成する学校③変化に対応でき、自ら考えて行動できる人づくりをすすめる学校(島根)
地域の課題を見つけそれを解決していく人材の提供できる学校。生徒の様子、教職員の様子がわかる、見える学校。地域に根ざした学校(島根)
専門的な知識・技術を身に付け、実社会での活動を通して社会人基礎力等を備えた人材を育成する学校。コミュニケーション能力のある、地域活性化に貢献する人材を輩出する学校。面倒見が良い学校であり、生徒が生き生きと勉強や部活動に取組、保護者が通わせてよかった、自身が通ってよかったと思える学校(岡山)
地域で活躍する人材の育成をしている。地域のイベントへ参加し盛り上げている。企業と連携し、地域資源を活用した街づくりに取り組む。小・中学生へ指導をしている。各種のボランティア活動に地域と一緒に取り組んでいる。(岡山)
即戦力となる人材育成ができる学校。郷土愛を持った生徒を育むことができる学校。地域の様々な活動に参加し、若い発想で大人とともに積極的に活動できる生徒を育てる学校(岡山)
資格取得や検定合格等をステップとした専門的知識・技能の育成に力を注ぐとともに、社会人としてふさわしいマナー実践力の向上に努める等、常に先進的な教育実践に取り組んでいく。(広島)
地域とともに活動できる。提案ができるなど(広島)
地元経済社会に対して、商業に関する知識技術が発揮でき、かつ、誠実で信頼のおける人材を輩出する学校であるべきと考える。(山口)
・積極的に地域連携を図り、情報発信できる学校 ・地元を中心に活躍できる社会人を育成する学校(山口)

人材育成(香川)
将来の地域社会の担い手を育成する(香川)
礼儀・作法・ビジネスマナー・基礎学力・コミュニケーション能力等しっかりと身に付けさせ、地元就職しようとする強い意欲をもつ生徒を育成する学校(徳島)
学力はもとより人間性の向上を目指す。ネット販売や将来の起業家の育成 地域の資源を生かし、地域の情報を発信し、地域産業の担い手となる。(徳島)
地域のイベントに積極的に参加し、商店街に協力することができる。部活動などを見学に来たい人を受け入れ、地域の人たちに応援され、愛される学校。地域の良いところを理解し、それを発信する力を持った高校生の育成(愛媛)
地域のために貢献できることを自身の喜びとして実感できる生徒の育成をすることができる学校(愛媛)
地域貢献に携わることができる人材の育成(高知)
地域の農作物を利用した商品開発や商品開発をすることにより企業と結び付ける活動(高知)
地域の小さなコミュニティから企業各社、あらゆる産業現場において商業高校で学んだことを活かして貢献できる人材を多く輩出していると評判で信頼のある学校(福岡)
商業科目を学習することにより、高度な資格取得、ビジネスマナー、コミュニケーション能力等を育み、地域にまた社会に必要とされる人材を育成する。そして、商業教育を通して生徒の第1希望進路を実現し、社会に貢献できる人材を輩出する。(福岡)
地域経済の活性化に参画し、地元企業から必要とされる学校であること(福岡)
①生徒の日頃の態度、登下校の服装等を含めてきちんとしている。②進路がしっかりしていて、行きたい学校になっている。③学習はもとより部活動など生徒が生き生きとしている。④普通高校や他の専門高校と比較して、商業高校に魅力がある。(教育内容がしっかりしている)(佐賀)
ビジネスの専門スキルを身に付け、地域の経済発展に貢献できる人材を育成する専門高校(佐賀)
①地域の核となる人物を輩出する学校 ②地域に根付いて働く人材を多く輩出する学校 ③地域活性化のための提言ができる学校(長崎)
・地域からの信頼などに応じて協力すること ・卒業後に地域のために貢献できる人材の育成(長崎)
商業高校で学んだ商業の基礎・基本を生かして、地域の産業全般の仕事に就くことのできる人材を育成する学校(熊本)
生徒、保護者が本校で学んだ商業の専門的な知識・技術を基礎として、適性にあった進路を保証できる学校こそが期待されていると考えている。さらに、地域に残り、地元の産業を担う人材の育成が求められている。そのためには、地域に根ざした商業教育の展開が重要である。(熊本)
地元企業に就職し、地域経済の発展に積極的に係わることができる人材の育成(大分)
学習の成果やボランティア活動を通して、地域の活性化や将来的には地元就職して地域に貢献する人材の育成(教育者として後輩の育成に携わる人材育成も含む)(大分)
就職した企業において、商業高校出身者はさすがだと評価される人材を輩出すること(宮崎)
地域産業の担い手となる将来の起業家を育てる学校(地域で即戦力として働き、創造的、戦略的な思考を持って、主体的に経営に参画できる能力を育てる学校)
地域の伝統や文化に興味・関心を持ち、地域の活性化に積極的に取組、その担い手となる人材を育てる学校 職場において、簡単なコンピュータネットワークの管理やホームページの作成、管理ができる人材を育てる学校(宮崎)
商業に関する知識や技術の習得と資格取得。地元企業を中心とした事務系や販売系への就職。高度資格等を活かした上級学校への進学(鹿児島)
商業高校が取り組む様々な教育活動が、地元の特徴やニーズに合致したものであることが重要である。地域で企画されるイベントや催し物等に積極的に参加し、協力することで学校の存在意義が高まり、信頼関係が生まれる。校内においても、地域活性化の糸口となるアイデアを構築し発信することで、地域に刺激や活力を与えるとともに、地域に愛される魅力ある学校づくりが展開できる。(鹿児島)
自立した社会人・職業人を育成し、その実績により保護者・地域に信頼されている学校(沖縄)
地域を潤す産業人を育成できる学校(沖縄)

## ＜考察＞

地域から期待される商業高校については、主に、「人材育成」「地域から求められる学校」「進路実績」「普通科高校との差別化」などに分類される。

例えば、人材育成では、資質・能力を備えている人材の育成がある。具体的には、基本的な学力、課題発見・解決力、社会人としての知識や技術、マナー、コミュニケーション能力、自主的に考え行動する力、即戦力、勤労意欲・能力などがある。

そして、地域貢献できる人材の育成がある。具体的には、地域が求める人材、地域社会へ貢献する人材、地域企業の活性化に貢献する人材、地域を支える人づくり、地域で活躍する人材、地域企業の期待に応える人材、地域のリーダー、地域企業での中核人材、人間力のある人材、大学と連携した専門的職業人などである。

次に、地域から求められる学校としては、地域貢献する学校、地域を活性化する学校、地域要望に応え発信する学校、地域課題の解決など地域貢献する学校などがある。

進路実績では、生徒の進路希望の実現を図る学校である。具体的には、就職希望者については、就職状況が良好であること、進学希望者については、生徒が希望する進学先へ進める学校などがある。

普通科高校との差別化では、特色ある商業高校である。具体的には、商業を学ぶ楽しさが見える学校、生徒が学びたくなる学校などがある。

地域から期待される商業高校は、生徒が経済社会で活躍するための様々な資質・能力を備え、地域の活性化など地域貢献できる人材となるよう育成し、進学や就職など生徒の進路希望を高いレベルで実現する学校であるとともに、商業高校が個性化・特色化を図り、地域から求められる学校であることが分かった。



**問2 学校が立地している地域を活性化させ、地域創生を行うために、商業高校として既に行っていること、あるいは今後行おうとしていることがあればご記入ください。**

<p>地元企業と協同し、地域のニーズに応える活動を行う。(北海道)</p> <p>コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを向上させるために、アダプティブラーニングを駆使した学習環境を整え、学校全体で人間関係イノベーションを実施する。(北海道)</p> <p>地域行事やボランティア活動に積極的に参加することで、地域を活性化しようとする意識の高い生徒を増やす取組をしてきた。今後も継続的に取組を行い、地域から必要とされる学校を目指し、地域で活躍することの出来る人材の育成をしていく。(北海道)</p> <p>企業と連携した学習を通しての専門性の深化、業界の理解(青森)</p> <p>地域の人たちが本校のチャレンジショップ開催を心待ちにしていることから、地域の活性化に役立っていると思う。今後は、岩手県産品の販路開拓(海外を含む)に取組たい。地元企業と連携し、引き続き商品開発に取り組む。「観光」に目を向けた取組を行いたい。(岩手)</p> <p>地域に対する興味・関心を高め、地域の復興に貢献しようとする態度や姿勢を育成することを目的に石巻復興人材育成事業を実施している。(宮城)</p> <p>地域の特産物を使った商品開発や観光名所などの紹介等による町おこし活動を通して、地元企業や行政との連携体制を構築している。(宮城)</p> <p>数年前(能代商業高校のとき)より、「檜山茶保存会」という組織と一緒に、「北限の茶」とされている「檜山茶」の摘み取りをして「檜山茶」を使った商品開発を行ったり、イベントにおいて本校茶道部による呈茶などを行った。(秋田)</p> <p>ビジネス実践(10月下旬実施、1年240名:キッズ、2・3年480名:3分野より選択)</p> <p>主な内容 AKISHOP:秋田産の食材を使った商品開発、地元企業と連携しての商品開発 キッズビジネスタウン:地域の子ども達へ社会教育エコロジカルビジネス:地域の人材活用(秋田)</p> <p>お祭りに参加し、地域を元気づける役割になったり、空き店舗での販売実習をし活性化させたり、産業フェアで商品販売やサービスの提供をおこなっている。(山形)</p> <p>地域のイベントなどにおいて、地元商店とタイアップして商品の販売などを行っている。(山形)</p> <p>地域活性化を目標に3年次の課題研究において、商品開発や作品制作に取り組んでいる。地域企業と連携を取り、企画や販売等に向けた提案を行い、評価やアドバイスをいただくなど、実践的な活動に取り組むことによって、生徒の郷土愛を育むことにも繋がっている。(福島)</p> <p>福島県はいまだに風評被害が払拭できていない現状があるので、地域の産品を利用した商品開発等を通して、福島県産品の食の安全をPRしていく。(福島)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の企業、市町村や県に対して商業高校の取組を伝える。(広報活動)</li> <li>・地域で学ぶ体験的な学習を積極的に進めている。(茨城)</li> </ul> <p>毎年、3年生の課題研究で、「商品開発」を選択した生徒達に、地元の企業と連携して、商品開発をしてもらい、地域の活性化に貢献している。昨年は、地元の菓子店と連携して、パレンタインデーに合わせて「石岡サンド」を創作し、大好評を博している。今年度も、更に工夫を重ね、充実した新商品を創作すべく取り組んでいる。(茨城)</p> <p>地域のベンチャービジネス企業とタイアップし、様々な活性化事業に参加する、自治体、商工会議所、地元銀行や大学、企業などを連携しながら地域活性化を考えていく。(栃木)</p> <p>未来想像推進事業「コムプロジェクト(『Com.』project)」の実施。授業、学校行事、生徒会活動、部活動など、校内の教育活動において、地域資源を活かした体験的・実践的なキャリア教育の取組を現在展開中である。(平成26年～)(栃木)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス研究部ブライダル班は、地元ウェディングプロデュース企業と連携し、生徒による結婚式のプロデュースを継続して行っている。昨年度は2組の結婚式のプロデュース、サポートをした。</li> <li>・ビジネス研究部マーケティング班は、地元企業や福祉施設のコンサルティングを行い、業務改善の提案や企画作成を行っている。(群馬)</li> </ul> <p>授業公開の機会を増やしている。(群馬)</p> <p>既に行っていること — 特にありません 今後行おうとしていること — 地域企業との連携事業・地域企業の方を招いた授業の実施、ケーススタディの対象や実践的な活動のフィールドとして地域企業の協力を得ることなどにより、生徒の地域産業への理解を図り、地域への就職意欲を高める。(埼玉)</p> <p>商工会、ロータリークラブ、区役所等と連携協力をはかり、祭りやイベントに積極的に参加させるとともに、課題研究・総合的な学習の時間などを活用して地場産業を学ぶ(人形・組み紐等)、商品開発を行う等の取組を連携している。生徒の職業観や勤労観を身に付けさせるためインターンシップをお願いして社会人として正社員として働く意義等を学んでいる。(埼玉)</p> <p>地域の行事への協力(埼玉)</p> <p>地元市町村を魅力ある街にするため、課題検討を行い、高校生ならではの発想による地元特産品を活用した商品開発や新たなサービスを提案する。実際に産学官の連携のもと実践していくことが重要と考えている。(千葉)</p> <p>地元企業と連携し、地元の特産品を活用した商品開発。地元の鉄道会社と連携し、生徒が開発した商品などの車内販売やイベントの開催。地元観光施設の空き店舗を利用した販売実習を実施。地元商店街と連携し、イベントなどに参加し、商店街の活性化を図る。(千葉)</p> <p>「現在取り組んでいること」学校デパートの開催。地元特産品(ゆず、ラ・フランス)を活かしたお菓子の開発とチャレンジショップでの販売。ヴァンフォーレ甲府(J1サッカーチーム)と梨の関連グッズの開発。地元特産品栽培農家の手伝い(山梨)</p> <p>山梨では、果樹の生産が盛んである。そのため本校でも、今年度は地域の名産品であるブドウなどの果物を使った商品を、地元企業の協力を得て開発を考えている。(山梨)</p> <p>①由緒ある富岡八幡宮や深川不動尊を中心とした門前仲町商店街振興組合と連携し、外国人を含む観光客の集客方策の開発が進行中である。 ②高大連携事業の一環として、大学のゼミ生と高校生が連携し、深川仲町商店街振興組合から情報提供を受け、地域商店街を取材し、取材した情報をフェイスブックで公開しPRする取組を進行中である。 ③今年11月に江戸の台所である「築地市場」が豊洲地区に移転する。それに伴う周辺地域での新興企業と連携し、新たなビジネスプランを模索中である。(東京)</p> <p>地元商店街の空き店舗経営(東京)</p> <p>地域のICTスキルを向上させるため、厚木市と共催で、厚木市民対象にリカレント講座を毎年実施している。(神奈川)</p> <p>観光都市・横浜の創生に貢献できる人材の育成を目指し「課題研究」において、「観光プラン立案」「国内旅行業務理解」「観光学」の3つのテーマで班ごとに取り組んでいる。「観光プラン立案」では、観光プランコンテストへの応募をはじめ、旅行者や横浜市との連携によるレクチャーを行っている。また、「観光学」では、大学との連携によるゼミ形式の講義を予定している。(神奈川)</p> <p>商品開発の取組は既に行っており、ある特定の企業と連携し地域の活性化を図っていますが、もっと広い意味で地域の活性化させる程の取組には至っていません。今後、地元商業会議所などが開催するビジネスコンテストなどと連携し、本当の意味で地域活性化ができるプランを策定できる活動に参加できるとよいと考えています。(新潟)</p> <p>小学校・中学校・大学が連携する模擬株式会社形式のチャレンジショップの運営を、商工会議所や商店街連合会の支援を受けながら10年以上にわたって行っている。(新潟)</p> <p>模擬株式会社「TOMI SHOP」関連の諸活動(富山)</p> <p>企業と連携して地域の特産品を使用した商品を開発し、地域の朝市、イベントに出店して販売活動を実施している。 模擬株式会社常設店において地域の特産品を販売している。(富山)</p> <p>[I]問6及び問7の継続的な開催。今後は、地域の小中学生が参加できる企画を計画する。(石川)</p>
---

地域連携を深め、地域創生への提言や活動への参加活動(石川)
地元企業と連携した商品開発や高校生の目線から観光資源の発掘など(福井)
学校設定科目「観光マーケティング」で福井県の観光を課題の一つとしてマーケティングを学習し成果を情報発信する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い技術力を持った福井の産業の魅力を調査</li> <li>・海外で紹介したい福井の魅力や食文化について福井大学留学生との意見交換</li> <li>・福井県の魅力を発信する観光プランニングの立案(福井)</li> </ul>
地元の特産品を活かした商品開発 国内外の観光客の誘致のための地域の魅力発掘と情報発信(長野)
地域のイベントに積極的に参加している。(長野)
商業における4分野をバランスよく学び、課題解決能力や自発的・創造的な学習態度の育成を図るために、課題研究等において、地域課題を題材とすることによって学習の場を校内から地域等へと広げ、校外外において学習成果を発表する機会を拡充し、地域の人材を活用して外部(第3者)の評価を積極的に取り入れていくために、カリキュラムマネージメントに取り組んでいく必要がある。(静岡)
「学校が中心となり、保護者、地域住民、関係機関など地域社会が協同して生徒を育てる」という社会的合意を形成することである。(静岡)
ESD(持続可能な開発のための教育)活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・みつばちプロジェクト(屋外での養蜂とはちみつを活用した商品開発等)</li> <li>・はるかのかのひまわり絆プロジェクト(ひまわりを育てる中で植物の世界のしくみやその循環していく命の大切さを学ぶ)</li> <li>・文化のみちプロジェクト(地域のまちそだての会と連携した環境・観光まちづくり活動)</li> </ul> SPH(スーパープロフェッショナルハイスクール) <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルプログラム(海外インターンシップ・姉妹校交流・インバウンド観光・NPO法人運営)</li> <li>・アントレプレナーシッププログラム(企業協同バンク設立・特産市開催・他の専門高校との連携)</li> <li>・スペシャルプログラム(日商・全経上級プロジェクト・アプリ開発・語学力向上)(愛知)</li> </ul>
・商品開発を通して、商業高校が原材料を地元から発掘し、その原材料を使った商品を地元企業に商品化のプレゼンテーションを行い、そして商品化された商品を朝市や地元のイベント等を活用して地元で消費させる活動を行っている。(愛知)
(株)GIFUSHOによる実践的なビジネス活動をととして岐阜の地域経済の発展に貢献する。(岐阜)
各種の地域イベントへの参加(開発商品販売等)のみならず、地域行政や経済活動等への参画(三重)
商業の専門的な知識や技術を活用するとともに、地元大学との連携を取りながら、地域の特性と課題を分析し、地域活性化策を提案する。(三重)
地場産業や特産品、観光などの理解、近江商人の精神などの学習、ビジネス形態の変化に伴う社会人講師などの登用(滋賀)
生徒が地元地域の活性化フォーラムに参加し、高校生(若者)の視点から情報・意見交換等を行った。(滋賀)
地元農家や企業と連携し、農作物を使った商品を開発・販売する。京都府と連携し、海外での販売を行う。外国人対象の農業体験ツアーを企画し、インバウンド需要を高めるプロモーション活動を海外で実施する予定。(京都)
大阪(市)全体として考えれば、地域企業と連携した商品開発やイベントへのボランティア参加、地域ビジネスの企画・プランニングとその発表(コンペ参加)など幅広く行っている。授業での取組と部活動やボランティア活動などを有機的に組み合わせて、学校所在地の町会や商店会との新たな連携やイベントを創造し、地域に認められ愛される学校にしていくことが求められると考えます。(大阪)
地域の商店街とのコラボレーション事業。地域イベントへのクラブ参加(吹奏楽部、軽音楽部等)(大阪)
これまでは神戸市内の百貨店や地元商店街などで販売実習を行い地域活性化を目指す人材の育成に取り組んできた。本年より3年間SPHの研究指定を受け「貿易人KOBÉ」育成のために商業教育の持つ総合力を生かして(兵庫)
学校設定科目(長田学)で地域の商店街や企業の方を招いて、今後の地域貢献をまとめた「長田学読本」を製本した。 この学習を通して、①生徒自らが課題に取り組んでいく土台作りが出来た。②コミュニティ意識が変容してきた。③社会人基礎力の向上がはかれた。(兵庫)
地元の食材を使った商品開発(具-1グランプリ出場)を通じて、地域創生に対する意識付けをする。(兵庫)
学校に立地している地域を含め、それ以外の複数の地域と連携協定をおこない、様々なイベントに参加して交流を深める。(奈良)
大和高田市商工会議所と連携し、大和高田市の地域特産品として育てている「さくらコットン」を商品化する計画を課題研究で取り組んでいる。そのために高田市と綿についての歴史を調べ、実際に学校内で綿を栽培した。また、アンケート調査から集計し売れ筋の分析をし、綿工場へ実態調査に出向いた。(奈良)
「商品開発」だけで終わるのでなく、開発商品を用いたイベント等を通して「まちづくり」や「ひとづくり」につなげていきたい。昨年度、実施した「UME-1グルメ甲子園」では生徒実行委員会として運営に係わった生徒は貴重な経験ができたと考えられる。 開発したレシピは地域に公開しているが、そのレシピを活用していただけの店舗も現れている。開発レシピの中から「梅やきとり」を地域ブランド化し、ご当地グルメとすることで新たな観光需要を創り出したい。(和歌山)
地元企業と提携した新商品の開発・販売、地元商店街との連携による商業教育フェスタの開催、大阪で行われる和歌山県産品商談会への出展のお手伝いなどを行っている。(和歌山) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校デパートが地域で評価され定着している。</li> <li>・学校デパートに取り組む生徒の姿に地域からの期待も高い。(鳥取)</li> </ul>
各種のイベントに参加(鳥取)
「松江をもっと元気になりたい」をコンセプトとしての「松商だんだんフェスタ」の開催。松江発祥のプログラミング言語「Ruby」の学習:情報処理科。島根商工労働部との連携事業「IT人材育成」(島根) 現在 ・地元企業との商品開発。地元行事への積極的参加。地元行事へのボランティア参加。公民館活動への参画 今後 ・地域系部活動推進事業への参加 ・地元企業が必要とする人材の育成(島根)
既に行っていること 地元企業と提携し、地元の会場(岡山ドーム)で全校生徒が今まで学んだ知識を生かして取り組む「東商デパート」、商品開発、商店街や後楽園等の観光地で行う販売実習、キッズビジネスパークのボランティア 今後行おうとしていること 地元商店街への「東商デパート」サテライト店の出店、商店街ポスターコンクール、地元企業と提携した商品パッケージデザイン(岡山)
津商モール、販売実習等を通しての地域コミュニティへの積極的参加。商業高校が地域住民の憩いの場となること。(岡山)
上記「問6」以外に、本年度は8月に「学生マルシェ」を計画している。 商業高校での学びを活かし、玉野市内外の高校へ出店依頼を行い、高校生版「UNOICHI」を開催する予定である。(岡山)
地域の祭りに参加、商工会議所との連携(広島)
地元商工会議所と連携して地域ブランドを興し、それを地域経済のために活用させている。 内容は[1]の問6と同じ。(山口) <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の方を講師として話を聞く。</li> <li>・行政(市役所等)や企業との連携(商品開発)(山口)</li> </ul>

かがわの高校生地域創生ビジネスアイデアコンテストの実施 各種地域イベントへの参加(香川) 地元商店街における販売実習(坂商フェア「セキレ」) 地元特産品を利用した商品開発(「そるとろプリン」、「小原紅早生みかんどーナツ」)(香川)
地域のことを良く知り、様々な問題に対して柔軟に対応できる生徒の育成、観光ガイドや商品開発力を持った人材の育成など(徳島)
地元農作物や特産品を使った商品開発。生産・加工・販売までを一貫して行う6次産業化。観光体験プログラムの作成や、観光ガイド等のインストラクター養成(徳島) ・11月に毎年、城山門前まつりが松山ローブウェイ街で開催されており、松商生が各商店のお手伝いをしている。また、吹奏楽部がミニコンサートをしたり、松商生が考えた「たんたん」という狸の着ぐるみを着て、イベントを盛り上げている。(愛媛)
新居浜沖の大島の活性化に向けての取組(商業・工業・農業による3高校合同白いもプロジェクト)(愛媛)
地元観光事業活性化のための活動(高知)
日曜日や地域商店街の活性化、地域の農作物を使った商品開発(高知)
産官学と連携した商品開発やマネジメント研究(福岡)
現在行っている「そろばん教室」や地域との連携等をより充実させながら、地域とのコミュニケーションを深める。(福岡)
本校周辺には工場や商業施設があるため、地元企業に就職し地域に貢献すること。 インターンシップにより職業理解と勤労観を育成すること。(福岡)
地域にある企業等コラボして、商品企画や販売を行っている。(佐賀)
地域の商工会議所と連携した、地元特産品の商品開発(佐賀)
地域商店街の複数の店舗に入って、販売実習を計画している。 高校生の視点から、店舗設計、仕入計画、商品開発などを行う。(長崎) JA老岐と提携した野菜作り及びその販売実習。老岐の特産物を使用した商品開発(H27年度はアップレカレーを製品化)。老岐市内の企業と提携した商品開発を今後予定。ふるさと商人体験学習の実施(職場体験学習)(長崎)
「日本遺産を巡るバスツアーの企画・実施」本校では、課題研究において「地域活性化」をテーマに調査研究に取り組んでいる。平成27年度は、人吉球磨地域が文化庁より日本遺産に登録されたことをモチーフに、地域の自治体や企業の協力を得ながら観光客を招き入れるためのバスツアーを企画・実施し、その資料を分析した研究発表を行い、地域の高い評価を得た。この発表で本校は、平成27年度全国生徒商業研究発表大会に出場している。(熊本)
今年100周年を迎える本校としては、地元の企業に多くの生徒が就職し、地域経済の発展のために日々活躍している。今後とも地域に信頼される歴史と伝統ある魅力ある商業専門校として地域創生をに努力していきたい。(大分)
地元の青年会議所との連携や観光協会と連携した海外の教育旅行の受け入れ(学校間の異文化交流と地域観光の連携)(大分)
・地域活性化の一端を担う賑わい創出事業として実施している、駅前商店街における街中文化祭 ・商店街の空き店舗を利用した生徒の手による商店経営(宮崎)
ボランティア活動。地域行事等への参加。地元企業と行う商品開発やインターンシップ(鹿児島)
指宿市は県内でも有数の観光地であり、訪れる観光客数はかなり多い。しかし、近年は日本人よりも外国からの観光客が増加傾向にある。今後は、本校で学ぶ韓国語・中国語の学習の成果として、インバウンドをターゲットにした「おもてなし活動」を展開したい。(鹿児島)
学校近くの「那覇クルーズターミナル(大型クルーズ船入港施設)」で入国する外国人向けのサービスやビジネスを生徒と共に模索しています。(沖縄)

※ 特になし 3校

## ＜考察＞

学校が立地している地域を活性化させ、地域創生を行うために、商業高校として既に行っていること、あるいは今後行おうとしていることについては、主に、「地域連携」「資質・能力の向上」「教育内容」「教育目標」「教育施策」などに分類される。

例えば、地域連携では、地域貢献、地域イベントへの参加、地域活性化、企業連携、地元企業と連携し地域ニーズに応える活動、地域ベンチャー企業との連携、地元企業や行政との連携を通して町おこしなど地域活性化、子供たちへの貢献、地域へ学校の取組の情報発信、授業公開などがある。

生徒の資質・能力の向上では、専門性の深化、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、地域理解、業界の理解などがある。

教育内容では、観光名所の紹介、販売実習、地域の産品や食材を使った商品開発、課題研究による商品開発、作品制作、地域で学ぶ体験的な学習、体験的・実践的なキャリア教育、地元ウエディングプロデュース企業と連携し生徒による結婚式のプロデュースや、地元企業や福祉施設のコンサルティングを行い業務改善の提案や企画作成を行う取組などがある。

教育目標は、専門性の深化、人間関係力、地域理解、地域ニーズに応えることなどの地域貢献の精神、郷土愛、食の安全などがある。

教育施策としては、産業フェアでの商品販売やサービスの提供の他、地域に対する興味・関心を高め地域の復興に貢献しようとする態度や姿勢を育成する石巻復興人材育成事業、授業・学校行事・生徒会活動・部活動など校内の教育活動において地域資源を活かした体験的・実践的なキャリア教育の取組の未来想像推進事業「コムプロジェクト(『Com.』project)」などがある。

学校が立地している地域を活性化させ、地域創生を行うために、商業高校として既に行っていること、あるいは今後行おうとしていることについては、商業高校として設定する教育目標のもと、地域との連携を積極的に行って、生徒の育てたい資質・能力を向上させる教育内容を通して、地域を活性化させる人材を育成する取組が行われているとともに、様々な教育施策も実施されていることが分かった。

**問3 地域コミュニティの拠点として、商業高校が提供できる取組にはどのようなものがあると考えますか。具体的にご記入ください。**

地域の商業活動やイベントに携わったり、関わり合いながら、地域住民と交流を行う(北海道)
地域の様々な人達(企業、シルバー世代、大学生等)と協力しあい、地方創生や地域活性化を議論する機会や場所の提供。また、商品開発や観光企画などを実際に考え、具現化してビジネスの拠点となる。(北海道)
①専門性をいかした開放講座の実施 ②販売実習や学習発表会などの一般公開 ③コンピュータやインターネット、携帯電話(スマホ)などの活用方法の指導(北海道)
小・中学生対象、キッズビジネススクールの開校(青森)
生徒が講師となり、簿記分野や情報分野の公開講座 地域住民を巻き込んだ課題研究における調査研究活動(青森)
・観光客誘致の取組の参加 ・観光客へのもてなしを関係機関と連携して行う ・商店街と連携した学校文化祭やチャレンジショップ等の開催 ・地域の魅力を発見し、小学生や中学生に伝える活動(岩手)
・学校施設および専門能力の開放(コンピュータ、簿記等の開放講座) ・地域資源を活用した商品開発などで、地域活性化・街作りの提言(宮城)
開放講座で地域の方々を対象に商業高校で指導している情報処理や簿記、マーケティングなど実社会でも活用できる内容を受講してもらう。(宮城)
地域の産業教育フェアに参加し手伝いをしながら実際のビジネスに触れることで、地域社会への還元を考えて進路を決定する生徒もいるので、そのような機会を積極的に作るべきと考える。 また、地域の企業と協力して、高校生ならではの視点で商品を分析したり、開発に関わることが可能ではないかと考える。(秋田)
地域の商店や地域の経済活動に貢献できるようにアイデア商品の開発に協力したり、地域特産の物を全国に広める活動をしたり、地域の人たちとともに協力し合い活動をしていくこと。(山形)
本校産業調査部の「お宝観光大使」のように、地域が様々なイベントを行うに当たって、アイデアや人的資源を提供し、ウイン・ウインの関係で活動を展開していくこと。(山形)
地域のコミュニティとしての役割を担う取組としては、学校を開放してのカルチャー講座の実施等が可能であると考えている。商業高校で学ぶことができる簿記やコンピュータ活用、経済や経営の基本的・専門的な知識や技術を教員や生徒が教えることで、コミュニティとしての役割を果たすだけでなく、地域社会に商業高校についての理解を深めてもらうよい機会になると考える。(福島)
生涯学習の観点から地域の方を対象にした商業に関する公開講座を実施する。(福島)
・地域の催事に企画段階から参画させてもらう。 ・地域広報誌と同様に学校広報誌を配布している。(地域及び同窓会、中学校向け広報誌を発行)(茨城)
IT関連の講座を開講して、市民に開かれた学校をつくる。(茨城)
①小中学生を集めて、商業教育の学びを高校生に教えさせる(ジュニアキャリアアドバイザー事業) ②地域の諸活動に商業高校生が参加し地域をより活性化させる。 ③異年齢集団(老年人、幼児)、企業経営者、障害者との交流を通じて成長をさせる。(栃木)
地域コミュニティが行う諸事業に対して、様々な場面で人的(教員・生徒)及び物的(学校施設設備等)な援助が可能である。生徒・教員の地域行事への参加、校庭、体育館、コンピュータ室等の開放等(栃木)
・学校施設を開放し、簿記やパソコン利用講座などを開催する。この際、在校生を講師アシスタントとして活用し、地域住民と在校生、地域住民同士のふれあい場所として機能する。(群馬)
社会人、地域の人への開放講座(群馬)
・施設設備や教育力などの資源の地域への開放(埼玉)
防災拠点、地域産業の情報発信、情報基地、地域ボランティア等(埼玉)
商業高校で行っている検定に関する講座の提供(埼玉)
町内会への施設開放(敬老会等の会場)を行ったり、施設設備だけでなく人的資源を有効に活用できる仕組みを商業高校では提供できる。地域の社会人向け簿記講座やPTA向けのパソコン講座などを実施することで商業関係の教育内容を周知すると共に地域貢献にも繋がる。(千葉)
・商業教育の知識を生かした地域活性化への参画(千葉)
生徒を講師とした「簿記講座」や「パソコン教室」などの開催(山梨)
パソコン教室が充実しており、地域の方々(中学生向け、社会人向け、主婦向け等)に対するパソコン教室等を開催し地域のコミュニティの拠点となる活動が出来るかと考える。(山梨)
①地域の学校支援(学校の諸活動への人的・物的支援、生徒の地域活動の支援) ②学校の地域貢献(地域活動・安全のためのスペース、地域の諸活動への生徒及び教員派遣)(東京)
商品開発・商品販売 防災の拠点 地元のイベントの企画・運営 地元の情報発信(東京)
商業の学びを活用し、高校生による小学生や中学生への学習指導提供 商業高校ならではの施設・設備を用いた生涯学習の場や人材の提供(神奈川)
・地域の老人クラブ等のお年寄りへのパソコン教室の実施 ・キッズビジネスタウン等の企画・運営(神奈川)
授業以外の時間の学校開放をし、地域の方と生徒の交流の場となれば、地域コミュニティの拠点となると考えます。(新潟)
キッズビジネスタウンなどの職業体験イベント。高齢者を対象としたパソコン教室。地元企業との連携による新しい土産物の開発(新潟)
・学校の施設を利用して、高校生が一般対象にパソコン教室や簿記教室を実施する。 ・中学生の14歳の挑戦の事前学習として高校生がビジネスマナー教室を実施する。 ・商業高校生がコンビニを経営する。(富山)
地域の産業、特産品、イベント等の情報発信をする。地域のイベントにおいてボランティアスタッフとして活動する。(富山)
上記の取組を校地内に常設することで、地域住民とのコミュニケーションの機会を増やす。(石川)
商業高校が持っている資源(施設・設備・知識・技能等)を活用した講習会等の開催(石川)

<p>学校を中心としたコミュニティを考える場合、学校に地域の方が訪問しやすい環境を整える必要がある。本校では武商デパートなどで学校に来ていただける環境がある。今はソフトウェア会社とのライセンスの問題などで開催できにくい地域の方に、教員や生徒がパソコンの利用方法を指導したこともある。現在では地域商店主や企業などから依頼を受けてポスターやホームページ作成など学校内で起業して地域貢献しても良いのではないかと。(福井)</p>
<p>公開講座や部活動訪問など教員や生徒等の学校側からの人材提供 コンピュータ室等の商業機器の備品や設備の開放 商業高校卒業生の地域社会での貢献(福井)</p>
<p>文化的拠点として公開講座などの開講 空き店舗活用を含めた地域活性化案の提言(長野) ・地域創成の企画を提案 地域の高校の連携(長野)</p>
<p>学習の場を学校から地域・社会に広げ、地域や企業、大学等との連携を図り、地域課題などを授業で積極的に取り上げていくことで、生徒は地域から社会・経済・産業を観る能力や経営者としての視点などを学び、地域や企業等においては、これからの地域を担う若者とともに地域課題に取組、双方にとって利点のある仕組みづくりが必要である。(静岡)</p>
<p>卒業生を生涯にわたって支援する(再就職等の情報提供や支援、職業再訓練など)教育機関とする。 まず卒業生からはじめて、広く受け入れていく。(静岡)</p>
<p>本校においては以下の項目を目的としたNPO法人を設立し、ビジネスリーダーの育成と社会貢献活動の増進に寄与する活動を開始した。 ・まちづくりの推進を図る活動・学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 ・国際協力の活動・経済活動の活性化を図る活動(愛知)</p>
<p>・物的提供としては、学校のコンピュータ施設設備を活用したIT教育の提供が考えられる。またその際、人的提供として、生徒をアシスタントとして活用できる。 ・物的提供としては、学校の敷地を活用した販売イベントの提供が考えられる。またその際、人的提供としては、運営及び販売スタッフとして、生徒の活用が考えられる。(愛知)</p>
<p>生徒が身に付けたビジネスの知識・技術や部活動のスキルを一般に開放する。(岐阜)</p>
<p>店を出店しての販売など地元住民との交流の場を提供する。(岐阜)</p>
<p>地域の商業施設や商店街などの連携してのマルシェ的活動や振興活動(三重)</p>
<p>商品開発や観光資源、地域の食材等を活用した知的財産の登録等の取組(三重)</p>
<p>イベントの企画・支援(滋賀)</p>
<p>地域周辺での商業に関する実習等。地域の状況・住民のニーズを調査・把握し、ニーズに応えられる取組等の推進。地域の人たちが学べる環境づくり(滋賀)</p>
<p>地域のニーズに応じたボランティア活動。販売実習。パソコン教室。カルチャー教室(京都)</p>
<p>人員(京都)</p>
<p>学校の施設と授業の取組や部活動と融合したイベントの創造。 例1:観月茶会:音楽系と茶道部系の部活がコラボし、校庭や茶室(作法室)を開放して観月会、茶会を開催、地域の方々に参加してもらう。 例2:農家さんと連携し、音楽系部活動の演奏会やパフォーマンス系部活動(ダンス、バトン)の発表会を兼ねた地元野菜の即売会(朝市)等を開催し、地域の方々に参加していただく。(大阪)</p>
<p>地域のカルチャーセンター的役割(大阪)</p>
<p>産業やビジネス、地域の特性を学びながら、生徒の創造性を引き出し、スクールキャラクター及び企業キャラクターの商品企画や商品開発の実践をさせる。(兵庫)</p>
<p>文化祭におけるバザーや、課題研究におけるパソコン教室(兵庫)</p>
<p>奈良県産業教育フェアは毎年11月に開催され、20数年以上継続している。これは県内の各専門高校が集結して作品展示発表等をおこない、近隣の一般住民のみならず、多くの地域住民が参加して大いに活発化している。また、専門高校教育の理解に寄与している。(奈良)</p>
<p>地域の資源を活用した商品開発、地域産業の振興方策の考案、情報通信技術を利用した合理的なビジネスの推進など実際のビジネスに即した体験的な学習活動を充実させる。(奈良)</p>
<p>課題研究の授業等で、定期的にコンピュータ教室を開催する。 ①一般の方 → コンピュータの操作 ②地域の事業所等 → 商業デザイン講座(パッケージデザインやグラフィックデザイン) ③小中学生 → プログラミング講座(オブジェクト指向プログラミング)(和歌山)</p>
<p>地域の生涯教育の場として、簿記教室や初歩のコンピュータ教室を開いている。(和歌山)</p>
<p>農業、水産業、観光業など地域の各産業に関わる企業の経営者と生徒が意見交換を行う交流の場となること。(鳥取)</p>
<p>高校生の視点から地域の観光資源などの文化的資源の発見、再評価(鳥取)</p>
<p>過疎化や高齢化、空き家の増加、核家族化や個人の価値観の多様化などによって、地域を支える人材が不足し、住民同士のつながりが希薄になってきています。課題研究を通じて、地域の課題解決やヒト・モノ・コトを結びつけることができるのではないかと。(島根)</p>
<p>現在各公民館と連携し授業を行っている。これを活用し地域の公民館の情報交換や連携の場となること。商店街や企業の活性化のための企画提案等を行うことができる。地域連携等を通して幅広い世代と交流ができる。(島根)</p>
<p>引き続いての「東商デパート」、商品開発、商店街や後楽園等の観光地で行う販売実習、キッズビジネスパークのボランティア、さらには商業の知識とスキルを生かしたパソコン講座やパソコンによる確定申告書類の作成など(岡山)</p>
<p>地域の活動への積極的参加、地域人材を活用しての講座の開設。 観光案内など地域資源の活用。(岡山)</p>
<p>セミナー等の学習の場の提供(高齢者を対象とした年賀状講座、小中学生向け夏休み宿題教室など) 体験学習の場の提供(小学生を対象としたキッズビジネスタウン)(岡山)</p>
<p>地域の商店街の空き店舗等を利用した販売実習 南の風EBAまつり(広島)</p>
<p>開放講座、模擬学校デパートなど(広島)</p>
<p>商業であれば「市」を中心としたコミュニティが基本であると考え。ただし、単なる仕入販売ではなく、自校開発商品の販売や農業高校や工業高校などと連携した高校生手作りの安心安全な商品を提供することなどが良いと思われる。(山口)</p>
<p>デパート、キッズタウン ・活性化に向けた企画立案(山口)</p>
<p>地元商店街の活性化のために商品販売を実施。学校施設を利用しての開放講座の実施(香川)</p>
<p>地域住民を対象とした生涯学習の場を開設する。(香川)</p>

商品販売など(徳島)
専門的知識を生かし、教員・生徒による簿記講座や情報処理講座の開設 学校や地域の空き店舗を利用したカフェや商品販売(徳島)
・必要ときは、学校を開放し施設を利用できるようにする。たとえば、休日や課題研究の時間にパソコン教室などを開き、地域の人たちに、パソコンの利用の仕方について生徒が教えたりする。 ・商神祭「松商デパート」を開催し、生徒が仕入れから販売まで自分たちの手で行う。この日は学校を公開し、地域の人々に学校に買い物に来てもらう。(愛媛)
プレゼンテーション講座(趣味や特技を生かしての情報発信による仲間作りをサポートできるのではないかと考える。)(愛媛)
商業分野に係る公開講座の開催(高知)
自分たちが商品開発したものを販売するショップ運営(高知)
・学校デパートの経営 ・地域の課題に商業で学んだ知識・技術を活かして取り組む(経営分析、商品開発、マーケティング、プレゼンテーション)(福岡)
地域の商店や企業との連携協力により、生徒と企業との協働作業による販売活動等を行うことにより、地域との連携を強化し、キャリア教育に繋げる。(福岡)
若商バザールや商店街活動による本校オリジナル商品をはじめとする販売活動を通じて、地域の方々と交流を行う。(福岡)
①地域の行事に高校生(商業)が参加し、できれば授業で習っていることを活かした活動ができれば。 ②海外からの観光客が増えているので、高校生らしいパンフレットや案内ブックなど作成し、地域の活性化に貢献する。(佐賀)
学校のノウハウ・施設を利用した、地域住民を対象としたパソコン教室等の教育サービスの提供(佐賀)
高校生が地域に出て情報を集めることで、企業と企業を繋ぐ役割を果たすことができるのではないかと、商品開発などに生徒が関わることで企業の活性化に繋がりたい。(長崎)
・毎年8月実施の地域開放講座をはじめ、地域との交流を行い、商業教育についてのPRをしていくこと。(長崎)
・本校近隣ではスーパーが撤退し買い物難民と呼ばれる高齢者が増加している。高校生がこのような高齢者の手助けについて動き始めている。(熊本)
「開放講座・聴講生制度」地域の方々に向けて、学校施設や商業教育の指導ノウハウを有効活用して、開放講座・聴講生の実施を現在検討している。日頃の商業教育の取組を地域の方々に理解していただく良い機会にもなると考えている。(熊本)
①他校種(支援学校)との学校間交流 ②高齢者が入所する介護施設等における異年齢集団との交流 ③地域の方々を対象として学校の施設を開放した学習拠点(文化及びびスポーツ活動)(大分)
地域住民を学校に招いて、IT機器の活用方法をわかりやすく指導する。(宮崎)
地域イベントの企画・運営への参加・協力。地域活性化、中心市街地活性化事業等への参加・協力。地域の情報発信、地域の資源を活用した商品開発等への参加・協力。地域ボランティアの担い手としての活動推進(宮崎)
・生涯学習の場としての位置付け(学校行事への参加等)(鹿児島)
地域との連携・協働は極めて重要であり、地方にある学校としても少子化が進む中で今後の商業高校を発展させていく大きな課題であると思われる。本校も各種活動の中で連携を図っているが、現時点では地域コミュニティの拠点となるような取組は実践できていない。しかし、問2であげたように、地域の特色を活かした取組の中に大きなヒントやきっかけがあるものと感じている。(鹿児島)
近隣の那覇市国際通り(沖縄唯一の繁華街)で、観光客に対するサービス(ガイド等)の取組(沖縄)

※ 特になし 1校

## <考察>

地域コミュニティの拠点として、商業高校が提供できる取り組みについては、主に地域イベント型と学校主体型の2つに分類される。

### <地域イベント型>

地域の商業活動やイベントに関わり、交流を行う  
 地域イベントの企画・運営への参加・協力  
 地域資源を活用した商品開発などで、地域活性化・まちづくり提言  
 商店主や企業からポスターやホームページ作成の依頼を受け、校内で起業

### <学校主体型>

学校施設を開放し、簿記やパソコン利用講座開催  
 商業高校生がコンビニ経営  
 小・中交渉対象、キッズビジネススクール  
 キッズビジネスタウン等の企画・運営  
 ○○商デパート、チャレンジショップ実施

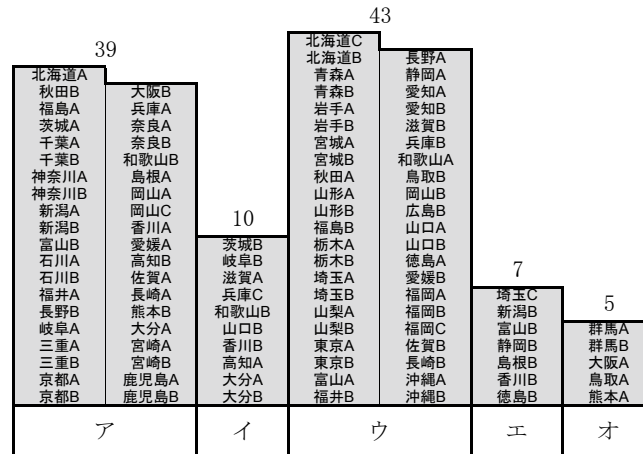
今回のアンケート結果より、従来から商業高校が行っているデパートやチャレンジショップ等の販売実習、資格取得やパソコン操作等の公開講座のほか、地域が実施しているイベント等への企画・運営面での参加、商品開発などによる町おこし等の実施により、地域との交流をより深めているものと考えられる。

「地域コミュニティの拠点として、商業高校が提供できる取り組みにはどのようなものがある」については、すでに多くの学校が地域に向けて様々な取組がなされている。従来は、公開講座や施設設備の開放、デパートやイベントでの交流等、どちらかというと学校に来ていただく催しが多かった。

しかし、最近では、地域連携が盛んに行われ、学校のイベントだけではなく、地域のイベントに企画・運営等において携わる傾向が見られる。まさに、「地域の人材育成」であり、地域コミュニティの拠点として、商業高校が提供できる取り組みといえる。

問4 これからの商業高校生の進路傾向をどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。

選択肢		回答校数
ア	大学・短大への進学が多くなる	39
イ	専門学校への進学が多くなる	10
ウ	進学、就職が同じ程度	43
エ	就職が多くなる	7
オ	その他	5



オ その他

景気動向や求人環境によるので一概には言えない。(群馬)
難関大学と地方優秀大学への進学および就職が増える。(群馬)
上記ウでも、大学への進学が多くなる傾向(滋賀)
その年度の経済状況(雇用環境や家庭の経済状況)にも左右される。大阪では、普通科指向の流れから、経済的に厳しい家庭の生徒が商業科に入学する傾向が強まっており、今後も就職者が増加する傾向にあると推定する。(大阪)
就職と進学で一定のバランスを保ちつつ推移する。(鳥取)
本校では1年生の半数程度が就職希望であるが、実際は約4割が就職している。生徒の進路には景気の動向等も影響することから進路の傾向はつかみにくい。(商業高校は専門高校であり、専門高校であるならば就職希望者の就職が叶い、社会で活躍できるような人材に育てるべきであると考える。)(熊本)

<考察>

「これからの商業高校生の進路傾向をどのように考えますか」という問いに対し、今回のアンケート結果の分析の前に過去2年間の動向を見てみると、平成26年度、平成27年度の卒業生の割合は、就職が約40%、進学が約55%、その他が5%であった。過去2年間の調査では、進学の方が多くなっている。

次に、今回のアンケート結果についてであるが、「これからの商業高校生の進路傾向」としては、「ウ 就職・進学が同じ程度」が43校、「ア 大学・短大への進学が多くなる」が39校であった。

過去2年間の進路結果では、進学がやや多い結果となっているが、今回、「ウ 就職・進学が同じ程度」と捉えた理由については、残念ながらアンケートからでは分析できない。現在よりも商業高校生の就職希望が増え、進学が減ると捉えた理由が不明であるが、進路傾向としては進学が多いと言える。

商業高校の進路について、結果的に就職が増えるのは景気の動向や家庭の事情等もあるが、少なくとも、商業高校からも進学実績が残せる状況を作らないと、中学生へのPRにおいては少なからず影響があるものと思われる。

問5 中学生の商業高校入学の志望動機の一審に「専門的な知識や技術が学べる」があげられています。具体的にはどのような内容が期待されているとお考えですか。次の中から2つ選んでください。

選択肢		回答校数
ア	簿記	76
イ	コンピュータ利用	76
ウ	ワープロ	2
エ	英語	3
オ	商業経済	3
カ	販売士(小売商)	0
キ	プログラミング	3
ク	ビジネス計算	0
ケ	ビジネスマナー	22
コ	その他	11

76		76				22		11	
北海道B 青森A 青森B 宮城A 宮城B 秋田A 秋田B 山形A 山形B 福島A 福島B 茨城A 茨城B 栃木A 栃木B 群馬A 群馬B 埼玉A 埼玉B 埼玉C 千葉A 千葉B 山梨A 山梨B 東京A 東京B 神奈川A 神奈川B 新潟A 新潟B 富山A 石川A 福井A 福井B 長野A 長野B 愛知A 愛知B 岐阜A 岐阜B 三重A 三重B	滋賀B 京都B 大阪B 兵庫A 兵庫C 奈良A 奈良B 和歌山A 和歌山B 鳥取A 鳥取B 岡山A 岡山B 岡山C 広島A 広島B 山口A 山口B 香川A 香川B 徳島A 徳島B 愛媛A 愛媛B 高知A 高知B 福岡A 福岡B 福岡C 佐賀A 佐賀B 長崎A 長崎B 熊本A 熊本B 大分A 大分B 宮崎A 宮崎B 鹿児島A 鹿児島B 沖縄A 沖縄B	北海道B 青森A 青森B 岩手A 岩手B 宮城A 宮城B 秋田A 秋田B 山形A 山形B 福島A 福島B 茨城A 茨城B 栃木A 栃木B 群馬A 群馬B 埼玉A 埼玉B 埼玉C 千葉A 千葉B 山梨A 山梨B 東京A 東京B 神奈川A 神奈川B 新潟A 新潟B 富山A 石川A 福井A 福井B 長野A 長野B 愛知A 愛知B 岐阜A 岐阜B 三重A 三重B	滋賀A 滋賀B 京都A 京都B 大阪A 大阪B 兵庫A 兵庫B 兵庫C 奈良A 奈良B 和歌山A 和歌山B 鳥取A 鳥取B 岡山A 岡山B 岡山C 広島A 広島B 山口A 山口B 香川A 香川B 徳島A 徳島B 愛媛A 愛媛B 高知A 高知B 福岡A 福岡B 福岡C 新潟A 新潟B 長崎A 長崎B 熊本A 熊本B 大分A 大分B 宮崎A 宮崎B 鹿児島A 鹿児島B 沖縄A 沖縄B	山梨A 香川B	茨城A 石川A 大阪B	岩手B 福井B 岡山A	北海道A 埼玉B 鳥根B	北海道C 北海道A 栃木A 群馬B 富山B 石川A 静岡A 愛知B 岐阜B 三重A 滋賀A 大阪A 兵庫B 鳥取A 鳥根B 岡山B 山口A 山口B 徳島B 福岡A 佐賀B 鹿児島A	北海道C 岩手A 新潟A 長野B 静岡A 静岡B 山口A 三重B 京都A 鳥根A 佐賀A 長崎B
ア		イ		ウ	エ	オ	キ	ケ	コ

コ その他

個別の能力ではなくて、就職や社会へ出て活かされる能力が身に付くということ(北海道)
漠然と、就職に必要な知識、技術を身に付けることができると考えている(岩手)
資格取得(新潟)
ビジネス(長野)
進路につながる資格取得(静岡)
中学生にとって「いろいろな資格がとれる。それが進路選択に有利になる。」という漠然とした理解があって、具体的な学習内容までは理解していないのが実情だと思う(静岡)



情報活用能力(情報機器の操作ではなく、情報をいかに活用して生活を豊かにするか)(三重)
この質問については、中学校に回答してもらったものと比較していただくと良いと思います。(滋賀)
商品開発(京都)
ア〜コを身に付けての「ビジネスをする力」である総合力(島根)
マーケティング(佐賀)
商業科目全般における資格取得(長崎)

## <考察>

中学生の商業高校入学の志望動機の一つに「専門的な知識や技術が学べる」があげられていますが、具体的にはどのような内容が期待されているとお考えですかについては、「簿記」が76校、「コンピュータ利用」が76校、「ビジネスマナー」が22校で、上位3つとなっている。

検定すべてを中学生が把握しているわけではないので、一般的に、「ア 簿記」と「イ コンピュータ利用」があがっているものと推測される。マナーについては、多くの商業関係の高校が力を入れ、学校説明会等でもPRしているため3番目になったものと思われる。

今回のアンケート項目「中学生の商業高校入学の志望動機の一つに「専門的な知識や技術が学べる」については、中学関係者や保護者が商業を説明するにあたり、一般的に「ア 簿記」と「イ コンピュータ利用」を取り上げているものと推測される。この他にも少数意見だが、「就職や社会へ出て活かされる能力が身に付く」、「商品開発」、「マーケティング」などもあった。

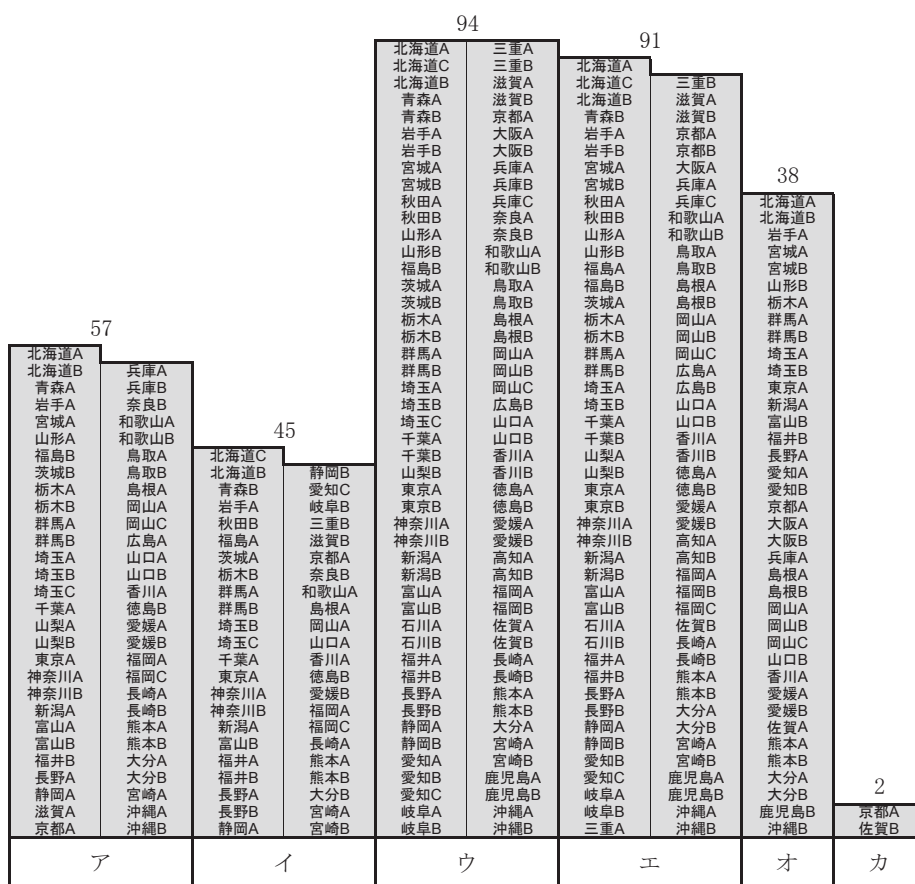
このアンケート結果より、商業高校の代表的イメージとして「ア 簿記」と「イ コンピュータ利用」が一般的になっているものと推測できる。マナーについては、商業関係の高校がマナーや身だしなみ、言葉遣い等に力をいれ、PRしているので3番目になったものと思われる。

ただし、厳しい見方をすれば、「ア 簿記」と「イ コンピュータ利用」以外の内容が見えにくいものとも推測できる。商業の更なる工夫・改善が求められているのではないかと。

### Ⅲ 地域創生に資する商業高校生の育成について

問1 地域創生に資する商業高校生を育成するために、どのような指導が必要ですか。(複数回答可)

選択肢		回答校数
ア	インターンシップ	57
イ	上級学校との連携	45
ウ	地域社会との連携	94
エ	企業との連携	91
オ	ボランティア活動	38
カ	その他	2

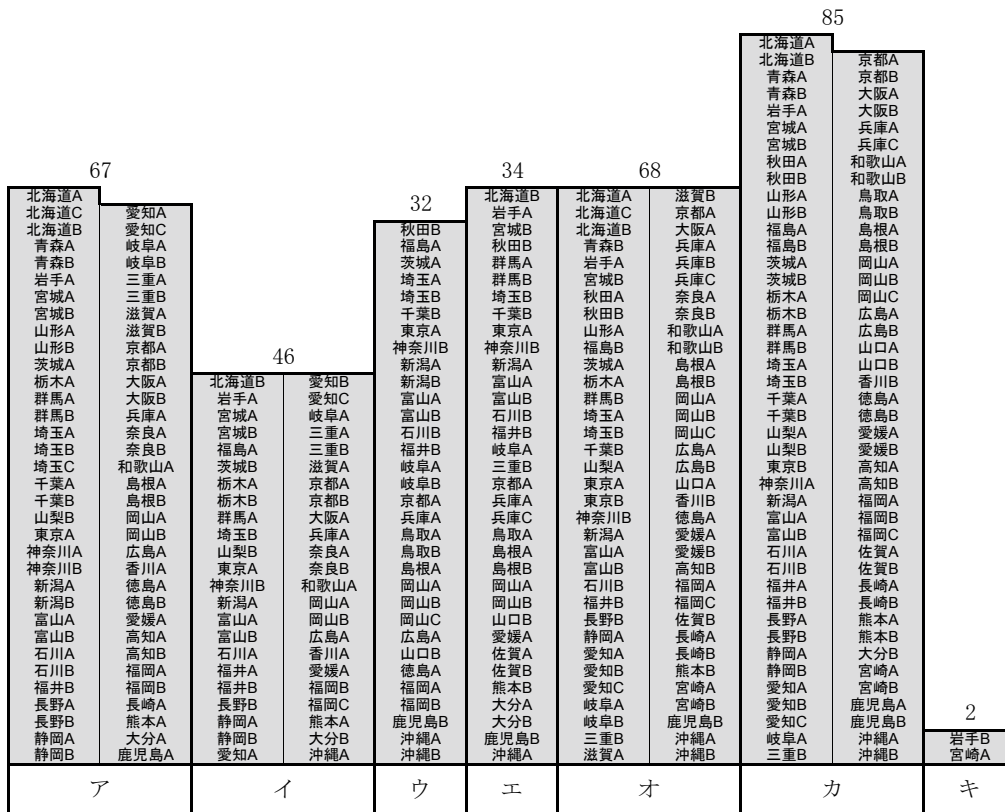


#### <考察>

「ウ 地域社会との連携」を挙げたのが94校、「エ 企業との連携」を挙げたのが91校とともに9割を超え、商業高校生の育成には欠かせない指導であることの認識を示した。「ア インターンシップ」を挙げたのが57校にとどまり、以下「イ 上級学校との連携」が45校、「オ ボランティア活動」が38校と続いた。

問2 現在の連携先はどこですか。(複数回答可)

選択肢		回答校数
ア	大学・短大	67
イ	専門学校	46
ウ	中学校・小学校	32
エ	保護者・PTA	34
オ	地域社会	68
カ	企業	85
キ	連携していない	2



<考察>

「カ 企業」との連携を挙げたのが85校と最も多く、インターンシップの実施等を含めて連携先として定着している様子がうかがえる。「オ 地域社会」との連携は、前問にて94校が必要とする指導に挙げているものの、68校にとどまり、現在の連携先との乖離が見られ、今後の連携に向けた取組について課題を残す結果となった。以下、「ア 大学・短大」が67校、「イ 専門学校」が46校と上級学校が続き、「エ 保護者・PTA」は34校、「ウ 中学校・小学校」は32校にとどまった。

問3 問2でア～カと回答した方にお聞きします。

① 今後も連携を続けていきますか。

選択肢		回答校数
ア	続ける	98
イ	続けない	2
ウ	検討中	0
エ	その他	0

98

北海道A	茨城A	神奈川A	愛知A	兵庫B	広島B	佐賀A	2	
北海道C	茨城B	神奈川B	愛知B	兵庫C	山口A	佐賀B		
北海道B	栃木A	新潟A	愛知C	奈良A	山口B	長崎A		
青森A	栃木B	新潟B	岐阜A	奈良B	香川A	長崎B		
青森B	群馬A	富山A	岐阜B	和歌山A	香川B	熊本A		
岩手A	群馬B	富山B	三重A	和歌山B	徳島A	熊本B		
宮城A	埼玉A	石川A	三重B	鳥取A	徳島B	大分A		
宮城B	埼玉B	石川B	滋賀A	鳥取B	愛媛A	大分B		
秋田A	千葉A	福井A	滋賀B	鳥根A	愛媛B	宮崎A		
秋田B	千葉B	福井B	京都A	鳥根B	高知A	宮崎B		
山形A	山梨A	長野A	京都B	岡山A	高知B	鹿児島A		
山形B	山梨B	長野B	大阪A	岡山B	福岡A	鹿児島B		
福島A	東京A	静岡A	大阪B	岡山C	福岡B	沖縄A		
福島B	東京B	静岡B	兵庫A	広島A	福岡C	沖縄B		
ア								イ

② 現在行っている連携はどのような内容ですか。(複数回答可)

選択肢		回答校数
ア	学校外の学修の単位認定	10
イ	学力向上	46
ウ	施設設備の利用	17
エ	情報交換	51
オ	社会貢献	51
カ	勤労意欲・職業意欲の向上	61
キ	インターンシップ	74
ク	その他	10

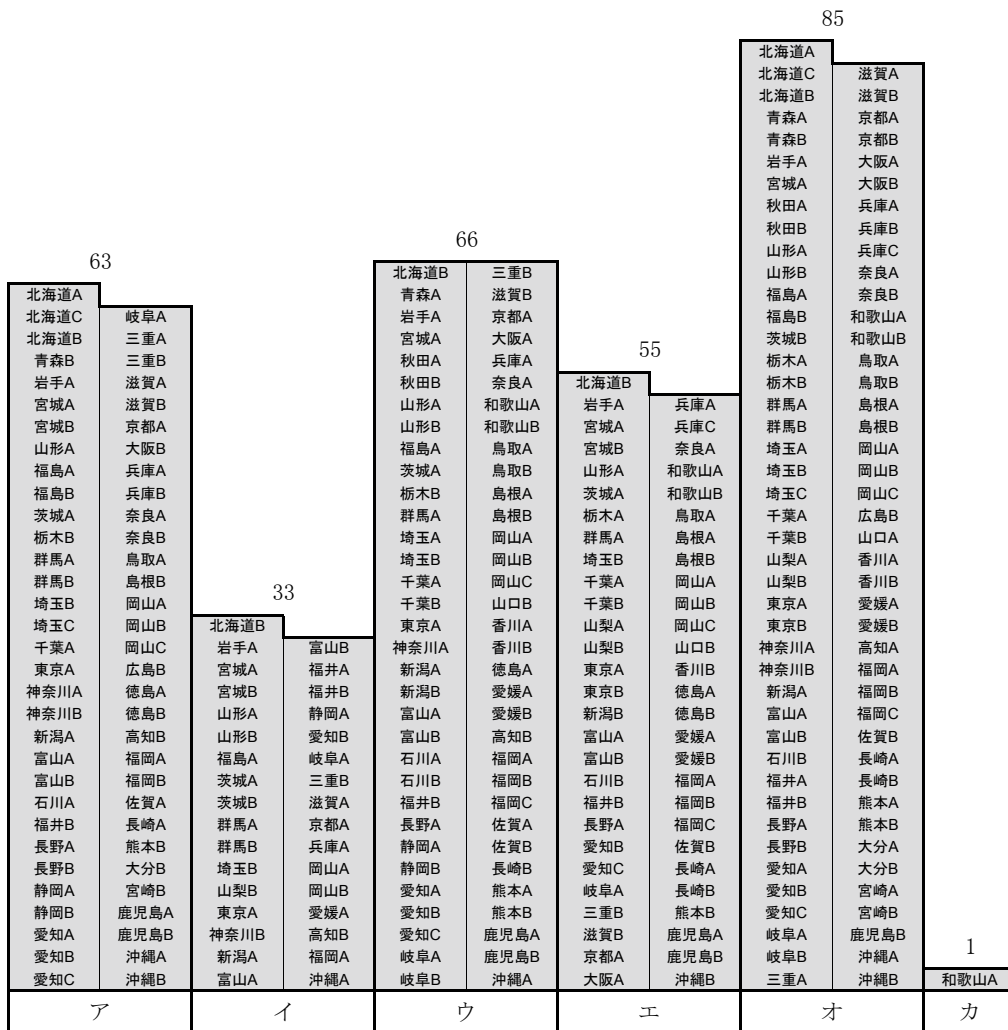
46		17		51		51		61		74	
北海道A 宮城A 茨城A 山梨B 神奈川A 新潟A 静岡A 岐阜B 岡山B 長崎A	北海道B 青森B 岩手A 宮城A 宮城B 山形A 山形B 福島A 茨城A 茨城B 栃木B 群馬A 群馬B 埼玉B 埼玉C 千葉A 千葉B 山梨B 山梨C 神奈川B 新潟A 静岡A 岐阜A 岡山A 富山A 富山B	石川A 福井A 福井B 長野A 静岡A 愛知B 岐阜A 三重A 三重B 滋賀A 京都A 大阪B 兵庫A 奈良B 島根B 岡山A 岡山B 広島A 愛媛A 福岡A 福岡A 長崎A 沖縄A 富山B 沖縄B	北海道B 青森A 岩手A 宮城B 秋田B 山形A 山形B 福島A 茨城A 群馬A 埼玉A 埼玉B 千葉A 千葉B 神奈川A 神奈川B 新潟A 富山A 富山B 石川A 石川B 福井B 長野A 静岡A 愛知C 岐阜A 三重B 沖縄A	滋賀B 大阪B 兵庫A 兵庫B 兵庫C 奈良A 鳥取A 鳥取B 島根A 島根B 岡山A 岡山B 広島A 山口A 山口B 岡山C 岡山D 徳島A 徳島B 徳島C 徳島D 香川A 香川B 香川C 香川D 福岡A 福岡B 福岡C 福岡D 佐賀A 佐賀B 佐賀C 佐賀D 熊本A 熊本B 熊本C 熊本D 宮崎A 宮崎B 宮崎C 宮崎D 鹿児島A 鹿児島B 鹿児島C 鹿児島D 鹿嶋A 鹿嶋B 鹿嶋C 鹿嶋D	北海道A 北海道C 北海道B 岩手A 宮城B 秋田B 山形A 山形B 福島A 鳥取A 鳥取B 島根A 島根B 岡山A 岡山B 岡山C 岡山D 埼玉A 埼玉B 千葉B 東京B 神奈川B 新潟A 富山A 富山B 石川B 福井B 長野A 長野B 静岡B 愛知B 愛知C 岐阜A 岐阜B 三重A 三重B 滋賀A 滋賀B 京都A 京都B 群馬A 群馬B 群馬C 群馬D 埼玉B 千葉B 香川A 香川B 石川B 福井B 福岡A 福岡B 福岡C 福岡D 佐賀A 佐賀B 佐賀C 佐賀D 熊本A 熊本B 熊本C 熊本D 宮崎A 宮崎B 宮崎C 宮崎D 鹿児島A 鹿児島B 鹿児島C 鹿児島D 鹿嶋A 鹿嶋B 鹿嶋C 鹿嶋D	北海道A 北海道C 北海道B 青森A 青森B 岩手A 宮城A 秋田B 山形A 山形B 福島A 福島B 茨城A 茨城B 栃木A 群馬A 群馬B 群馬C 群馬D 埼玉A 埼玉B 千葉B 東京B 神奈川A 神奈川B 新潟A 富山A 富山B 石川B 福井B 長野A 長野B 静岡B 愛知B 愛知C 岐阜A 岐阜B 三重A 三重B 滋賀A 滋賀B 京都A 京都B 群馬A 群馬B 群馬C 群馬D 埼玉A 埼玉B 千葉B 香川A 香川B 石川B 福井B 福岡A 福岡B 福岡C 福岡D 佐賀A 佐賀B 佐賀C 佐賀D 熊本A 熊本B 熊本C 熊本D 宮崎A 宮崎B 宮崎C 宮崎D 鹿児島A 鹿児島B 鹿児島C 鹿児島D 鹿嶋A 鹿嶋B 鹿嶋C 鹿嶋D	滋賀A 滋賀B 京都A 京都B 兵庫A 兵庫B 兵庫C 奈良B 和歌山B 鳥取A 鳥取B 鳥根A 鳥根B 岡山A 岡山B 岡山C 岡山D 山口A 山口B 山口C 山口D 香川A 香川B 愛媛A 愛媛B 高知A 高知B 福岡A 福岡B 福岡C 福岡D 佐賀A 佐賀B 長崎A 長崎B 長崎C 長崎D 熊本A 熊本B 熊本C 熊本D 宮崎A 宮崎B 宮崎C 宮崎D 鹿児島A 鹿児島B 鹿児島C 鹿児島D 鹿嶋A 鹿嶋B 鹿嶋C 鹿嶋D	岩手A 秋田A 埼玉C 静岡B 三重B 和歌山A 香川B 佐賀B 宮崎B 宮崎C 宮崎D 鹿嶋B			
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク				

コ その他

専門教育における知識、技術の向上(岩手)
デュアルシステムの活用によるもの(秋田)
学習意欲の喚起、難易度の高い資格の取得(埼玉)
資格取得への支援(東京)
校種間連携を取り入れたチャレンジショップの運営(新潟)
コミュニケーション プレゼンテーション(長野)
学習意欲の喚起。学ぶ意味の理解。学ぶ尊さを知る(静岡)
商品開発(愛知)
外部講師(三重)
企業や専門学校と共同で商品開発をおこない、地域のイベント等で販売(和歌山)
地元商店街における販売実習(香川)
地元特産品の商品開発・販売実習(佐賀)
商品開発、販売実習、楽天IT学校(宮崎)
地域交流、商品開発(鹿児島)

③ どのような効果がありましたか。(複数回答可)

選択肢		回答校数
ア	学業意識の高揚	63
イ	学力向上	33
ウ	相互理解・情報共有	66
エ	協力体制	55
オ	勤労意欲・職業意欲の向上	85
カ	その他	1



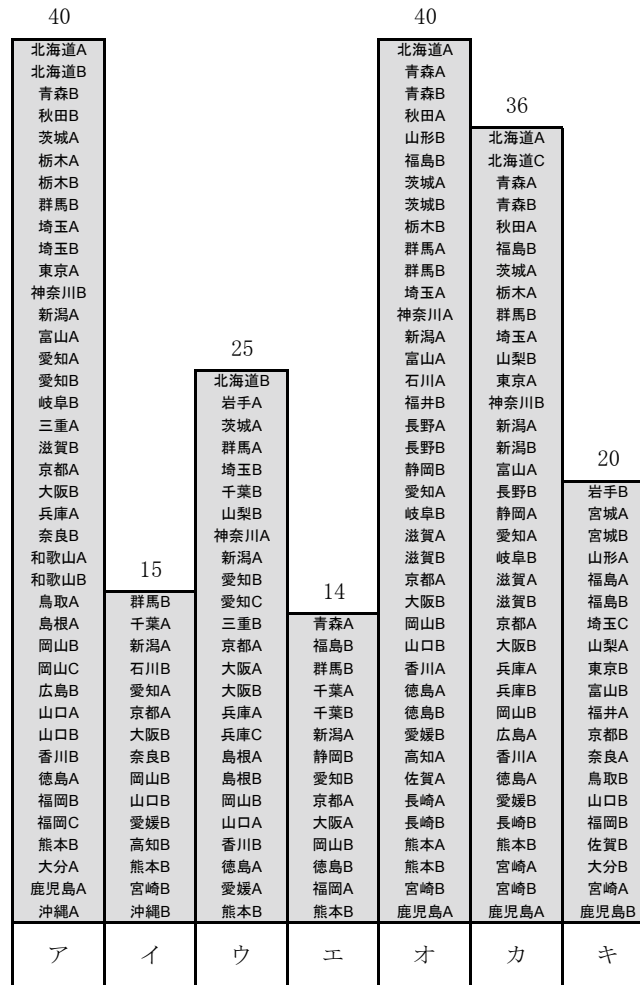
<考察>

連携の継続を希望するのは98校で、商業高校生の育成には欠かせない教育であることが分かる。連携内容は、「キ インターンシップ」を挙げたのが74校、「カ 勤労意欲・職業意欲の向上」を挙げたのが61校で、商業の学びをインターンシップ等を通してキャリア教育の充実につなげている。以下、「エ 情報交換」、「オ 社会貢献」がともに51校、「イ 学力向上」が46校と続いている。「ウ 施設設備の利用」は17校、「ア 学校外の学修の単位認定」は10校にとどまり、今後は、学校外の教育財産等を有効に活用する方法を検討していく必要がある。

その他の連携内容としては、商品開発、販売実習、校種間連携、デュアルシステム、高度資格取得、外部講師等が挙げられ、学校の特色を活かした充実した取組が行われている。効果としては、「オ 勤労意欲・職業意欲の向上」を挙げたのが85校と最も多く、「ア 学業意識の高揚」の63校、「イ 学力向上」の33校を含め、キャリア教育の充実や学業に取り組む姿勢、商業教育に対する意識の向上が図られている。「ウ 相互理解・情報共有」を挙げたのが66校、「エ 協力体制」を挙げたのが55校であり、今後とも連携先との情報交換を密にし、良好な関係を構築して、商業教育で培った知識や技術を活かす取組について検討していく必要がある。

問4 今後、検討している連携先はありますか。(複数回答可)

選択肢		回答校数
ア	大学・短大	40
イ	専門学校	15
ウ	中学校・小学校	25
エ	保護者・PTA	14
オ	地域社会	40
カ	企業	36
キ	検討していない	20



<考察>

「オ 地域社会」を挙げたのが40校であり、連携の必要性を認識するも連携が十分でない状況から、今後内容の検討を含め、商業高校生の育成の観点から充実した取組について検討していく必要がある。上級学校としては、「ア 大学・短大」が40校、「イ 専門学校」が15校である。商業高校での学びを発展させる方向性について検討する余地がある。「カ 企業」が36校であり、インターンシップを含めた内容の充実・発展が求められる。「ウ 中学校・小学校」は25校、「エ 保護者・PTA」は14校にとどまったが、これらは、学校を取り巻く地域の環境に左右されず、どの学校にも存在する身近な教育力であり、連携を強化することで、商業高校生が学びで得た能力を伸長する新たな機会になるとともに、商業高校の魅力や特色等を理解することで、入学を希望する生徒の増加にもつながる。

問5 次の能力の育成のために取り組んでいることを記述してください。

ア 就労意欲、職業観、勤労観

インターンシップの実施(北海道)
販売実習会(旭商デパート)の実施とインターンシップ、上級学校訪問(北海道)
①企業見学やインターンシップでの就業体験 ②大学・専門学校などの説明会への積極的参加の奨励 ③企業説明会(就職者)への積極的参加の奨励(北海道)
・インターンシップ ・卒業生講話(青森)
市内企業におけるインターンシップ(2年次3日間) 課題研究で企業の協力を得ながら進めている商品開発での従業員との交流、意見交換(青森)
職場見学、インターンシップ、卒業生と語る会の開催、外部講師による講演・講義(岩手)
インターンシップ、外部講師講話、職業別外部ガイダンス、模擬面接など(宮城)
ボランティア活動やインターンシップなどで勤労意欲を育成する取組をしているほか、進路ガイダンス、「卒業生の話を聞く会」などで勤労観・職業観を育成している。(宮城)
・デュアルシステム(3年次だけでなく希望者は2年生からでも可能)への参加 ・インターンシップ(秋田)
・3年間通してのビジネス実践活動(AKISHOP、キッズ、エコロジカル) ・2年生全員でのインターンシップ ・地域社会の社会人講話(商工会議所青年部との連携) ・先輩講話(社会で活躍している様々な分野のOB・OG)(秋田)
インターンシップや企業訪問、講演会など(山形)
・2年時におけるインターンシップ ・先輩を招いての職業体験発表会開催 ・各種職業講話等の実施(山形)
企業見学…各学科の特色を生かした企業選定のもと、専門的知識を深めるとともに、就労されている方々の話を伺うことで勤労観や職業観を養うことを目的としている。また、地元企業を見学することで、地域産業についての理解を深めている。(福島)
インターンシップや販売実習(福島)
・社会的自立を図るためのキャリア教育 ・職業人としての社会貢献 ・人としての在り方、生き方(道徳教育)(茨城)
地元の企業の協力を得て、2年生全員にインターンシップを行っている(茨城)
インターンシップや様々なボランティア活動、イベント参加による勤労意識の醸成(栃木)
インターンシップ事業【対象:2学年全員 / 期間:5日間】 職業に関する専門的な知識や技能について学ぶとともに、将来の自己の在り方や生き方を考えさせ、一人一人の職業観や勤労観を確立させることを目的としている。(栃木)
・2年次に長期インターンシップを実施している。2回に分けて計8日間、地域企業で就労体験を行う。 ・2年生を対象に市民講師による「キャリアセミナー」を実施している。地域企業や大学、専門学校等と連携し、10名程度の職業人に働くことの意義や職業についての講話をいただき、生徒の職業理解を図っている。(群馬)
インターンシップ、社会人講師授業(群馬)
・各分野の専門家による職業講話 ・インターンシップ ・体系的なキャリア教育 ・在り方生き方教育の推進(埼玉)
インターンシップ、就職面接会、会社経営者等による講演等(埼玉)
インターンシップ 企業見学(埼玉)
各教科指導およびインターンシップ(千葉)
・地域や地元企業との連携による商品開発と販売実習(千葉)
2年生全員を対象に、夏季休業中に4日間のインターンシップを実施している。近隣の約80事業所に協力いただいている。(山梨)
毎年、夏休み期間を利用し、インターンシップの活動を奨励している。県内各企業の協力のもと、職業の選択や勤労観を育てている。(山梨)
毎時間の授業(特に商業科目の中で意欲や考え方を育成している)、進路指導行事(就職した卒業生や大学・専門学校の進路担当者との懇談会、マナー講座、労働講話、合格体験談および模擬面接、インターンシップ等)の中で育成を図っている。(東京)
インターンシップ 空き店舗経営(東京)
職業適性検査・インターンシップ・進路ガイダンス(神奈川)
課題研究におけるインターンシップや総合的学習の時間における進学・就職指導、外部講師による講演等(神奈川)
授業では、販売実習、商品企画、ビジネスマナー教育、外部のからの講演などがあります。 授業外では、インターンシップ、デュアルシステムなどがあります。(新潟)
・学年全員参加のインターンシップ体験(新潟)



<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬株式会社「TOMI SHOP」の活動</li> <li>・現場実習(百貨店、スーパーでの販売実習。流通経済科2学年全員)</li> <li>・インターンシップ(3月)(富山)</li> </ul>
<p>大学と連携して各小学科の専門分野の探求活動を実施している。</p> <p>1年生全員が4日間の就業体験をしている。</p> <p>2年生流通経済科がデパート、スーパーで4日間の販売実習に取り組んでいる。</p> <p>1年生会計科が税務署で税務研修を実施している。(富山)</p> <p>「進路ガイダンス(各種)」「先輩とのパネルディスカッション」「企業ガイダンス」「インターンシップ」「大学・企業見学会」「大学ブース式学校説明会」等、卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を提供する。(石川)</p> <p>・短期インターンシップ・長期インターンシップ・企業見学・企業応募前訪問・県主催の企業ガイダンス等・校内でのキャリア教育の体制と充実(石川)</p> <p>大学・企業見学会(1年)インターンシップ(2年生)、実践的長期企業実習(2年生)、インターンシップ講演会(2年生)、進学・就職試験対策講座(2年～3年)などを利用し体系的に職業観を育成する。(福井)</p> <p>インターンシップ(3日間)</p> <p>長期インターンシップ(10日間)</p> <p>ようこそ先輩(卒業生による授業)</p> <p>就職進学ガイダンス</p> <p>就職進学講話(同窓生、社会人講師)(福井)</p>
<p>長商デパート、インターンシップ、外部講師による講演(長野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ</li> <li>・キャリア教育(長野)</li> </ul> <p>1年生全員が4月入学当初、ディズニーアカデミーを受講し、おもてなしやディズニールックなど、プロ意識、職業観などについての体験学習を実施している。(静岡)</p> <p>職員の積極的な企業訪問、大学視察等による授業改善</p> <p>企業人等による特別講義の実施(静岡)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講話、進路ガイダンス</li> <li>・夢のマッチングフェア</li> <li>・インターンシップ(2年生全員を対象に夏季休業中に実施)(愛知)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業研究(1年生)</li> <li>・インターンシップ(2年生)</li> <li>・朝市の運営(2・3年生)(愛知)</li> </ul> <p>生徒が学習している専門的な知識・技術に関する企業・職種に対応した企業等へ2週間程度の長期勤労実習を実施することを企画している。(愛知)</p> <p>(株)GIFUSHOの実践的ビジネスや企業との連携をとおして働く意義や業種や職種を学ぶ(岐阜)</p>
<p>職場見学やインターンシップを実施した意識付けを行っている。(岐阜)</p>
<p>インターンシップ・仕事密着体験(ジョブシャドウイング)(三重)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業と連携し、経営改善に向けた研究及び提案</li> <li>・2年次に企業見学を実施(三重)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ(1年)の実施</li> <li>・社会人講師(企業関係者等)による講演・研修会</li> <li>・総合実践における、実社会を模した実践的実習</li> <li>・近江商人再生プロジェクトの実施(滋賀)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売実習</li> <li>・インターンシップ(京都)</li> </ul> <p>インターンシップ(京都)</p>
<p>外部講師を招聘した講演や授業(大阪)</p>
<p>ビジネス基礎、ビジネス・マネジメントの授業での企業人からの講演(大阪)</p>
<p>販売実習 商品開発 インターンシップ 講演会(兵庫)</p>
<p>2・3年次に行うインターンシップを通して実感した社会に関わることの大切さ、厳しさ、楽しさから、自分の進路や生き方について考えさせる。(兵庫)</p>
<p>インターンシップの実施、ボランティア募集の案内(兵庫)</p>
<p>インターンシップやボランティア活動の積極的参加、地域と連携(奈良)</p> <p>基本的な生活習慣の確立をもとに、ビジネスマナーの実践に努め、挨拶や身だしなみをはじめとする生徒指導を徹底する。また学習目標を明確化、検定合格の達成感が学習意欲を喚起させ、ビジネス教育を受ける意識を高める。(奈良)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験学習</li> <li>・産品商談会などの商談会への参加</li> <li>・商品開発に向けての企業訪問</li> <li>・進路指導部との連携で分野別説明会(1年次・2年次とも)(和歌山)</li> </ul>
<p>3年生の課題研究の授業と2年生で実施しているインターンシップ(和歌山)</p>
<p>1年生 入学直後の導入研修、インターンシップ</p> <p>2年生 研修旅行</p> <p>3年生 学校デパート(鳥取)</p>
<p>インターンシップの継続、充実(鳥取)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ</li> <li>・チャレンジショップ</li> <li>・大規模販売実習</li> <li>・進路講演会</li> <li>・進路座談会</li> <li>・面接講習会(島根)</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模販売実習(デパート)</li> <li>・インターンシップ</li> <li>・企業見学会</li> <li>・卒業生による進路体験発表(島根)</li> </ul>
<p>スケジュール手帳を活用した自己管理 インターンシップ 企業と連携した商品開発(岡山)</p>
<p>インターンシップを通じての地域の産業・職業の理解(岡山)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ</li> <li>・学校設定科目「地域ビジネス」における講演会</li> <li>・玉野市職人塾への参加</li> <li>・企業(工場)見学(岡山)</li> </ul>
<p>広商デパート 販売実習室を活用した商業実習(広島)</p>
<p>模擬学校デパートを行っている。 学年インターンシップの後、自主インターンシップを行っている。外部講師による講演などを行っている。(広島)</p>
<p>総合実践(3年商業科)において「事業所実習」を行っている。これは4人グループ単位で地元民間企業約30箇所に出向き、その事業所や店舗の特性に応じた実習を通して、事業所や勤労を理解し、最終的にはその事業所に対して何らかの「提案」を行うよう義務付けている。(山口)</p>
<p>宇部商デパート、インターンシップの実施(山口)</p>
<p>インターンシップの実施 企業説明会の実施 先輩講演会の実施(香川)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ、地元商店街における販売実習</li> <li>・学年団やボランティア部による校内外の清掃奉仕活動(香川)</li> </ul>
<p>インターンシップ(徳島)</p>
<p>インターンシップや社会人講師による講演会。外部の業者による進路説明会(徳島)</p>
<p>ビジネス実習や現場実習では、各店舗の協力を得て就業体験を行うことにより、実践的な知識を身に付けるとともに、職業観や勤労観を養うことを目標に実施している。(愛媛)</p>
<p>インターンシップ(2年次に3日間)(愛媛)</p>
<p>インターンシップ、外部講師による講演(高知)</p>
<p>インターンシップ(高知)</p>
<p>主に1年次の総合的な学習の時間で行っている。(福岡)</p>
<p>インターンシップや販売実習の実施(福岡)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次においてインターンシップを実施し、職業観や勤労観を育成する。</li> <li>・外部講師による講演や講座を開設し、就労についての意欲を高める。(福岡)</li> </ul>
<p>会社見学等を行い、実際自分が希望する会社の仕事内容、従業員の勤務状況等自分の目で確かめ、それから採用試験を受けさせている。(佐賀)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップの実施</li> <li>・外部講師による講演</li> <li>・上級学校や企業に訪問する、進路啓発研修(佐賀)</li> </ul>
<p>インターンシップ(長崎)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業人としての資質向上および地域に貢献できる人材の育成(長崎)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校デパート(12月2日間。夏期休業中の店長研修の実施)の開催(熊本)</li> </ul>
<p>「インターンシップ」例年2年生全員を対象に7月中の4日間インターンシップを実施している。職業現場にいて実際の業務に触れることで、働くことの尊さ、厳しさ、喜びを感じ、望ましい勤労観・職業観を育成している。(熊本)</p>
<p>1年次にジョブシャドウイングを実施。2年次に5日間にわたりインターンシップを実施している。(大分)</p>
<p>1年次には、地域の方々「この人に学ぶ」の講演を実施し、職業観、勤労観及び人としての在り方・生き方についての学習を行っている。また、2年次にはインターンシップを実施している。(大分)</p>
<p>本校キャリア教育推進計画に基づき、進路指導部を中心に3年間を見通した指導を行っている。(宮崎)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元ロータリークラブと連携した産業人講話</li> <li>・インターンシップ</li> <li>・進路ガイダンス、職業体験講座</li> <li>・販売実習(延商デパート、生徒の手による商店経営)(宮崎)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生全員による、5日間連続のインターンシップ</li> <li>・本校OBによる、起業家教育セミナー(講演会)の実施(鹿児島)</li> </ul>
<p>株式会社を設立し、「地域貢献」という企業理念に基づく運営の在り方や実践的なビジネス活動を行い、企業家精神の育成に努めている。(鹿児島)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ(2年生全員)実施</li> <li>・デュアルシステム(3年生商業科希望者)</li> <li>・県内企業施設見学(各学科1年生)(沖縄)</li> </ul>
<p>進路指導部・学科をはじめ、学校教育のあらゆる機会を通してのキャリア教育の推進(沖縄)</p>

## イ コミュニケーション能力

アクティブ・ラーニングによる授業(北海道)
プレゼンテーションコンテスト等への参加(北海道)
①グループ学習や科目「課題研究」等での学習成果発表会 ②日常的な身なり・挨拶等の接遇指導 ③学年の枠を超えた学校行事の取組(北海道)
・アクティブ・ラーニングを取り入れた学習の実践 ・課題研究による調査研究活動(青森)
バザー開催に向けたビジネスマナー指導 地域貢献をテーマとした課題研究での地元商店主や地元企業との依頼交渉やプラン案説明 言語活動を取り入れた授業の工夫、改善(青森)
授業においてペアワーク、グループワーク、学びあい、教えあいの機会を増やすこと(岩手)
HR活動、行事、部活動、生徒会活動、商品開発学習発表会など(宮城)
授業でのアクティブ・ラーニングやロールプレイングなどを通して、生徒の自主性を育成し、生徒同士の対話を常に意識した授業展開を行っている。 英語についてもALTや英語教師との英会話を重視し、多くの機会に対話をするようにしている。(宮城)
・商店街の空き店舗を借りての販売実習 ・地域の産業フェアにおける活動(秋田)
・3年間通してのビジネス実践活動(AKISHOP、キッズ、エコロジカル)(秋田)
授業での発表・プレゼンテーション・ディベートなど(山形)
・部活動、生徒会活動、委員会活動の積極的な取組指導 ・遠隔映像機器を利用した、企業人事担当者による模擬面接 ・OB(企業幹部)による模擬面接の実施 ・地域町内会幹部との意見交流会実施(年1回)(山形)
体系的な小論文指導…物事を論理的に考えて表現することができる力を育成し、真の意味でのコミュニケーション能力を高める目的で、3年間にわたる小論文指導を実施している。1・2年次は専門教材による取組、3年次は外部講師を活用した指導を、年間を通じて行っている。(福島)
商品開発に際して協力企業の方と意思疎通を図ったり、販売実習でお客様との対応を重ねることによりコミュニケーション能力が高まっている。(福島)
・基本的な生活習慣の確立と集団への寄与する態度の育成 ・誠意をもって接すること、人のためにどのような行動ができ、どれだけ配慮できるかを考えること。「ワークショップ」的な体験が重要である。(茨城)
総合実践(3年次履習)の授業の中で、ビジネスマナーについても多くの時間を使って指導している。中でも昨年度から進めている自己分析と自己表現は、今後も工夫し、更に充実させていきたい。(茨城)
課題研究発表による全員生徒の発表能力の育成(栃木)
・外部講師による指導 ・キャリアコンサルタント等によるビジネスマナー指導を適宜実施し、一定の成果を上げている。(1年生・3年生)(栃木)
・主体的・協動的な学習(アクティブ・ラーニング等)を行い、生徒が自ら考え、グループで話し合い発表する授業を展開している。 ・2月に課題研究や部活動等で調査研究した内容を発表する校内生徒研究発表会を実施し、プレゼンテーション能力の向上を図っている。(群馬)
授業における言語活動の充実、部活動への積極的参加(群馬)
・国際理解教育(海外姉妹校との相互交流)(埼玉)
クエストカップ、校内課題研究発表会、外部による(企業経営者等)面接指導(埼玉)
ビジネスコミュニケーション検定問題集を用いた学習指導 教育活動全般を通じた指導 部活動を通じた指導(埼玉)
各教科指導、特に総合実践などの総合的な科目におけるビジネスコミュニケーションスキルの育成、総合的な学習の時間(千葉)
・生徒による来校者の受付実習(千葉)
毎時間の授業(特に商業科目の中で意欲や考え方を育成している)、進路指導行事(就職した卒業生や大学・専門学校の進路担当者との懇談会、マナー講座、労働講話、合格体験談および模擬面接、インターンシップ等)の中で育成を図っている。(東京)
アクティブなラーニングでの生徒の発表機会を与える学習成果発表会の実施(東京)
あいさつ運動・教職員の声掛けと日頃のあいさつ(神奈川)
ビジネス基礎や総合実践におけるビジネスマナー講座の実施(神奈川)
商業科目の中で、プレゼンテーションを行う場面が多いですが、「企画を練り、資料を作成し、相手を説得し理解してもらおう」という活動が、コミュニケーション能力の向上に非常に有効だと考えています。(新潟)
・学年全員参加の介助体験(福祉施設の訪問)(新潟)
・模擬株式会社「TOMI SHOP」関連の諸活動 ・現場実習(百貨店、スーパーでの販売実習。流通経済科2学年全員) ・インターンシップ(3月) ・生徒「学び合い」活動(学校アクションプラン)(富山)
1年全員が4日間の就業体験をしている。1・2年生国際経済科がEnglish Campを実施している。1・2年生国際経済科希望者がハワイ大学マウイカレッジで語学研修を実施している。(富山)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつ運動」「リーダー会の設置」「イングリッシュ・ビレッジ(金商英語村)」</li> </ul> <p>自己の個性を発揮しながら、様々な生徒とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「部活動全員加入」</li> </ul> <p>異年齢や、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。(石川)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒参加の「私の主張大会」・科目「総合実践」でのスピーチ・小商フェスバルによる地域商店主との打合せ・地域イベントの参加・部活動の全員加入の奨励(石川)</li> </ul> <p>武商デパートにおいて販売員活動を経験し、一般のお客様と接することにより身に着ける。また、インターンシップにより実社会で就業体験をすることにより身に付けることが可能である。さらに総合実践において電話を使用した売買取引を経験することによりコミュニケーション能力を身に着ける。(福井)</p>
<p>挨拶や正しい言葉遣いの徹底 職業教育フェア発表 国際経済科海外研修 ワールドユースミーティング参加 ウインターセミナー、国際交流発表会(福井)</p>
<p>長商デパート、インターンシップ(長野)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習販売「須商・創成マーケット2016」通算76回を数える伝統行事</li> <li>・「くますぎクラブ」による地域連携及び商品開発</li> </ul> <p>地域の各種イベントに参加(年間30回以上出店) 昨年度商業高校フードグランプリ(伊藤忠食品主催)参加(長野)</p>
<p>訪日教育旅行学校交流として、台湾の高校を受入れ、1日本校の授業を一緒に行うなどの交流を行っている。 2月に販売実習を行い、職業観や勤労観を養うとともに、地元企業と直接かかわることでコミュニケーション能力を育成している。(静岡)</p>
<p>授業、部活動、学校行事、そして、外部との関わりによって育てようとするのが大切である。授業で身に付けさせることには限界があることを出発点とするべきである。(静岡)</p>
<p>上級学校連携教育(愛知)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズビジネスタウンの運営(2・3年生)</li> <li>・電子紙芝居を使った小学校への出前授業(3年生)</li> <li>・各種地域イベントへの参加協力(全学年)(愛知)</li> </ul> <p>商業の科目において、アクティブ・ラーニングによる学習を採り入れ、共同研究、発表活動、学校外での活動を等によりコミュニケーション能力を学ぶ機会を設けている。(愛知)</p>
<p>課題解決型の授業を展開 企業とコラボした商品開発や、ビジネスプランの策定(岐阜)</p>
<p>普段の学校生活でビジネスマナーについて指導している。(岐阜)</p>
<p>プレゼンテーションの導入 週番制度の活用 生徒による学校紹介活動(三重)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動(挨拶を学校の宝と位置付け)</li> <li>・企業から出された課題に対する企画提案(ディスカッション)</li> <li>・面接指導(全教職員による共通の評価基準表を活用した面談)(三重)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合実践における、実社会を模した実践的実習</li> <li>・授業のなかでの生徒間討論や発表</li> <li>・課題研究での生徒相互による研究活動・発表等</li> <li>・近江商人再生プロジェクトの実施(滋賀)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク</li> <li>・商品開発に関わるプレゼンテーション</li> <li>・ビジネスマナー講座(京都)</li> </ul>
<p>学園祭(京都)</p>
<p>日々の授業の中での取組、プレゼンテーションと調査研究活動を伴う授業や行事への参加 課外授業としての販売実習など(大阪)</p>
<p>企業との連携授業(大阪)</p>
<p>販売実習 特別非常勤講師(兵庫)</p>
<p>3年次の課題研究において、それまでの学習を基に生徒自らが課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学習する。その成果を発表することで他者との相互作用で自らの考えを広げ深める。(兵庫)</p>
<p>外部講師の活用(兵庫)</p>
<p>日々の授業におけるグループ討議やプレゼン、大学や専門学校の学生との交流会(奈良)</p>
<p>実際に企業でのインターンシップを教室で体験しながらインターンとして企業活動に参加し、準備となる研修や業務を経てミッションに取組最終的にチームでプレゼンテーションを行う。(奈良)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の企画会議(生徒のみor企業や地域の方も含めて)</li> <li>・商品開発でのプレゼンテーション</li> <li>・販売実習店舗「神島屋」の運営(和歌山)</li> </ul> <p>販売実習を行うことで、年齢層の違う人々とのコミュニケーション能力を養い、外国人観光客等への対応により、外国語のスキルアップを目指している。(和歌山)</p>
<p>自己表現育成プログラム(鳥取)</p>
<p>言語活動を積極的に取り入れた授業展開(鳥取)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模販売実習</li> <li>・課題研究発表会</li> <li>・中学生体験入学への生徒対応</li> <li>・ビジネスプランコンテストへの参加(島根)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館活動への参加</li> <li>・地域イベントへの参加</li> <li>・販売実習(デパート)(島根)</li> </ul>

<p>東商デパート 企業と連携した商品開発 オープンスクール、小中学生への出前講座 社会貢献活動、部活動(岡山)</p>
<p>講演会、研修会の開催 外部との連携事業によるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の発揮(岡山)</p>
<p>・すべての授業を通じてマナー礼法指導を行っている。 ・システム手帳「商人道(あきんど)」を活用(報・連・相の徹底)している。 ・地域ボランティアへの参加によって異世代・異文化交流を図っている。(岡山)</p>
<p>夏期海外語学研修(広島)</p>
<p>模擬学校デパートで接客を行っている。 地域の祭りなど参加し、店舗の人と協力して販売などを行っている。(広島)</p>
<p>上記「事業所実習」でのアポイントメントは事前に事業所の承諾を得た上で、すべてを生徒に行わせている。また、何らかの「提案」業務もその事業所店主・責任者に理解してもらえるよう工夫することがコミュニケーション能力向上につながっている。(山口)</p>
<p>宇部商デパート、インターンシップの実施(山口)</p>
<p>課題研究などでの発表会(香川)</p>
<p>・グループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業の実施 ・校内発表会の実施(課題研究発表会、インターンシップ報告会、人権意見発表会等) ・インターンシップ、地元商店街における販売実習 ・生徒商業研究発表大会やビジネスアイデアコンテストへの参加(香川)</p>
<p>各授業での言語活動やマナー教育 課題研究等でのプレゼンテーション活動(徳島)</p>
<p>・城山門前まつりでは、ロープウェイの商店の販売のお手伝いをしたり、着ぐるみやパレード、ミニコンサートなどお祭りを盛り上げるお手伝いをしている。 ・国際経済科では、台湾やアメリカの学校と提携し、修学力生徒の受入や逆に修学旅行に行くことにより国際的なコミュニケーション能力の育成を行っている。(愛媛)</p>
<p>異なった世代間との交流活動(各講座での活動をととして)(愛媛)</p>
<p>販売実習、ガイド実習(高知)</p>
<p>日曜日でのサポート活動(高知)</p>
<p>学校生活全般、教員も「まずは挨拶から」をモットーにしている。(福岡)</p>
<p>礼法指導、販売活動による接客(福岡)</p>
<p>・面接指導やホームルームでの個別面接、数名単位でのグループディスカッションの指導を行っている。 ・1年「国語総合」の授業の中で、「『自他を知ること』そのスキル・理解・共感」というテーマで自己表現、他者理解のスキルの学びと実践(スピーチコンテスト)を行っている。(福岡)</p>
<p>朝のホームルームでの朝の1分間スピーチ(佐賀)</p>
<p>インターンシップ 外部講師を活用した講演会(長崎)</p>
<p>・ペア学習、グループ学習をととして人前で自分の意見を「伝える・理解する・考える」事の出来る人材の育成(長崎)</p>
<p>・インターンシップ(2年次3日間)の体験(熊本)</p>
<p>「球商百貨店」生徒自らが仕入・販売、会計処理、店舗運営等を行い、販売実習を展開している。その中で、特に指導に力を入れているのがビジネスマナーや接客マナーである。協賛事業所の担当者やお客様に接する中で、コミュニケーション能力の向上に向けた体験的な学習の場としている。(熊本)</p>
<p>3年次の課題研究や部活動において商品開発や、販売活動を行っている。(大分)</p>
<p>授業改善の取組を進め、「生徒が自分の意見や考えを持ち、わかりやすく伝える力の育成」を図るため、授業の中で生徒が主体的に活動する場面や振り返りの時間(自己評価)を設定するなど小工夫を実施している。(大分)</p>
<p>基本的生活習慣を育成する観点から、挨拶の徹底を図ってはいるが、コミュニケーション能力の育成に特化した指導は行っていません。(宮崎)</p>
<p>・集団行動訓練 ・礼法指導 ・グループエンカウンター ・アサーショントレーニング ・ピアサポート(宮崎)</p>
<p>・あいさつの徹底 ・外国語(中国語・韓国語)会話の履修(鹿児島)</p>
<p>中国語・韓国語の学習を通して、近年の増加傾向にある外国観光者に対する「おもてなし活動」(外国語による観光案内やお茶の振る舞い)を実践している。(鹿児島)</p>
<p>・グループ学習を通じてプレゼンテーション発表の場(校内商品開発甲子園・校内ビジネスプラン選手権大会)を運営。 ・2年生商業科(4クラス)の海外研修実施。(沖縄)</p>
<p>関連する教科の授業及び学校・学科行事での取組、進路指導部での講話や講座等(沖縄)</p>

※ 特になし 1校

## ウ 積極性・チャレンジ精神

各種大会やコンテストへの参加 (北海道)
商品開発や地域活性化コンテストへの参加 (北海道)
①科目「商品開発」において地元企業と協力連携した企画商品の開発 ②地域イベントにおける新企画商品の実習販売 (北海道)
・部活動全員加入 ・資格取得指導 (青森)
地域貢献をテーマとした課題研究での地元商店主や地元企業との依頼交渉やプラン案説明 (青森)
生徒が、いろいろな経験ができるよう、様々なプログラムに応募したり、取り組んだりしている。(岩手)
行事・部活動・生徒会活動の活性化 月間皆勤賞表彰、行事毎の校是(独立自尊)唱和 など (宮城)
チャレンジ精神や積極性については主に部活動指導の中で指導者から話がなされているが、授業でもマーケティングやビジネス基礎で起業によるベンチャー企業での精神的要因や販売に関する接遇などでも積極性やチャレンジ精神を一要因として取り扱っている。(宮城)
・楽天IT学校に参加し県内企業とコラボレーションした商品開発 (秋田)
・3年間通してのビジネス実践活動(AKISHOP、キッズ、エコロジカル) (秋田)
販売実習・楽天IT学校など (山形)
・部活動、生徒会活動、委員会活動における指導・育成(学校行事を安易に減らさない) (山形)
販売実習…販売や営業への就職希望や、将来的に経営者を目指す生徒の多い経営ビジネス科において、2年次に地域企業の協力のもと、3日間の販売実習を行っている。事前・事後の研修と合わせて、積極的に取り組むことの重要性を学ぶだけでなく、実際の現場での就業体験により、学習と職業に対する意欲の向上に繋がっている。(福島)
資格取得の奨励、商品開発、販売実習 (福島)
・勉強から学びへとなるような知的好奇心を醸成するための工夫。 ・楽しいことから成果が生まれることから参加型の学習体験を組み入れる。 ・目標、目的を確認し、指標を示しながら支援する。(茨城)
1年生の時に、赤城青少年の家が提供している「あかぎアドベンチャープログラム(AAP)」を取り入れている。これは、設定された課題をグループで解決していく活動を通じ、人との関わりで大切なものに気づき、お互いの信頼関係を高めしていく活動である。この活動を通して、コミュニケーション能力を育成することに加えて、問題解決能力を高めている。(茨城)
起業家精神育成事業(ビジネスプランによる審査を経て生徒考案の起業実践プラン活動に参加) (栃木)
「起業家精神育成事業」への取組 ・県教育委員会事業である「起業家精神育成事業」に応募し、校章等をデザインした商品(菓子)を作成、校内にて販売を行う。(栃木)
・「商品開発」や「課題研究」、部活動等において、地域企業と連携した商品の企画開発、各種コンテストへの応募などを積極的に行っている。(群馬)
資格取得への挑戦 (群馬)
・資格取得指導の推進 ・各種競技会への参加 ・東北支援ボランティア活動 (埼玉)
学校行事による表彰制度、生徒の徽章表彰制度、高度な資格取得者や部活動の優秀者の全校表彰 (埼玉)
学校行事等を通じた指導 部活動等を通じた指導 (埼玉)
各教科指導および部活動、特に商品開発や課題研究などの授業における実践的な活動 (千葉)
・地域や地元企業との連携による地元の特産品等を活用した商品開発 ・地域活性化への参画 (千葉)
「課題研究」において、商品開発に取り組んでいる。地元特産品(ゆず、ラ・フランス)を活かした商品を地元業者の指導をいただきながら進め、現在8品目を開発した。(山梨)
各種検定試験を利用し、各学年で学習した成果を試すために、積極的な受験を推奨し、3冠100名以上という学校全体の目標に向かって上位級へのチャレンジも応援している。また、本校では部活動への参加を奨励し、活動も大変盛んであるため、運動部のみならず文化部においても、全国大会・関東大会等への出場も果たしている。(山梨)
毎時間の授業(特に商業科目の中で意欲や考え方を育成している)、進路指導行事(就職した卒業生や大学・専門学校の進路担当者との懇談会、マナー講座、労働講話、合格体験談および模擬面接、インターンシップ等)の中で育成を図っている。(東京)
上級資格取得への挑戦 (東京)
検定取得への支援・チャレンジショップ (神奈川)
商品開発や課題研究における外部コンテストへの積極的参加 (神奈川)
検定に対する取組が、積極性・チャレンジ精神を育てていると思います。 他には、新潟県商業部会で「東アジア研修事業」を行っていますが、海外でのホームステイ経験、企業交流、地元高校生との交流、を通して、チャレンジ精神を育てていると思います。(新潟)
・小学生、中学生、大学生と連携しながら行うチャレンジショップの運営 (新潟)
・模擬株式会社「TOMI SHOP」関連の諸活動 ・現場実習(百貨店、スーパーでの販売実習。流通経済科2学年全員) ・インターンシップ(3月) ・生徒「学び合い」活動(学校アクションプラン) ・各種検定資格試験への取組(富山)
全校生徒が株主になり模擬株式会社を運営し、商品開発、仕入、販売、決算の企業経営活動に取り組んでいる。 朝市、イベント等に出品するとともに駅地下の常設店を運営している。(富山)

<p>・「楽天IT甲子園」「外国の姉妹校・提携校との交流」「商品開発」「金商ライフサポート株式会社(模擬)」課題追究への積極的なチャレンジや、責任感を持っての発表を行うなかで、グループの一員として、グローバル人材の要素のである積極性・チャレンジ精神といった資質の育成をおこなう。(石川)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動全員加入での活動</li> <li>・国家試験などの高度な資格取得への挑戦</li> <li>・学校行事</li> <li>・自主的な除雪や学校清掃(石川)</li> </ul>
<p>武商デパートを通じてビジネスゲームを体験し、さらに外部講師を招いての講演会を実施している。(福井)</p>
<p>生徒会活動への積極的参加 各種学校行事(学校祭、文化部発表会、マラソン大会) 部活動(1年生全員加入)の積極的参加 各種資格の取得(福井)</p>
<p>長商デパート、インターンシップ(長野)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級資格取得の挑戦、全商3種目以上1級合格</li> <li>・進路実現</li> <li>・生徒会活動、クラブ活動</li> <li>・県商研主催 デパートサミットに参加(マーケティング塾・デパートゆにっつ)(長野)</li> </ul>
<p>課題研究の商品開発等において、地域や産業界と連携する中で、高校生の視点で地域課題に取り組むことで課題解決能力を育成することで、積極性やチャレンジ精神を育成している。(静岡)</p> <p>授業、部活動、学校行事、そして、外部との関わりによって育てようとするのが大切である。授業で身に付けさせることには限界があることを出発点とするべきである。(静岡)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流事業</li> <li>・商品開発(愛知)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発(3年生)</li> <li>・ボランティア活動への参加(全学年)</li> <li>・地域文化を紹介した絵本の作成(3年生)</li> <li>・地域施設紹介用のHP作成(3年生)</li> <li>・地域イベントにおけるスタッフとしての参加(全学年)(愛知)</li> </ul>
<p>海外への派遣、各種コンクール・発表会や地域貢献活動、商品開発等、積極性やチャレンジ精神が必要な学習機会を設けている。(愛知)</p>
<p>(株)GIFUSHOをととした起業家意識の育成(岐阜)</p>
<p>部活動を通して鍛えている。(岐阜)</p>
<p>商品開発 地元の振興策への参画(三重)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元大学や事業所と連携した課題解決に向けた企画提案</li> <li>・課外活動(部活動、生徒会活動、学校行事)(三重)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合実践における、実社会を模した実践的実習</li> <li>・授業のなかでの生徒間討論や発表</li> <li>・課題研究での生徒相互による研究活動・発表等</li> <li>・近江商人再生プロジェクトの実施(滋賀)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アントレ実習</li> <li>・バス旅行企画(京都)</li> </ul>
<p>修学旅行(京都)</p>
<p>日々の授業の中での取組、プレゼンテーションと調査研究活動を伴う授業や行事への参加 課外授業としての販売実習など(大阪)</p>
<p>各種イベントへの参加(大阪)</p>
<p>商品開発 国際交流(兵庫)</p>
<p>こうべカトリック NPO法人と連携し、大学生・新社会人を中心とした年齢の近い若者と将来の進路について具体的に語ることで将来設計を確かなものとする。(兵庫)</p>
<p>各種検定受験の奨励(兵庫)</p>
<p>企業が扱う商品のHP作成に関しての企業訪問(打ち合わせ)や対応方法等、生徒が自主的に企画(奈良)</p> <p>生徒の積極性を求める前に、教員一人一人が使命感、責任感を持ち、高い専門知識と指導力を身に付け、常に生徒と向き合っていることが重要である。教員の活力ある賢明な姿勢が生徒に意欲を持たせ、元気にさせる秘訣である。(奈良)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種検定試験</li> <li>・各種コンテストへの参加</li> <li>・販売実習店舗「神島屋」の運営(和歌山)</li> </ul>
<p>新たな商品開発の企画の中で、グループワークによりそれぞれのアイデアを持ち寄り、お互いの意見を尊重しながら商品の開発に当たることで、生徒の育成を図る。(和歌山)</p>
<p>部活動の積極的推奨 学校デパート(鳥取)</p>
<p>部活動の推進(鳥取)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用情報技術者、基本情報技術者、セキュリティマネジメント試験、日商簿記2級等の外部資格試験への挑戦</li> <li>・GTECスコアの向上</li> <li>・全商簿記検定3種目合格者の多数輩出(島根)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な資格取得</li> <li>・競技会への参加</li> <li>・各種コンテストへの応募(島根)</li> </ul>
<p>東商デパート 企業と連携した商品開発 インターンシップ(岡山)</p>
<p>商品開発、ビジネスプランコンテストへの参加(岡山)</p>

<p>・地域ボランティア参加への積極的に参加させ、学校内では体験できない経験を積ませることで、積極性やチャレンジ精神を育てている。  ・授業においては様々な問題発見、課題解決型のコンペティションに参加することで積極性・チャレンジ精神を育てている。(岡山)</p>
<p>挨拶運動(広島)</p>
<p>模擬学校デパートで商品仕入などを生徒に提案させている。  東京での販売実習やビラ配布などを行っている。(広島)</p>
<p>毎週、正規授業の枠外に1コマ「チャレンジタイム」の時間を設け、様々な学習面における得意分野の伸長、または不得意分野の知識の補填について、各自で行わせるようにしている。(山口)</p>
<p>・学校設定科目で地域と起業について学んでいる。  ・学校行事(集団宿泊、水泳大会、マラソン大会、体育祭、宇宙商デパート)を組織的・体系的に実施し体験や経験をおし身に付けさせている。(山口)</p>
<p>電子商取引への参加(香川)</p>
<p>・インターンシップ、地元商店街における販売実習  ・生徒商業研究発表大会やビジネスアイデアコンテストへの参加  ・部活動によるプログラミングコンテスト等への参加  ・地元企業と連携した商品開発(香川)</p>
<p>ドイツ・カンボジアとの国際交流(徳島)</p>
<p>部活動への参加奨励や各種競技会大会への参加(徳島)</p>
<p>商神祭松商デパートでは、販売する商品の仕入れから販売まで、自分たちで考え販売することにより、店舗経営について積極性やチャレンジ精神を養っている。(愛媛)</p>
<p>模擬会社による商品開発(事業所との連携のもと、新居浜沖にある大島で栽培している、大島特産の白いもを使った新商品の開発を行っている。この活動をおして、地域の活性化、地方創生に貢献できればと考えている。(愛媛)</p>
<p>地元イベントの企画・運営(高知)</p>
<p>商品開発(高知)</p>
<p>建学精神「フロンティア・スピリット」をあらゆる機会を利用して指導し、行動規範としている。(福岡)</p>
<p>学校行事を生徒主体で実施(福岡)</p>
<p>生徒自らが中心となり、学校行事や集会においてリーダーシップを取り、整列、進行等を行っている。(福岡)</p>
<p>地元企業と共同で商品開発や販売活動を行っている。(佐賀)</p>
<p>学校行事やボランティア活動(佐賀)</p>
<p>ミニ佐世保(長崎)</p>
<p>・与えられたことだけでなく、自ら率先して働くことのできる人材育成(長崎)</p>
<p>・入学時の部活動加入の奨励(熊本)</p>
<p>課題研究における調査研究をおして、生徒の若い力・発想で地域活性化を目指している。特に、市町村や地元企業と連携し、実践活動等で資料を集め、それを分析し、研究成果を発表している。(熊本)</p>
<p>上級資格にチャレンジし、全商3冠以上の資格至徳を目指している。(大分)</p>
<p>3年次に自らテーマを設定し、課題解決を図る「課題研究を実施している。(大分)</p>
<p>積極性・チャレンジ精神の育成に特化した指導は行っていません。(宮崎)</p>
<p>・高度資格取得の推進  ・全員部活動制の導入  ・部活動生を核とするスクールリーダーの養成(宮崎)</p>
<p>・商業系資格への全員受験  ・大学と連携した上級資格(日商簿記1級等)の推進(鹿児島)</p>
<p>実践的なビジネス活動の一環として、商品開発におけるアイデアコンテストを実践し、個人やグループで企画したプレゼンテーションを行う。優秀な提案を採用し、企業と連携して商品として販売する。(鹿児島)</p>
<p>創立110周年記念事業の香港研修(1年生)実施(沖縄)</p>
<p>各種検定取得及び上級資格取得の推進、学校・学科行事の取組、部活動の活性化等(沖縄)</p>



## エ 道徳観・倫理観

ボランティア活動への参加(北海道)
全校あいさつ運動の実施。いじめ防止運動の実施(北海道)
①ボランティア活動などの社会奉仕体験活動への積極的参加の奨励 ②生徒会を中心とした生徒自らのマナーやモラルを改善しようとする取組(北海道)
・授業時における挨拶の励行 ・ボランティア活動参加の推進(青森)
バザー開催における共通テーマ”おもてなしの心”(商道徳)(青森)
今後は「商業倫理」の指導をしていきたいと考えている。(岩手)
外部講師、LHR活動の活用 朝読書、朝の清掃ボランティア活動(各クラス年2回) 交通安全指導、全校一斉校外清掃活動 など(宮城)
商業科の授業において顧客満足度の観点から、顧客から信頼されることの大切さを指導しており、その中で道徳観・倫理観についても習得できるものと思われる。部活動においても最優先に指導しなければならないもので、信頼される生徒像として道徳観や倫理観の大切さを日頃から指導している。(宮城)
・ネットトラブル防止教室を開催しネット利用のモラルやマナーを学ぶ(秋田)
講演会・企業訪問など(山形)
・クラス担任、部活動顧問による面接指導の重視(年二回面接週間ほか) ・登校指導・服装指導等の通年にわたる丁寧な指導の実施 ・スマホ利用のルールやマナーなどの徹底した指導(山形)
学習指導…商業に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得により、生徒自らがビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付けられるよう、人間関係の形成に必要な社会性、社会的なモラル、ビジネスマナーなどを通じて、倫理観を育てている。(福島)
全ての学校生活活動(福島)
・商業、会計に携わる者の礎として基本に据える。 ・行動的変容だけでなく、内発的に変容できるように様々な場面で振り返り、次を考える指導を念頭に置いて指導にあたる。 ・外部講師による講演会を実施し、幅広い考え方を育成する。(茨城)
茨城県では、平成19年度から1年次の総合的な学習の時間を利用して「道徳」の授業を行い、人間としての在り方生き方を考えさせる教育を行っている。さらに、平成28年度からは、2年生のLHRの時間で年間に10回、「道徳プラス」の時間を設け、対話型の授業とモラルトレーニング型の授業を行うことで、道徳実践力の育成を図っている。(茨城)
ビジネスマナー教育(ビジネスマナー指導のプロから様々なマナー指導を受ける)、企業経営者講話(栃木)
「道徳教育全体計画」の策定 毎年校内の全体計画を策定し、各教科(科目)の授業や部活動、生徒指導、進路指導、特別活動等、様々な場面で生徒の道徳観・倫理観の育成を図っている。(栃木)
・挨拶や礼儀作法、ビジネスマナーを入学時より徹底して指導している。この部分では地域社会からの評価も高い。生徒指導部とも連携し、本校卒業生としての自覚と誇りを持って地域のリーダーとなれるよう、基本的な生活習慣の確立ができるよう指導している。(群馬)
HR、授業、部活動、学校生活全般を通じて(群馬)
・東北支援ボランティア活動 ・道徳教育年間計画の策定(埼玉)
人権教育講話、交通安全講話、生徒指導関係講話等(埼玉)
HR活動や学年集会などを通じて 教科の指導 学校行事など(埼玉)
総合的な学習の時間内での道徳教育、商業科目におけるコンプライアンス教育(千葉)
・日常の学校生活における基本的な生活習慣の確立 ・科目「ビジネス基礎」及び「総合実践」等におけるビジネスマナー教育の実践(千葉)
毎時間の授業(特に商業科目の中で意欲や考え方を育成している)、進路指導行事(就職した卒業生や大学・専門学校の進路担当者との懇談会、マナー講座、労働講話、合格体験談および模擬面接、インターンシップ等)の中で育成を図っている。(東京)
マナー・ルールの遵守の徹底(東京)
全校集会での講話・清掃活動(神奈川)
LHRや総合的な学習の時間を利用した人権講座の実施(神奈川)
ビジネス基礎や総合実践におけるビジネスマナー教育や、ビジネス経済などで実際の企業の様子を取り上げることで、コンプライアンス、などを学ぶことができている。(新潟)
・模擬株式会社「TOMI SHOP」の活動 ・現場実習(百貨店、スーパーでの販売実習。流通経済科2学年全員) ・インターンシップ(3月)(富山)
外部講師によるビジネスマナー教育、情報モラル教育を実施している。(富山)
・「マナー講座」「交通安全講座」「携帯電話利用講座」「人権講話」経済社会の中における法の意義や役割について理解させ、行事等を通して法の理解の深化を図り、さらに専門的な知識・技能をもつ外部人材を活用した授業・講演を行うことで、倫理観や遵法精神を育てる。(石川)
・各種の募金活動への参加 ・地域清掃活動 ・外部講師による各種講話 ・地域児童センターにて子どもたちへの活動・ボランティア活動・自主的な学校清掃(石川)
学校活動全体を通して育み、情報モラルなどは授業を通して育成していく。また、月例集会において校長が必ず人権、道徳、倫理に関する話を入れることにより、絶えず生徒商業高校生としての意識を持つようになっている。(福井)

<p>ホームルーム活動、底喰川一斉清掃ボランティア参加 各種講演会(SNS利用、交通安全、薬物乱用防止)等啓発活動 芸術鑑賞 選挙権年齢引き下げに対応した主権者教育 殉難学徒献花式(福井)</p>
<p>外部講師による講演会、身だしなみ検査(長野)</p>
<p>実習販売「須商・創成マーケット2016」 社員研修会、マナー研修会等(長野)</p>
<p>マーケティング等の授業において、CSR(企業の社会的責任)等の内容で商道德等を取り上げている。(静岡)</p>
<p>授業、部活動、学校行事、そして、外部との関わりによって育てようとするのが大切である。授業で身に付けさせることには限界があることを出発点とするべきである。(静岡)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動(5・6・7・9月、生徒会を中心に行うあいさつ励行活動)</li> <li>・レッツクリーン(各学期末に生徒会を中心に行う地域清掃活動)</li> <li>・はるかのかのひまわり絆プロジェクト(ひまわりを育てる中で、植物の世界のしくみや循環していく命の大切さを学ぶ)(愛知)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発(3年生)</li> <li>・朝市の運営(2・3年生)</li> <li>・防災ボランティアや清掃ボランティア活動への参加(全学年)(愛知)</li> </ul>
<p>本校には校風三則の中に「商士道ヲ發揮セヨ」があり、日ごろより倫理観・商業道德に関して指導している。(愛知)</p>
<p>(株)GIFUSHOをととしてコンプライアンス等を学ぶ(岐阜)</p>
<p>人権啓発活動を行っている。(岐阜)</p>
<p>週番・風紀制度の活用(三重)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記会計における企業会計原則の学習や情報処理における情報モラルの学習など</li> <li>・マナーや道徳観を視覚的に訴える内容の掲示物を、授業で生徒たちが作成して校内に掲示(三重)</li> <li>・総合実践における、実社会を模した実践的実習</li> <li>・授業のなかでの生徒間討論や発表</li> <li>・近江商人に関する授業・研修会等における近江商人精神等の育成</li> <li>・近江商人再生プロジェクトの実施(滋賀)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時の一泊研修</li> <li>・人権学習</li> <li>・著作権等の学習(京都)</li> </ul>
<p>道徳の授業(京都)</p>
<p>日々の指導や講演など(大阪)</p>
<p>ビジネス基礎、ビジネス・マネジメントの授業での企業人からの講演(大阪)</p>
<p>月1回程度HRの時間を活用して、心の健康教育プログラムを実施し、年10回程度学校行事として体験活動を実施するとともに、事前事後アンケート、2ヶ月毎のアンケートにより、生徒の自尊感情の変容を測る。活動内容は、全学年同じものとし、学校全体で生徒の自尊感情高揚を目指す意識の醸成を図る。(兵庫)</p>
<p>人権教育に関するホームルームと講話(兵庫)</p>
<p>規範意識の確立、情報モラル等についての講演会実施(奈良)</p>
<p>ビジネスマナーの実践に努め、人間性豊かな生徒の育成。遅刻欠席を無くし、3年間皆出席を目標に指導する。上級資格取得に意欲的に取り組むことは学ぶ喜びと自信、充実感を得ることとなる。(奈良)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャリティーバザーの企画、実施(和歌山)</li> </ul>
<p>インターンシップで実社会に出て行くことで、学校では学びにくい社会性や市民性を学んでいる。(和歌山)</p>
<p>学校生活における規律の徹底 商業高校生としての自覚と誇り、経済活動の専門家としての志の育成(鳥取)</p>
<p>規律ある学校生活の維持(鳥取)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の全校ビジネスマナー</li> <li>・チャレンジショップ、大規模販売実習で「商品」を取り扱う意義</li> <li>・各部活動指導(島根)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の推進</li> <li>・地域イベントへの積極的参加</li> <li>・礼法指導(島根)</li> </ul>
<p>東商デパート モラル教育 マナー教育(岡山)</p>
<p>地域ボランティア活動、近隣高校生と連携しての河川敷清掃(岡山)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市商八策という玉野商業独自の校是を用いて意識の高揚を図っている。</li> <li>①定期考査を本気で頑張る ②検定は最後まであきらめない ③絶対に学校を休まない ④入部100%を目指せ ⑤マナトレと読書を習慣とする ⑥プラス思考で行動する ⑦ルールは絶対まもる ⑧勤労観を育てる(岡山)</li> </ul>
<p>校門での挨拶運動。地域清掃活動。生徒集会・学年集会・HRを通して、生徒に注意啓発(広島)</p>
<p>マーケティングや総合実践の授業で「コンプライアンス」をキーワードに生徒に道徳観・倫理観が身につくよう指導している。ただし、単発的であり、系統立てた道徳観・倫理観の醸成につながっていない。(山口)</p>
<p>各科目の指導計画に位置付け、授業において道徳観・倫理観を養う取組(山口)</p>
<p>日々の高校生活の中で授業や部活動などを通して育成(香川)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ、地元商店街における販売実習</li> <li>・プロによる講演や講座の実施(情報モラル、ビジネスマナー、消費者生活等)(香川)</li> </ul>
<p>ビジネスマナー教育の徹底など(徳島)</p>

<p>・ビジネス実習や門前まつり、松商デパートでの活動においても、常にお客様の立場に立って考え、行動すること、道徳観や倫理観が大切だと指導している。</p> <p>・ふれあい学習において、老人ホームなどを訪問し、いろいろな年齢の方と触れ合うことにより道徳観や倫理観を養っている。(愛媛)</p>
<p>学校設定科目である「商入学」をとおして、倫理観・道徳観を養う。「商入学」は、商業の発展の歴史や、商人や企業の経営理念や名言を学ばせることにより、商業を学ぶ意義を理解させるとともに、商業高校で身に付けるべき考え方や態度を身に付けさせ、商業高校生としての自覚と誇りを持たせるための学校設定科目である。(愛媛)</p>
<p>主に1年次の総合的な学習の時間で行っている。(福岡)</p>
<p>授業規律の徹底、ネットモラルの指導(福岡)</p>
<p>・人権特設授業で社会人として、また人としてのあり方を考えさせる。</p> <p>・学年集会において様々な道徳的課題について講話をし、考えさせる。(福岡)</p>
<p>校内でのきちんとした一礼。登下校での服装やマナーの徹底。高校生らしい規範意識を機会があれば話している。(佐賀)</p>
<p>・インターンシップの実施</p> <p>・外部講師による講演(佐賀)</p>
<p>外部講師を活用した講演会(長崎)</p>
<p>・ビジネス活動におけるマナーの育成をはじめ、社会における規範意識を心がける事のできる人材育成(長崎)</p>
<p>・登下校時の校門一礼の徹底(熊本)</p>
<p>高い知識や技術を持つ者は、より高い道徳感や倫理観が必要とされる」との認識のもと、簿記会計分野や情報処理分野の各授業においてコンプライアンスの指導を行っている。(熊本)</p>
<p>部活動だけでなく平日頃からあいさつや言葉遣いと言った礼儀を身に付けさせている。(大分)</p>
<p>基本的な生活習慣の確立と凡事(挨拶・清掃・身だしなみ)徹底を図っている。(大分)</p>
<p>週1回の放送朝礼や立腰・黙想指導において、育成している。(宮崎)</p>
<p>・人権学習</p> <p>・集会時の無言集合</p> <p>・登下校時の校門一礼</p> <p>・清掃活動の充実(宮崎)</p>
<p>・学年別奉仕活動の実施(鹿児島)</p>
<p>広報活動の一環として、出版社と連携してフリーペーパー(年1回発行)を作成する。学校のPR活動とともに、地元の特産物や企業等を題材として取り上げ、地域の情報発信に貢献する。取材活動では、言葉遣いやマナーに配慮し丁寧な対応を心掛けている。契約した出版社には、専門的な立場から紙面構成や文章表現、さらには知的財産権等に至るまで指導していただいている。(鹿児島)</p>
<p>校内慰霊祭「6月23日(沖縄県独自の慰霊祭)に全1年生参加」の実施(沖縄)</p>
<p>生徒指導部における取組や関連する教科の授業での指導等(沖縄)</p>

※ 特になし 1校

## <考察>

「ア 就労意欲、職業観、勤労観」の育成のための取り組みとしては、圧倒的にインターンシップ(3日～5日間)をあげている(78校)。また、学校デパートを行い販売実習等の経験を積ませ、就労意欲と職業観を高めている学校も多い。さらに、進路と絡めて卒業生による体験談や外部講師による講話により、勤労観の育成に努めている。段階に応じたキャリア教育を実施している学校も多い。今後は、学校組織として、すべての教科を通じたキャリア教育の取り組みも必要となる。

「イ コミュニケーション能力」については、次のような調査結果がある。東京経営者協会「平成21年3月新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」の結果によると、「高卒者採用に際し重視する要素」として、企業が採用に当たって重視する要素は「協調性」(72.9%)がトップで、次に「コミュニケーション能力」(68.2%)、「基本的な生活態度、言葉づかい、マナー」(63.5%)、「責任感」(40.0%)、「職業観・就労意欲」「積極性」(ともに 38.8%)と続いている。このことを理解した上で、各学校では様々な取り組みをしている。アクティブ・ラーニング・学校デパート・講演やマナー指導、さらに日ごろのあいさつ指導がその中心となっている。

「I 地域創生における商業高校の現状について」の「問5 卒業時点で身に付けておくべき能力等で重要と思われる順」に63校が「カ コミュニケーション能力」とあげている。しかし、取り組んでいる内容は以前からのものが多く、新たな取り組みが少なく、真のコミュニケーション能力の育成につながっているとは言いがたい。

「ウ 積極性・チャレンジ精神」の育成については、学校の特色によって様々な取り組みが行われている。学校の歴史と伝統に裏打ちされたものから、新たにチャレンジさせるものまで多種多様である。コンテストや競技大会への参加、新しいところでは楽天ITへの参加などがある。また、地域との連携や資格取得への挑戦、学校行事や部活動を活用した取り組みなどもある。アンケート結果には表記されていないが、各取り組みには必ずPDCAサイクルによるさらに高度な教育効果を考えている様子が伺える。

「エ 道徳観・倫理観」については、各学校がこの指導を大切かつ重要視していることが感じられる。授業と日ごろの学校生活を通じた指導、さらに講演によるルールとマナー指導を行っている。商業教育は人づくりと言われるように、3年間を見据えた学校組織としての指導を強く感じた。

## IV 各都道府県の動向(連絡理事校のみ回答)

### 問1 貴都道府県において、商業高校の改革についてどの様なことが実施あるいは検討されていますか。

<p>・商業科教員の資質向上を目的とした研修参加の推進(青森)</p> <p>商業教育の核となる学校は一定規模を確保し、中心校としての機能を維持する。 平成32年度に、1校が工業高校と統合(校舎制)し総合的専門高校になる予定。併せて1学級減になる予定。(岩手)</p> <p>・県内では全国で2校目となる観光科を設置 ・生徒数(中学生)の減少のため商業高校が縮小傾向(統廃合・学科改編・学級減など)(宮城)</p> <p>山形県にあっては、生徒数の減少による高校再編整備が年度進行で進められており、設置者が市である山形市立商業高校は別にしても、県立高校にあっては商業単独校が1校に減らされてしまった。さらに数年後には、残された1校も、工業高校との統合が検討されている。その一方、普通科高校の総合学科への改編が進んでおり、その中で商業科目を選択することのできる学校が増えているという面がある。県としての商業高校改革には残念ながら前向きなものが見られないのが現状である。(山形)</p>
<p>商業に関する学科設置校から総合学科への改編がある。(茨城)</p> <p>商業高校における教育内容の充実・発展及び今後の商業教育の方向性を検討するために、群馬県商業教育研究会内の部会を、今年度から「会計研究部会」「ビジネス情報研究部会」「経済・経営研究部会」の3つに統合した。(群馬)</p> <p>・生徒数減少に伴う再編整備が見込まれますが、具体的な動きは見えていません。 ・専門高校のスーパーキャリアハイスクール構想に関する検討組織が立ち上がる予定です。(埼玉)</p> <p>平成30年度に県内商業関係高校における学科の名称を商業科と情報処理科の2つに再構成し、学科名称の多様化における指導内容のわかりにくさを解消。 産業系高校における学力検査において前期試験で募集定員の100%まで合格者を出すことができる。(千葉)</p> <p>県教育委員会により平成22年に策定された「県高等学校整備基本構想」に沿って高校改革が進められている。単独の商業高校は現在2校となり、うち1校は普通高校・工業高校との統合が予定されている。(山梨)</p>
<p>平成28年2月、東京都教育委員会は「都立高校改革推進計画新実施計画」を策定した。新実施計画では、専門高校の改善の中で、商業高校の適正規模・適正配置を計画している。具体的には、商業高校の1校を家庭・福祉高校に改編、1校をチャレンジスクールに改編、普通科・商業科併置校1校の商業科を閉科し普通科に改編する。その結果、東京都の全日制課程においては、第一商業、第三商業、第四商業、第五商業、芝商業、江東商業、葛飾商業及び千早、大田桜台、計9校となる。また、東京都教育委員会は、外部有識者等もメンバーとした「商業教育検討委員会」を組織し、東京都の商業教育の目指すべき方向性について教育内容の検討を行っている。(東京)</p>
<p>・県立高校改革Ⅰ期において、普通科との併置、農業科との併置に伴う商業科のクラス数減少が進む。 ・川崎市立商業高等学校について 「市立高等学校改革推進計画(川崎市教育委員会、平成19年7月)」の第1次計画に基づき、平成29年度から、全日制課程においては「ビジネス教養科」を6クラスから4クラスの募集とし、新たに普通科2クラスを開設する。校名についても変更予定。 ・定時制課程においては、平成29年度に川崎総合科学高等学校定時制に移行する。商業高校に入学した生徒で川崎総合科学高等学校に移行後卒業する生徒は、川崎総合科学高等学校商業科で卒業する。なお、平成29年度以降は、川崎総合科学高等学校定時制より「商業科」(1クラス)を募集する。(神奈川)</p>
<p>県教育委員会から「県立高校の将来構想」が発表され、今後10年の高校の姿が示された。(新潟)</p>
<p>平成26年に、学識経験者、教育関係者、経済界の代表、保護者の代表などのアドバイザーからなる「県立学校整備のあり方等に関する検討委員会」が設置され、高校再編(後期計画)の中で継続協議されている。(富山)</p> <p>石川県の商業高校における大学進学率は低い。将来、地域社会の産業界を担う人材を育成するため、より専門的に学ぶ必要がある。また、商業教員の確保と質の向上を図ることも急務である。進学率向上のため、教育課程の変更に取り組んでいる。(石川)</p>
<p>平成27年10月の長野県産業教育審議会の答申で商業科の望ましいあり方として次の3項目の提言がされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間連携の維持の検討</li> <li>・産官学の連携の拡大</li> <li>・検定資格合格のプロセスの重視と地域経済を活性化させる教育(長野)</li> </ul>
<p>平成27年8月に県産業教育審議会答申が出され、その具現化に向けて商業校長会として、学力の確保向上策として商業4分野をバランスよく学習するために科目「マーケティング」の必修化を推進することでカリキュラムマネジメントに取り組むとともに、商業科教員の資質向上のため商業マネジメント研修、Javaプログラミング研修などの研修を実施している。また、静岡県商業教育研究会において生徒の主体的学びを実現するために授業改善研修を実施している。(静岡)</p>
<p>第三次愛知県教育振興基本計画(あいちの教育ビジョン2020)を踏まえ、県立学校商業科将来ビジョン(学科改編)「3つの方向性と設置学科例」について検討されている。(愛知)</p> <p>現時点では商業高校に特化した目立った改革は実施及び検討されていないが、中3人口減からみた高校活性化計画が進行中であり、本年度中に次期の活性化計画が策定される(三重)</p>
<p>商業科でなく総合学科のなかの商業へと変更になっていき、商業単独高校は二校のみ。(滋賀)</p>
<p>商業教育だけではなく、京都府産業教育振興会と京都府教育委員会、「生徒減少期における府立高校の在り方検討会議」が継続的に行われている。(京都)</p>
<p>表面化していないが、第2弾の再編統合等の検討(大阪)</p>
<p>これまでは商業教育改善委員会を活用して2年ごとにテーマを決め、商業科教員を各校から招集し、研究活動を続けている。今年は、5月に県下事業所500社対象の「商業教育に関するアンケート」を実施し、分析研究を行い、商業教育の改善を目指したプロジェクトを実施する計画である。(兵庫)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事一般については、商業科教員の異動に関わって適正な人材配置、同一校の長期勤務者の解消</li> <li>・県商業教育研究会の研修制度の見直し</li> <li>・商業関係学科設置校で教育課程や商業関連の行事の見直し等が検討されている。</li> <li>・生徒人口の減少にともない、商業高校も含む高校再編計画が検討されていると思われる。(奈良)</li> </ul>
<p>本県においては単独商業高校は1校である。産業教育活性化の施策の一つとして平成28年度から下記のような取組を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高校生チャレンジャー」では全国レベルのコンテストにチャレンジする高校生の全国大会への参加旅費や、専門性の高い講師を招聘するための費用を補助する取組。</li> <li>・長期インターンシップを実施する学校への担当教員の旅費を負担する。</li> <li>・中学生全員に地元企業と専門学科を紹介する冊子を作成し配付する。(和歌山)</li> </ul>

現在、単独商業高校は県内1校のみ。商業に関する学科の設置校は4校。そのうち、1校の私立高校は来年度より商業に関する学科の募集を停止する予定。その他の高校は入試での一定の応募倍率もあり、当面は現状維持の予定。(鳥取)
商業高校の統廃合(島根)
「地域・人とつながり、未来を創造し、共に成長できる人材」の育成 魅力ある教育課程の実践と商業教育の展開 アクティブ・ラーニングを取り入れ、指導と評価の一体化を目指した授業改善 グローバル人材・地域のリーダーとなる人材の育成 商業教育の専門性を活かした地域貢献・地域再生の取組(岡山)
本県では、平成18年度から数年間かけて、独立した4校の商業高校にそれぞれ工業科を合併・併設して、4校の商工高校に再編された。これらの商工高校では学校の特性を生かし、選択科目の異教科相互乗り入れを行っている。県内商工高校において工業科の生徒が商業科目に興味を示し、在学中に全商検定7種目1級合格を果たしたこともある。また、商業・工業が協力してそれぞれの得意分野を生かした地域イベントを各商工高校で行っている。 独立した商業高校におけるの改革は特に実施・検討されていない。(山口)
類・コース制の改善・見直しを行い、小学科制に学科再編を実施した。(徳島)
・商業科設置校では、地域に根ざし地域の良いところを発見あるいは開拓し、地域活性化のために自分たちにできることではないか模索している。学校によっては、課題研究や学校設定科目において地域を知るための講座を開き、地域に根ざし、将来地域に貢献できる人になるよう基盤作りを行っている。(愛媛)
「ものづくりニッポン」をさらに世界に広めていくためのグローバルキャリア教育の推進(福岡)
・佐賀県版高校生ビジネススクールを本年度からスタートさせた。 ・高校の再編が平成30年度からスタートし。商業の専門高校3校が専門高校でなくなる。(佐賀)
①教員の指導力向上のための研修会 ②教員の指導力向上のための教員表彰制度(検討中) ③生徒の各種検定試験取得状況によって認定する「ビジネスマイスター長崎顕彰制度」を実施(長崎)
大分県下で商業高校と名のつく学校は来年度から大分商業1校になる。そのため既存のただ就職する学校というイメージだけでは今後学校がなくなってしまう可能性がある。そういった危機感の上で、現在授業改善やインターンシップの充実、資格を利用した進学実績の向上を目指すことが検討されている。(大分)
平成25年2月に、本県商業教育の今後10年間の指標として、宮崎県産業教育審議会より「これからの本県商業教育の在り方について」(答申)が発表された。その答申には①「おもてなしの心」を育む。②「実践力」を育む。③「戦略的思考」を育む。という3つの基本理念が掲げられている。本年度、本県商業教育研究会では、「戦略的思考」についての研究会を立ち上げ、研究を深めることにしている。(宮崎)
・アクティブ・ラーニングによる授業やワークショップの実施等(鹿児島)
商業高校の改革ではありませんが、今年度より特別支援学校との併設校になっている学校があります。(沖縄)

※ 特になし 7校

## <考察>

各都道府県における商業高校に関する改革の実施内容及び検討されている事項に関して、以下のとおり整理した。

### 【教員の力量向上】

- ・商業科教員の資質、指導力向上を目的とした研修
- ・授業改善研修

### 【教育課程】

- ・マーケティングの必修化
- ・進学率向上のため教育課程の変更

### 【教科指導・授業改善】

- ・授業手法の改善・充実(アクティブ・ラーニングによる授業など)
- ・商業高校の目指すべき方向性について教育内容の検討

### 【商業に関する学科の再編等】

- ・総合学科等に再編(普通科から総合学科、商業科目を選択で置く)
- ・統廃合・学科改編・学級減による「高校の将来構想」
- ・将来構想・将来ビジョンの検討
- ・観光科を設置
- ・スーパーキャリアハイスクール構想の検討

### 【その他】

- ・商業教育に関するアンケートを企業を対象に実施
- ・中学生・企業に専門学科を紹介する冊子を配布
- ・入試改善(前期で募集人員の100%)
- ・グローバルキャリア教育の推進

多くの県において生徒減少に伴う高校再編整備計画が年度進行で進められており、統廃合や学科改編等により商業高校や商業関係学科のクラス数は減少している。こうした中、商業科ではなく普通科や総合学科において商業を学ばせる県は増えてきているように思われる。

一方で、新たに観光科を設置する県もあるなど、地域産業の活性化など、産業界のニーズに応えるための整備も行われている。

**問2 貴都道府県において、商業高校の改革以外に、どのような商業教育の活性化策が行われていますか。**

<p>北海道高等学校長協会商業部会の事業として、商業教育の成果を北海道民に広くPRするため商業フェアの開催(第8回)の開催 教員の資質向上のため、商業教育研究集会の開催(年2回)や分野別教育研究協議会(マーケティング・ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野)、各地区商業教育研究協議会(11地区)を開催 将来の管理職育成のため、商業教育リーダー研修会の開催(北海道)</p>
<p>・高大連携事業(青森)</p>
<p>専門教育の充実と卒業後の進路を見据えた指導ができるよう、総合的専門高校の学科改編を行う予定。(岩手)</p>
<p>・入試倍率を向上させるためのリーフレットの作成や産業教育フェアでの小学生を対象としたキッズビジネスタウンを行うことで、商業高校の良さをアピールしている。 ・検定試験や商業系の競技大会対策として県レベルで教員向けに研修会を実施している。 ・教員の資質向上のための研修会を実施している(実務演習講習会)。(宮城)</p>
<p>六年にわたって商業科職員の新規採用がなく、県全体の商業教育に停滞感が見られるため、「商業教育研究委員会」の中に新たな研究組織を立ち上げ、問題意識の旺盛な中堅・若手教員を主要メンバーとした研究活動を企画して準備を進めている。青森県などが、研究活動に先進的な実績を残しているの、積極的に良いところを学んで生かしていきたいと考えている。(山形)</p>
<p>県の事業である「専門高校と小・中学校のキャリア教育連携事業」を活用し、高校の生徒が地域の小・中学校に出向き商業に関する授業を行う出前授業と、小・中学生が高校に出向き高校の設備等を利用した授業を体験するなど、商業教育の内容や魅力を伝えている。(福島)</p>
<p>普通高校での商業科目理由が増えている。(茨城)</p>
<p>これまでの授業形態は、知識・技能の習得に力を置いていたが、今後は、知識や技能を覚えるだけではなく、活用する力を身に付けなければならない。そのために、AL型授業を推進し、プレゼンテーション・討論や話し合い・課題の解決を通じてより主体的に学習に取り組む必要がある。今年度の栃木県高等学校教育研究会商業部会の商業教育研究委員会において「商業教育における学習指導方法(AL型授業)の研究」を行い、研究の成果を本県の商業科教員に周知する予定である。(栃木)</p>
<p>商業を学ぶ県内高校生と包括連携協定締結企業との共同開発商品企画 商業を学ぶ県内高校生が考案した新商品企画を、群馬県と包括連携協定を締結しているスーパーやコンビニに対して提案し、採用された企画は共同開発し、商品化する。 次代を担う職業人材育成事業 地域産業界や研究機関等と連携して、指定校で実践的授業や実習等を行い、産業界から即戦力として求められる人材の育成を図る。(群馬)</p>
<p>・実践的職業教育グローバル事業(県指導課) →「商品開発能力交流分野」:海外連携、国内連携による商品開発 →「ビジネス力育成分野」:インターネットショッピングモールの運営(埼玉)</p>
<p>若手教員の育成に力を入れている。商業部会の特別委員会として「商業教育キャリアアップ委員会」を設置して、採用2・3年目の商業科教員を対象として、1年間に3回の委員会活動と教科研究を行っている。年度末には、研究内容を報告書としてまとめ、県内各校に配布している。この受講生を指導する委員を商業科の中堅教員を充て、ミドルリーダーとしての育成も図っている。(千葉)</p>
<p>県下のすべての中学3年生に「山梨県商業教育リーフレット」を配布して中学生の商業に関する進路意識の啓発に取り組んでいる。(山梨)</p>
<p>商業教育検討委員会にて、平成30年度から商業科をビジネス科に名称変更し、「東京のビジネス」や「ビジネス・アイデア」など、カリキュラムの改善・充実の構想が検討されている。(東京)</p>
<p>・神奈川県産業教育審議会が今年度より再開され、商業を含む産業教育の活性化に向けた審議が行われる。 ・県立商業高校独自の取組として、グローバル教育推進事業として英語スピーチコンテストやサマーキャンプ(県内施設にて、教育学部大学院生等を講師として、留学生も参加し、英語に触れる機会と異文化理解に繋がる宿泊行事)を実施している。また、教員対象には、若手対象の人材育成研修会を実施している。(神奈川)</p>
<p>以前から、全商協会への加盟校を対象とした研修会や研究大会の開催によって、商業教育の活性化を図ってきましたが、ここ数年は、農業高校や工業高校との連携することによるイベントの開催により、より広く地域にアピールできています。(新潟)</p>
<p>富山県高等学校商業教育研究会の4部会(総合学習部会、簿記部会、商業経済部会、情報処理部会)で定期的に活性化策を協議している。総合学習部会では、「ループブックを用いた評価」について研究し、評価の幅を広げるとともに、評価対象となる商業に関する学習活動の拡大をねらう。(富山)</p>
<p>海外の姉妹校・提携校との交流を、積極的に実施している。(石川)</p>
<p>学校再編が行われ、総合産業高校が設置されている。農業、工業、商業、家政などの学科で構成される。(福井)</p>
<p>県内商業高校が連携して、マーケティングを体系的に学ぶ「マーケティング塾」学びの検証の場「全国合同販売デパートゆにっと」から成る「デパートサミット事業」を行っている。また、「デパートサミット事業」を安定的に運営するため松本大学と県商研との間で連携協定を結んでいる。(長野)</p>
<p>専門高校等に対する理解を促進する方策として、静岡県版産業教育フェアとなる「ふじのくに実学チャレンジフェスタ」を実施するほか、高大連携事業として平成26年度から大学教員による講義、ゼミ等を体験できる「高校生アカデミックチャレンジ」事業、海外インターンシップ(平成27年度)などを実施している。(静岡)</p>
<p>・教員研究研修事業(商業教育フェア、若手教員研修) ・産業教育振興事業(各地区産業教育フェア、地域・企業と連携した商業教育情報発信) ・情報発信事業(パンフレット作成、商業教育振興会HP作成) ・海外インターンシッププロジェクト(愛知県教育委員会主催)(愛知)</p>
<p>岐阜県商業教育研究会において学校を横断した各種教員研修、生徒研修の実施(岐阜)(三重)</p>
<p>商業教育を活性化するため、まず商業科教員の指導力向上及び授業改善を目指して、本年度から県商業教育研究会の中にある各分野の研究委員会の活性化に取り組んでいる(三重)</p>
<p>・「府立高校特色化推進プラン検討会議」が継続的に行われている。各校が独自の企画書を作成し、活性化策が検討されている。 ・京都府と連携し、商業科設置校合同チームによる、海外販売実習(京の食:香港トライアル)を実施予定。(京都)</p>
<p>商業高校のウリを考えたとき、使える英語習得は不可欠。その為、商業科教員に対するビジネス英語講座を企画中(大阪)</p>
<p>職業学科が連携した取組として、教員研修や調査研究の補助、卒業時に優良生徒の表彰をしている。(兵庫)</p>

問3の回答に示したとおり、特色ある商業教育の活性化事業が推進されている。また、特色ある教育課程の設置や校内研修の充実、教員の指導力向上・スキルアップのための研修制度の確立等があげられる。(奈良)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年は全員が3日間、3学年は課題研究において長期のインターンシップを行っている。</li> <li>・楽天IT学校の取組など外部の機関と連携した取組を行っている。</li> <li>・昨年度は販売実習を農業科と一緒に行った。(和歌山)</li> </ul>
各学校の特色を生かした地域との連携を進め、地域における商業高校、商業に関する学科で学ぶ生徒の存在感を高める努力を行っている。(鳥取)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県の県立商業高校4校すべてが、大規模販売実習を行っている。</li> <li>・島根県の県立商業高校4校の情報処理科、情報システム科は企業・島根県商工労働部と連携し、IT人材育成モデル事業を行っている。(島根)</li> </ul>
「持続発展可能な地域を作るために」地域創生プログラムを高校独自に実施している。学校設定科目で地域学を設定し、この科目で地域の基礎的な勉強をして地域の課題を見つけ、空き店舗や空き住宅の利用等を行い、地域の課題解決に取り組んでいる。その成果はESD等でも発表している。(岡山)
大学と連携した7年間の商業教育・ビジネス教育ができないか模索中である。ただし、これには大学の受入体制に加えて、大学の商業高校に対する理解も必要であり、ハードルが高い。(山口)
商業部会において教員を対象に授業力向上研修会を実施(マーケティング分野、ビジネス情報分野)(香川)
地域企業と連携した商品開発やホームページ作成支援活動等を通して地域活性化に努めている。また国際交流(ドイツ・カンボジア)を行うことによってグローバル人材の育成を図っている。(徳島)
「地域人材を活用した土曜教育推進事業」に参加し、地域の専門学校・大学の先生や一般の方でその道に精通している方を講師に指導して頂くことにより、学校では学べないことが学べ、生徒のみならず教員も良い刺激を受け勉強になっている。(愛媛)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産官学連携による社会で流通する本物の商品開発を行い、バイヤー商談会で販路獲得</li> <li>・国公立大学等の推薦入学合格を目指した商業部会主催の生徒合同説明会や合同勉強会</li> <li>・地域と連携した学校デパートによる活性化(4校)(福岡)</li> </ul>
教員研修派遣の予算化(長崎)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日商簿記1級プロジェクト(鹿児島)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での販売実習</li> <li>・県産業教育フェアでの販売実習</li> <li>・校内商業デパート</li> <li>・希望者によるデュアルシステム</li> <li>・校内商品開発コンテスト</li> <li>・エコノミクス甲子園沖縄大会への出場</li> <li>・校内接客マナーコンテスト(沖縄)</li> </ul>

※ 特になし 6校

## <考察>

各都道府県における商業高校の改革以外に、行われている商業教育に関する活性化策について、以下のように整理した。

### 【商業教育振興のイベント等】

- ・産業教育フェアの開催
- ・キッズビジネスタウンの実施
- ・空き店舗、空き家住宅の利用

### 【教員研修、授業改善】

- ・教員研修の実施(検定試験・競技会対応)
- ・アクティブ・ラーニング方授業の推進
- ・商業教育リーダー研修会の開催
- ・中堅・若手教員を主要メンバーとした研究活動を企画
- ・商業科教員に対するビジネス英語講座を企画中

### 【商品開発、販売】

- ・商品開発(企業等との共同商品開発、国内・海外連携)
- ・産学連携による商品開発とバイヤー商談会で販路獲得
- ・インターネットショッピングモールの運営
- ・全国合同販売デパートユニット」、大学との連携協定
- ・インターンシップの実施
- ・地域企業と連携したホームページの作成支援

### 【海外との交流】

- ・海外インターンシップ
- ・海外姉妹校・提携校との交流
- ・海外販売実習

### 【その他】

- ・校内接客マナーコンテスト、校内商品開発コンテスト

教員の人材育成の面では、県としての研修や研究活動を行い商業科教員の専門性や資質の向上に努めているところが多く見られる。具体的には、アクティブ・ラーニング型授業研修、ビジネス英語研修等、産業界から求められる能力を生徒に身に付けさせるための教員研修が行われている。

また、企業と連携した商品開発やグローバル人材育成のための国際交流、大学や自治体との連携協定の締結など、全国的に地域の教育力を活かし商業教育の活性化に取り組む様子が見られる。

**問3 貴都道府県で設置済みあるいは今後設置を計画されている総合学科高校のうち、商業系の教育内容等にこれまでと違った発想を取り入れた学校がありましたら、学校名とその内容をご記入ください。**

中野立志館高等学校 社会人基礎力を取り入れた学習(長野)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県立緑丘商業高等学校(総合ビジネス科、経理科、情報処理科) 平成30年度から総合学科、現在検討中</li> <li>・愛知県立知立高等学校(普通科、商業科、情報処理科) 平成31年度から総合学科、現在検討中(愛知)</li> </ul>
奈良県立二階堂高校は総合学科の高校ではないが、平成27年度より全日制普通科からキャリアデザイン科(総合選択制)へ学科改編がおこなわれた。(奈良)
愛媛県立北条高等学校では、課題研究で北条の特産物のじゃこ天のすり身を使ったジャガイモコロッケ「じゃろっけ」の商品開発し、地域のイベントで実演販売し北条地域の活性化に貢献している。いつかは、ジャガイモ生産からネット販売まで行う六次産業にまで発展できないか、検討中である。また、「じゃろっけ」を超えようと地元の季節の魚や野菜を利用した「ふわバラ丼」を地元の道の駅(ふわり)で販売したり、陶芸用の釜があることを利用して菊間瓦と砥部焼をミックスさせた「風早焼」(陶芸作品)を制作中である。(愛媛)
阿蘇中央高校には総合ビジネス科があり、普通科や農業関連学科等他の学科の生徒も学べる総合選択科目として3年次に2単位の「観光学基礎」を設置している。(熊本)
大分県立三重総合高校がタブレット端末を使った授業展開を行っている。(大分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・霧島高校・徳之島高校</li> <li>・観光に関する教育活動(地域と連携した観光の活性化に資する人材育成)(鹿児島)</li> </ul>
沖縄県内には総合学科設置校が3校ありますが、これまでと違った取組をしている学校はありません。(沖縄)

※ 特になし 29校

**<考察>**

各都道府県に設置(あるいは今後予定される)された総合学科において、商業系の教育内容等でこれまでと違った発想を取り入れた学校の取組例を整理した。

- ・全日制普通科からキャリアデザイン科(総合選択制)へ学科改編(平成27年度より、奈良)
- ・各学校とも地域との連携を深めた特色化を進め、魅力ある学校づくりに腐心(鳥取)
- ・課題研究で特産物を使ったジャガイモコロッケ「じゃろっけ」の商品開発、地域のイベントで実演販売、地域の活性化に貢献(愛媛)
- ・タブレット端末を使った授業展開(大分)
- ・総合ビジネス科、普通科や農業関連学科等他の学科の生徒も学べる総合選択科目として3年次に2単位の「観光学基礎」を設置。(熊本)
- ・観光に関する教育活動(地域と連携した観光の活性化に資する人材育成)(鹿児島)

全国的には総合学科高校の中で、従来の商業系の教育内容等に新たな発想を取り入れている学校は殆ど見受けられない。但し、一部の学校においては、新たに観光に関する学校設定科目を設置したり、授業にタブレット端末を使用したりするなど、新たな取組も行われている。



**問4 貴都道府県の商業関係高校において、観光分野における取組例がありましたら、学校名とその内容をご記入ください。また、今後、新たに取組んでいく計画があればその内容と実施時期をご記入ください。**

<p>北海道虻田高等学校 学校設定科目「地域ビジネス」2単位で対応 洞爺湖 遊覧船ガイド育成プロジェクトを北海道運輸局室蘭支局とタイアップし、取り組んでいる。 主に、地域の観光資産の研究やバスガイドや遊覧船ガイドの講演等及びガイドの体験実習（北海道）</p>
<p>県立青森商業高校 商業研究部 第6回全国高校生観光甲子園 準グランプリ受賞 ・青森空港と青函新幹線をコラボして海外からの観光客を集める企画 県立十和田西高校観光科 ・ボランティアガイド実習として、十和田奥入瀬郷づくり大学との連携による「平成27年度十和田奥入瀬文化観光認定ガイド養成講座」に参加 ・十和田バラ焼きゼミナールに協力しB-1グランプリに参加 観光情報発信の実体験活動を通して地元を知り、地元を誇りを持てる生徒を育てたい。観光資源を学習するだけではなく、実際に観光PRを行い、苦労や失敗を地元の大人たちと共に体験（青森）</p>
<p>松島高校 観光科 平成26年度新設（80名） ホテル実習、観光施設見学、ガイド実習、ボランティア活動、サービスマナー実習等、ホテル・農協・漁協、行政、学校からなる「地域サポート委員会」を設置してより良い教育環境の整備、実習等を模索している。（宮城） ・山形市立商業高校、米沢商業高校、南陽高校でJR東日本と共催の「駅からハイキング」実施 ・新庄南高校、鶴岡中央高校が「観光甲子園」の取組んで優秀な成績を残す（山形）</p>
<p>県立猪苗代高等学校 観光ビジネス科 （平成28年度より従来の国際観光科から観光ビジネス科へ学科改編） 猪苗代町の産業基盤である「観光」を題材にして、より実践的に商業を学習している。 これまで行ってきた「デュアルシステム」も継続して実施している。（福島）</p>
<p>那須高校（リゾート観光科） 普通科とリゾート観光科が併置された高校として観光地「那須」の人材育成を担ってきた学校である。 JR東日本と連携し「駅からハイキング」を企画、実施しているほか、観光地の実情を反映したホテル旅館実習、ゴルフ実習、テニス実習などの体験的活動に力を入れている。また、那須町商工会、観光協会と連携して那須高校開発商品（だっばらクッキー、那須かるた）の販売や那須町のPR活動に積極的に参加し、観光を通じてキャリア教育を推進している。（栃木）</p>
<p>学校又は学科単位での取組事例はない。 部活動における取組として、下記の事例がある。 「利根沼田学校組合立利根商業高等学校パソコン部」 インバウンド観光客の増加を目指し、クラウドファンディングを利用して資金を集め、地域の民話を英訳したミニ絵本を作成・配布した。（群馬）</p>
<p>過去に観光コースを置いた学校があり、県の設定科目として、「観光一般」「旅行業務」がありますが、現在、観光に関する科目を履修している学校はありません。（埼玉）</p>
<p>銚子商業高校の流通ビジネスコースにおいて、学校設定科目「観光ビジネス」（3単位）を設置している。千葉県教育研究会の事業である「拠点校制度」を活用して専門学校の先生を講師として招聘し、「国内旅行業務取扱管理者試験」受験対策講座を開講した。（千葉）</p>
<p>山梨県立笛吹高等学校総合学科では、情報観光系列において、観光に関する科目を開講している。（山梨）</p>
<p>・3年課題研究の中で「観光事情研究」講座を実施している学校1校 ・NPO法人「江東水辺の会」と連携し、お江戸深川さくら祭りにて和船（船から桜を観る）乗船の観光ボランティア活動をしている学校1校（後日追加します。）（東京）</p>
<p>・神奈川県立小田原総合ビジネス高等学校 「課題研究」における、「西さがみの観光ビジネス」としての取組。小田原・箱根を中心に、地元で活躍している方や観光業に関わる企業等を外部講師として招聘し、地域について学び、地元観光及び地域活性化に向けて考える学習活動を行う。 ・神奈川県立相原高等学校 「課題研究」において、「外国人おもてなしコンテスト」への参加。外国の方々楽しんでもらえるアイデアを考える。 ・横浜市立横浜商業高等学校 「課題研究」において、「観光プラン立案」「国内旅行業務理解」「観光学」の3つのテーマで班ごとに取り組んでいる。「観光プラン立案」では、観光プランコンテストへの応募をはじめ、旅行者や横浜市との連携によるレクチャーを行っている。また、「観光学」では、大学との連携によるゼミ形式の講義を予定している。 ・横浜商科大学高等学校 2年次より「国際観光コース」が選択できるカリキュラムを編成。「ホスピタリティ」課題研究では、ホテル実習室を利用し、ホテル業務の実践練習を通して、接客マナー等を身に付けている。また、「観光概論」では、高大連携事業として大学（姉妹校）教員を招き、観光学への興味と基礎知識を身に付けている。（神奈川）</p>
<p>まだ、際立った取組はありませんが、商業教育振興会の定期総会で「富山の観光」をテーマにした講演を企画しました。北陸新幹線開業1年後にスポットをあてた内容でお話をいただく予定です。（富山）</p>
<p>石川県立金沢商業高等学校「生徒による観光ガイド」 県外の小・中・高校修学旅行生対象に、金沢名所「兼六園」にて観光案内をおこなっている。また、石川県観光課と協力し、修学旅行誘致活動を関東地区で実施している。今後は、外国人観光客対象に英語での観光案内を検討している。（石川）</p>
<p>越前市地域貢献活動支援補助金事業にて観光ポスターの作成と「越前市の観光資源の探求と効果的な情報発信」の報告（武生商業高校）（福井）</p>
<p>平成28年度より白馬高校に観光ビジネス科を開設（長野）</p>
<p>伊東商業高校・・・伊東市高校生おもてなし特派員として奈良県まで行き、地元高校生との交流を図った。 土肥高校・・・学校設定科目「伊豆の経済」で伊豆半島の観光プランを検討した。 島田商業高校・・・地元企業と「大井川で逢いましょう」のデジタル観光マップを作成した。また、島田市役所と静岡オープンデータカフェと共同して、バスのロケーションデータ取り(My Tracks)を実施した。（静岡）</p>
<p>愛知県立古知野高等学校 校外学習の実施、外部講師の招聘、長期的・継続的インターンシップの実施の3つを柱に学校設定科目「観光概論（2年：4単位）」「観光地理（2年：3単位）」「おもてなし演習（2年：2単位）」「観光実務（3年：2単位）」を設定 今年度は旅行会社と連携し、更なるインターンシップの充実を図る（愛知）</p>
<p>薬天IT学校による観光プランの企画・販売 地元の特産品等を活用した商品開発（岐阜）</p>

<p>京都すばる高校と網野高校による共同企画：日帰り観光バスツアー  網野高校：丹後活性化プレゼンテーション大会実施  大江高校：日帰り観光ツアー「プラミヤづ」  南丹高校：京都丹波観光甲子園、観光企画プレゼン参加（京都）</p>
<p>大阪市立扇町総合高等学校の観光系列において、外国人向け大阪市内観光プランを提案し、ツアー実施（大阪）</p>
<p>氷上高等学校  将来、地元のボランティアガイドとして活躍することを想定した授業。現役のボランティアガイドが授業でアドバイス（兵庫）  奈良朱雀高校が観光ビジネス科を設置している。教育課程に観光関連の学校設定科目を配置して、社会人講師登用講座、校外研修（大学、専門学校との交流）等実施している。今後の計画としては、海外研修の実施、訪問国の文化に触れるとともに、企業視察・教育施設での交流、語学研修を実施検討（2年希望生徒、夏期休業中）（奈良）</p>
<p>新翔高等学校（総合学科）  ・観光基礎  ・観光実務  ・観光一般（和歌山）</p>
<p>県西部地域において、地域観光資源活用をテーマとした観光に関わる人材育成が話題にはなるが、具体的なものは未定。（鳥取）</p>
<p>・遼摩高校が大田市まちづくり推進課の依頼を受け、地域の観光資源を活かしてマップの作成や観光ルート・商品を提案し、「観光甲子園」へ出場したことがある。ただ、現在は、地元産のお土産商品の開発を依頼され、取り組んでいる。（島根）</p>
<p>昨年度より高校生が考案した地元の日帰りツアープランを競う「もんげー岡山！高校生ツアープランニング・コンテスト」が実施され、ツアープランを紹介するプロモーションビデオを作成し、観光キャラバンとして「とっとり・おかもやま新橋館（東京都）」にてツアープランの紹介・宣伝を行った。今年度は、マーケティング分野運営委員会が高校生の地元発見バスツアーを企画し、そこで考案したプランを県さんフェアでプレゼンする取組を行う。（岡山）</p>
<p>山口県立萩商工高等学校 学校設定科目（商業）「観光一般」  教科「商業」の科目として、地元をまず理解したうえで、観光資源をビジネスにつなげていくための知識を学び、実践につなげていく授業を目指している。学習対象が観光及び観光資源なので、評価の観点としてプレゼンテーションを重視している。（山口）</p>
<p>徳島県立徳島商業高等学校。昨年度、文科省のSPH事業の指定校となり、今年度から学校設定科目「観光ビジネス」を開設した。地元の良さを活かした観光ツアーの実施や京都・沖縄といった観光先進都市からノウハウを学び、地域の活性化に寄与できるように取組を進める予定である。（徳島）</p>
<p>・愛媛県立八幡浜高校商業研究部は、JR八幡浜駅での観光列車JR「伊予灘ものがたり」や、八幡浜港でのフェリーのお見送り・お迎え活動などを行い、八幡浜を訪れる観光客の「おもてなし」をしている。  ・愛媛県立新居浜商業高校では、新居浜太鼓まつりのときに観光客を安全にお祭りを楽しめるよう、「太鼓まつりガイドボランティア」を昨年度行った。  ・愛媛県立松山商業高校では、高校生目線で愛媛の修学旅行のコースプランを立てるなど、今後学校設定科目を立ち上げるか課題研究で、「観光」について学ぶことを検討中である。（愛媛）</p>
<p>高知県立伊野商業高校  ・高知城ガイド実習、町歩き（地域をガイドしてもらい地域を知る）  ・生徒によるバスツアー企画（保護者や教員を対象にガイド案内）  ・観光サミット参加（生徒通しの討論やプレゼン発表）など（高知）</p>
<p>嬉野高校に観光を学べるコースがある。（佐賀）</p>
<p>長崎県立小浜高等学校（ビジネス・観光科、観光・情報コース）  科目：観光一般（2年生で2単位）  内容：観光がもたらす効果、観光用語、観光の仕組み等を広く浅く学習する。  JTB出版の「観光学基礎」というテキストで座学中心。</p> <p>科目：旅行実務（3年生で2単位）  内容：国内外の旅行地理、交通機関、渡航手続き等旅行について深く学習する。  世界のランドマークを調べ学習させたり、時刻表を使い数日分の旅行行程表を作成させたりしている。  1年間に2度、専門学校の先生に来ていただき、観光やホテルに関する講義や実習も実施している。</p> <p>科目：課題研究（3年生で2単位）  内容：半数の生徒が、地域の売店や旅館、事業所などで校外実習を行っている。  週に1度、午後2時から4時まで（長崎）</p>
<p>県立高校には2校の総合学科高校があり、翔陽高校には商業系列、牛深高校には情報ビジネス系列を設置している。2校とも「産業社会と人間」の学習やインターンシップ等を行うなどキャリア教育に力を入れている。（熊本）</p>
<p>大分県立中津東高校が部活動（マーケティング活動）の一環としてコンサートなどのプロデュースを行っている。（大分）</p>
<p>・霧島高校、鶴翔高校、蒲生高校、種子島中央高校、屋久島高校、徳之島高校  ・各地元の地域振興局や市町村観光課、特産品協会、大学、専門学校と連携して、「おもてなし実習」「商品開発」「観光プラン作成」「観光マップ作成」等を計画・実施している。（鹿児島）</p>
<p>具志川商業：出前授業として小学生対象に地域の観光地学習を行い、学習した観光地の案内、新聞づくり指導  八重山商工：①台湾人観光客への通訳、②独自で観光案内を作成し地域住民への観光案内、③観光地の清掃活動  名護商工：①地域の商工会と連携して観光客への名護市内の観光案内ガイド役、②世界遺産等含めた観光史跡めぐり学習  浦添商業：観光教育取組ではないが、模擬披露宴や実際の結婚披露宴を生徒がスタッフとして実施している。（沖縄）</p>

※ 特になし 6校

## 〈考察〉

各都道府県の商業関係高校における観光分野に関する取組例に関して、以下の分類に整理した。

### 【観光に関する学科等】

- ・観光科(宮城・松島高校)
- ・観光ビジネス科(福島・猪苗代高校)
- ・リゾート観光科(栃木・那須高校)
- ・観光ビジネス科(長野・白馬高校、h28より)

### 【学校設定科目】

- ・「地域ビジネス(2単位)」(北海道)
- ・「観光ビジネス(3単位)」(千葉)
- ・「観光概論(4単位)」 「観光地理(3単位)」 「おもてなし演習(2単位)」 「観光実務(2単位)」 (愛知)
- ・「観光一般」(山口)
- ・「観光一般(2単位)」 「旅行実務(2単位)」 (長崎)

### 【生徒による観光ガイド等】

- ・学校設定科目「地域ビジネス」(2単位)で、遊覧船ガイド育成プロジェクトを北海道運輸局室蘭支局とタイアップし、取り組んでいる。地域の観光資産の研究やバスガイド・遊覧船ガイドの講演等及びガイドの体験実習(北海道)
- ・ボランティアガイド実習、観光情報発信の実体験活動を通して地元を知り、地元を誇りを持てる生徒の育成。観光資源を学習するだけではなく、実際に観光PRを行い、苦労や失敗を地元の大人たちと共に体験(青森)
- ・県外の小・中・高校修学旅行生対象に、観光案内。また、石川県観光課と協力し、修学旅行誘致活動を関東地区で実施(石川)
- ・JR東日本と共催「駅からハイキング」実施(山形、栃木)
- ・部活動で、インバウンド観光客の増加を目指し、クラウドファンディングを利用して資金を集め、地元の民話を英訳したミニ絵本を作成・配布(群馬)
- ・①台湾人観光者への通訳、②独自で観光案内を作成し地域住民への観光案内、③観光地の清掃活動(沖縄)

### 【地域等との交流】

- ・高校生おもてなし特派員として奈良県まで行き、地元高校生との交流(静岡)
- ・地元企業と「大井川で逢いましょう」のデジタル観光マップを作成(静岡)
- ・日帰り観光バスツアー(2校の高校による共同企画:京都)
- ・地元の地域振興局や市町村観光課、特産品協会、大学、専門学校と連携し「おもてなし実習」「商品開発」「観光プラン作成」「観光マップ作成」等を計画・実施(鹿児島)

### 【授業等】

- ・学校設定科目「伊豆の経済」で伊豆半島の観光プランを検討(静岡)
- ・旅行実務(3年生で2単位)、国内外の旅行地理、交通機関、渡航手続き等旅行について深く学習。世界のランドマークを調べ学習さ、時刻表を使い数日分の旅行行程表を作成(長崎)

### 【資格取得】

- ・学校設定科目「観光ビジネス」(3単位)を設置、専門学校の先生を講師として「国内旅行業務取扱管理者試験」受験対策講座を開講(千葉)

### 【コンテスト等への参加】

- ・全国高校生観光甲子園に参加(青森、山形)
- ・外国人おもてなしコンテストへの参加(神奈川)
- ・観光サミットに参加(高知)

### 【その他】

- ・①地域の商工会と連携して観光者へ市内の観光案内ガイド役、②世界遺産等含めた観光史跡めぐり学習(沖縄)
- ・観光教育取組ではないが、模擬披露宴や実際の結婚披露宴を生徒がスタッフとして実施(沖縄)

全国の商業関係高校において観光系の学科を設置している高校は少ないが、近年の観光ニーズの高まりから新たに観光系の学科を設置する動きも見られる。

観光分野の学習は、学科やコースの設置校において学校設定科目や課題研究、商業部等の部活動で実施しているところが多く、具体的には、ホテル等の宿泊施設での実習、県や市、商工会等と連携した観光ポスターや観光マップの作成、観光ガイド、バスツアー等の観光プランの企画など、体験的な学習を行っている。

今後の計画としても、地域の観光開発・活性化に寄与する取組を推進したいと考えている学校が多く見受けられる。

## まとめ

これまで商業教育は、地域と連携し協力を得て教育活動の充実を図ってきました。その一例として、商品開発、販売実習、国際交流、模擬株式会社の運営、地域のイベントへの参加や活性化の提案等、様々な学習活動を展開し、生徒の起業家精神、勤労観・職業観、倫理観の涵養や、コミュニケーション能力等を育成するなど地域に根ざした人材育成を進める商業高校として信頼されています。このような商業教育の取組を評価し、文部科学省は、「地方創生を担う人材の育成について」（平成26年10月9日）において、専門高校が地域産業で活躍する実践的専門職業人を育成していると述べています。

全国商業高等学校長協会では、「学習指導要領改訂への提言」を行い、全国から寄せられた意見をもとに、分析・整理した結果、今後の商業教育では、地域における実際のビジネスに即した実践的、体験的、探究的な学習活動を更に推進して、生徒が自律的で持続的な社会を創生できる力を身に付けることが極めて重要であると考えました。そこで、次期学習指導要領に向け、地域創生における商業高校の現状、これからの商業高校像、商業高校生の育成、各県等の取組について「地域創生に資する商業教育の在り方について」というテーマで全国100校にアンケートをお願いした結果を集約し、今回の本部提案としました。

専門高校をはじめとし、地域創生、地域の特色化を支援する高等学校の役割は、益々期待されています。地域のものづくりとの連携、また、地域の特色あるものづくり、サービス、高度な日本技術を広く紹介するアイデアなどを生徒に考えさせ、生徒の将来の仕事、充実した市民生活、家庭生活、職業生活に繋いでいくことが大切です。この冊子には、現行学習指導要領が示す確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」の理念の基に「基礎的・基本的な知識・技術の習得、それらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成、自ら学習に取り組む態度の育成」における全国の実践成果が集約されています。その結果、従来から、商業教育は単なる知識の詰め込みではなく、学習成果を活用し実践する教育を行っていることがより明確となりました。

平成27年8月に中央教育審議会教育課程企画特別部会から示された「論点整理」の方向に沿って検討を重ねた産業教育ワーキング・グループのとりまとめには、次期学習指導要領改訂に向け、商業教育の改善・充実として、以下のことがまとめられています。

- 経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善を図る。
    - ・観光に関する知識と技術を習得させ、観光の振興に取り組む態度を育成する学習の一層の充実
    - ・ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習の充実
    - ・マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得
    - ・ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実
    - ・経済のグローバル化に関する学習の充実
    - ・情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習の充実
    - ・プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の一体的な習得
    - ・情報通信ネットワークの構築・運用管理とセキュリティに関する学習の重点化
- 全国の実践事例を各校の今後の取組の参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、大変お忙しい中を、アンケート調査にご回答いただきました全国の校長先生方に心より感謝申し上げますとともに、本資料を積極的に活用いただき、今後の商業教育の充実・発展の一助になることを願っております。

## 本部提案テーマ一覧

昭和60年 5月	理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について
昭和60年10月	理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況
昭和61年 5月	企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について —アンケート調査に基づいて—
昭和61年10月	就職状況の変化に対応する進路指導対策について —アンケート調査に基づいて—
昭和62年 5月	商業科に関する新しい小学科の設置状況について
昭和62年10月	生徒の急減期における商業高校としての対応
昭和63年 5月	教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望 —アンケート調査に基づいて—
昭和63年10月	将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて—
平成元年 5月	時代の変化に対応する商業教育の展望 —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成元年10月	高等学校学習指導要領の実施にむけて —教科「商業」にかかわる—問—答集—
平成2年 5月	問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開 —課題研究—の研究と実践の推進—
平成2年10月	高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方 —新学習指導要領の取り扱いと学校における対応—
平成3年 5月	21世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて—
平成3年10月	21世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて—
平成4年 5月	生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して—
平成4年10月	新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成
平成5年 5月	商業教育に関する「聴取り調査」報告
平成5年10月	商業に関する学科の特色化・個性化について —教育課程を中心として—
平成6年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—大学進学—
平成6年10月	進路の多様化に対応する商業教育 —専攻科及び高等専門学校の構想—
平成7年 5月	進路の多様化に対応する商業教育—就職指導—
平成7年10月	高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題—
平成8年 5月	社会の進展と商業教育の充実 —これから求められる専門教育の育成—
平成8年10月	社会の進展と商業教育の充実 —商業教育における基礎・基本の内容をさぐる—
平成9年 5月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —「生きる力」の育成に対応するための商業教育—
平成9年10月	21世紀を展望した商業教育の在り方について —社会の変化に対応した商業教育—
平成10年 5月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —新しい情報処理教育の在り方について—
平成10年10月	完全学校週五日制における商業教育の在り方 —地域や産業界との連携と開かれた商業教育について—
平成11年 5月	社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方 —新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題—

平成11年10月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—
平成12年 5月	高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成12年10月	就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方
平成13年 5月	21世紀における商業教育—大学から見た商業教育—
平成13年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校からの大学進学—
平成14年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校が育成する商業高校生像—
平成14年10月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における学校改革—
平成15年 5月	21世紀における商業教育の在り方—商業高校における起業家育成教育—
平成15年10月	21世紀における商業教育の在り方 —学校・企業・地域等との連携を考える—
平成16年 5月	全商本部提案要約集—平成元年～平成15年度—
平成16年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)—
平成17年 5月	21世紀における商業教育の在り方—生徒の職業観・勤労観を考える—
平成17年10月	次期学習指導要領に向けて—現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ—
平成18年 5月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成18年10月	学習指導要領改訂への提言
平成19年 5月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について
平成19年10月	生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について ※ 冊子なし
平成20年 5月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成20年10月	これからの商業教育の実践—商業教育を担う人材の育成について—
平成21年 5月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —教科「商業」に関する一問一答集—
平成21年10月	新高等学校学習指導要領の実施に向けて —新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成22年 5月	新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題
平成22年10月	新高等学校学習指導要領と今後の商業教育
平成23年 5月	キャリア教育の現状と課題について
平成23年10月	キャリア教育・商業教育の在り方について —生徒のよりよい進路実現を目指して—
平成24年 5月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅠ —魅力ある商業教育の発展を目指して—
平成24年10月	新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進 そのⅡ —魅力ある商業教育の発展を目指して— ※ 冊子なし
平成25年 5月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅠ —商業教育の質の向上を目指して—
平成25年10月	思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進 そのⅡ —商業教育の質の向上を目指して—
平成26年 5月	全商本部提案要約集—平成16年度～平成25年度—
平成26年10月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅠ—
平成27年 5月	次期学習指導要領改訂に向けて —現行学習指導要領に基づく教育課程(商業)の実施状況と課題 そのⅡ—
平成27年10月	学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成28年 5月	学習指導要領改訂への提言

## 地域創生に資する商業教育の在り方について

発 行 平成28年10月6日  
発行編集 全国商業高等学校長協会  
商業教育対策委員会  
事 務 局 全商協会  
〒160-0015  
東京都新宿区大京町26番地  
T E L 03-3357-7911  
F A X 03-3341-1039